

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県鯖江市

自治体名：福井県鯖江市

担当課名：学校教育課 スポーツ課

電話番号：代表 0778-53-2260

1.自治体の基本情報

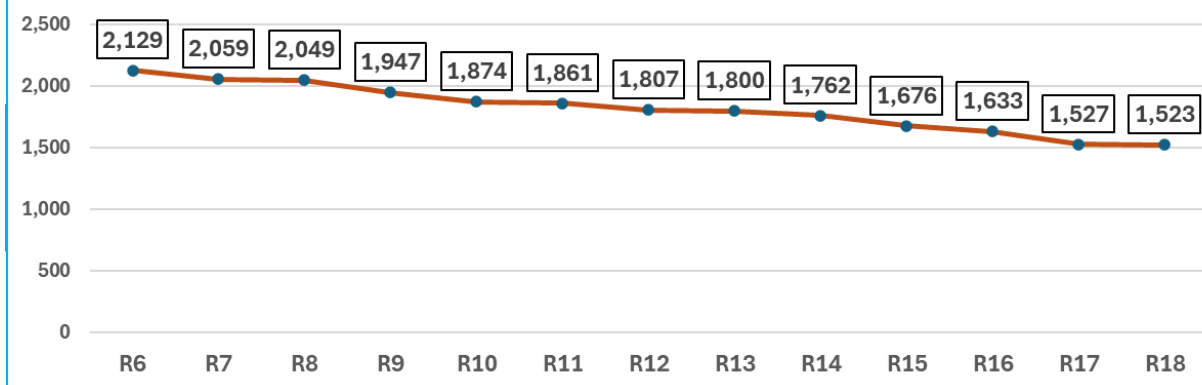
基本情報

面積	84.59km ²
人口	68,179人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	2,049人
部活動数 (運動部活動のみ)	42部活
地域クラブ活動数	51クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- 本市の中学校は、大規模校2校、中規模校1校であり、現在、少子化による学校部活動存続等の問題は出ていない。
- 本市地域展開の取組は、令和3年度より国のモデル事業を実践から始めている。
- 令和4年度に協議会を設置し、中学校区にある3つの総合型地域スポーツクラブを運営団体、傘下の種目を実施主体とすることとした。また、基本方針において、令和5年度から7年度までを学校部活動と地域クラブ活動の併存期間（連携・協働）とし、令和8年度より本格開始できる体制づくりを進めている。
- 活動拠点は中学校施設を主会場とし、市内施設も活用している。
- 会員になった中学生は、どのクラブにも参加できるよう、3クラブ合同での個人保険加入、また、団体としての責任を持ち、物品等の破損補償や運営団体での損害賠償対応のため、団体保険に加入している。
- 「クラブ組織再編委員会」を設け、新しい会費の設定および持続可能な運営団体育成を目指すため、将来に向けたクラブ再編等を学識経験者からも意見を聞き、来年度は事務局の統一化、将来的にはクラブ統合することとなった。

鯖江市中学校生徒数推移

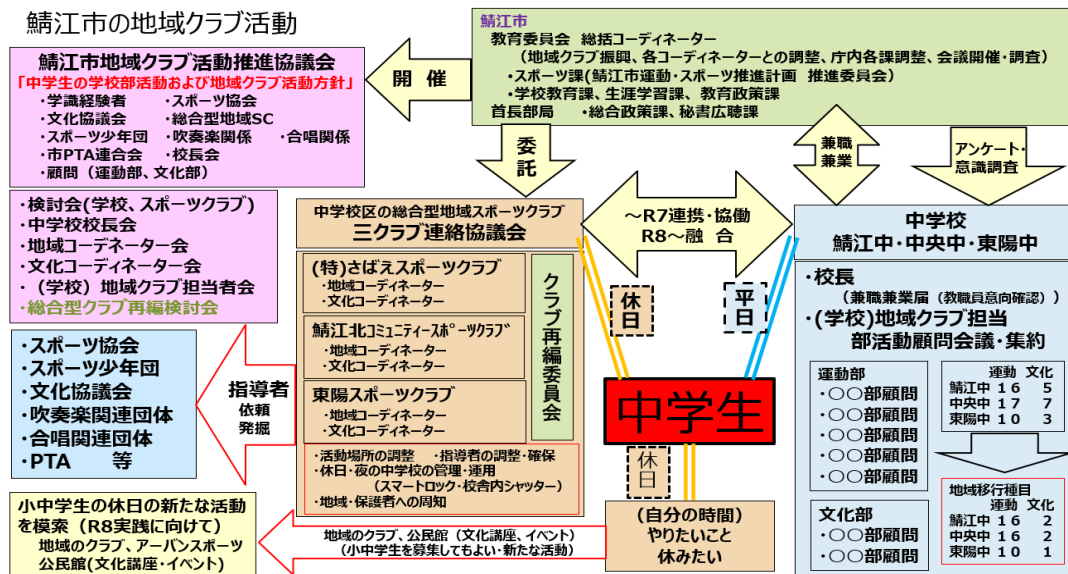


出典：鯖江市教育委員会資料抜粋

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図 ※次項に拡大図有



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課、スポーツ課、生涯学習課、教育政策課）

- ・学校教育課・・・学校部活動、教職員兼職兼業、中体連予算、準要保護
- ・総括コーディネーター・・・地域展開構想、計画作成、教育委員会・市長部局との調整、クラブ運営助言、地域クラブ関係会議開催、関係団体との調整
- ・スポーツ課・・・総合型地域スポーツクラブ、学校開放、公認指導者資格、運動・スポーツ推進計画
- ・生涯学習課・・・公民館活動（休日文化講座小中受け入れ）
- ・教育政策課・・・学校施設整備、管理

◎首長部局（総合政策課、市長広聴課）

- ・総合政策課・・・スポーツSDGs（指導者研修会開催）
- ・市長広聴課・・・市広報誌での地域展開周知

年間の事業スケジュール

令和7年

毎月開催 三クラブ連絡協議会

4月、9月、1月開催

学校・・・中学校長会、（学校）地域クラブ担当者会
クラブ・・・地域・文化CD会、各クラブ事務局説明会

4月 各スポーツクラブ役員への説明会

クラブ組織再編委員会

5月 各中学校PTA総会への出席（各クラブ理事長説明）

クラブ組織再編委員会

6月 三クラブ打合せ会

7月 クラブ組織再編委員会

鯖江市運動・スポーツ推進計画 推進委員会

8月 関係団体との調整会議

9月 三クラブ広報委員会

10月 クラブ組織再編委員会

地域クラブ活動検討会

11月 三クラブ広報委員会、三クラブ打合せ会

令和8年度各中学校入学説明会

12月 教育委員会（令和7年までの活動、令和8年以降の活動説明）

地域クラブ活動推進協議会（新会費、ガイドライン）

三クラブ広報委員会

1月 鯖江市地域クラブ活動推進協議会

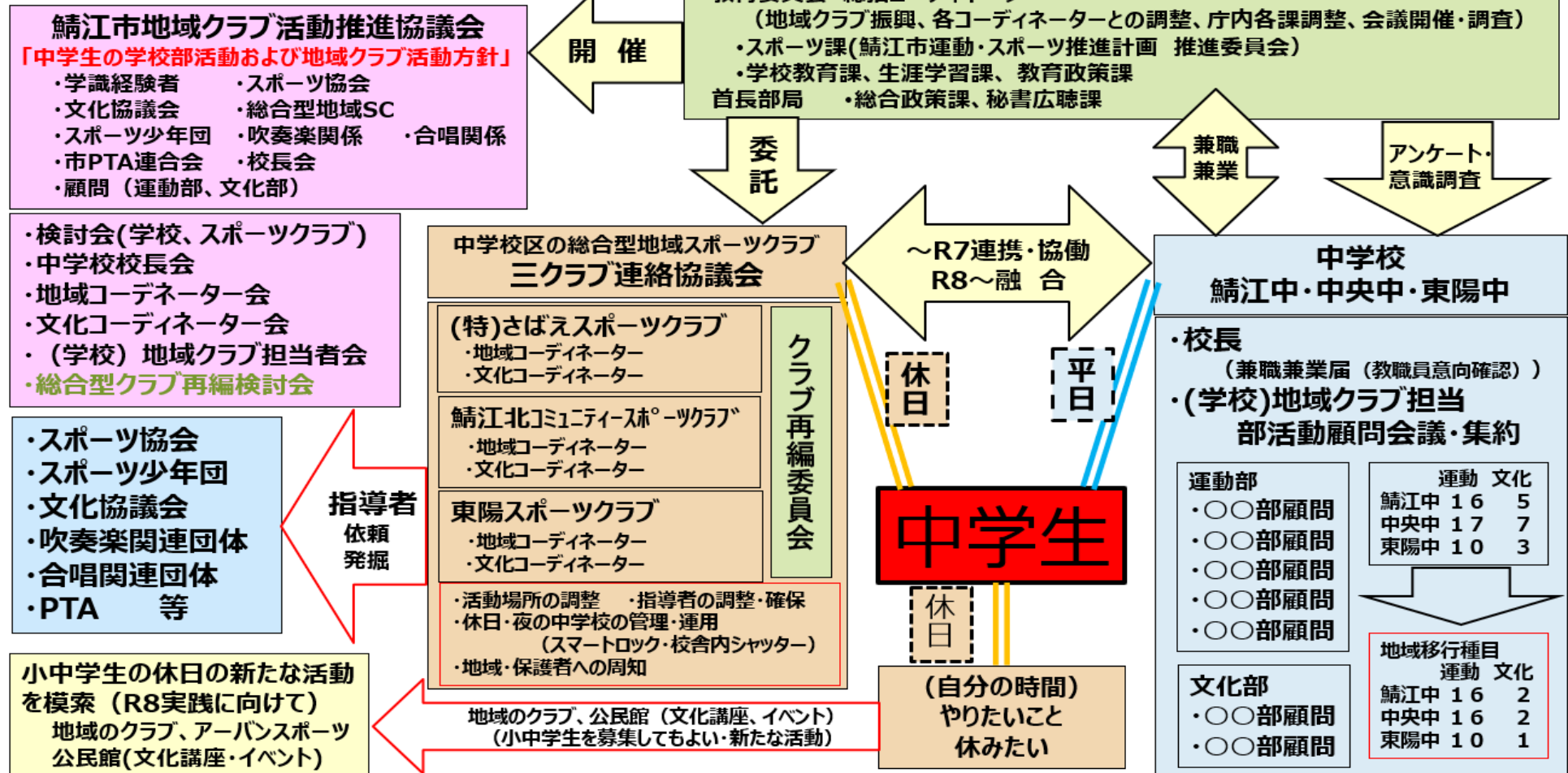
2月～3月 関係団体・学校・保護者向け説明

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

鯖江市の地域クラブ活動



2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		51クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	41クラブ（41部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	9クラブ	
全体の指導者数	146人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（中学生活動）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
(特非) さばえスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、新体操、ホッケー	・休日4回 (月)	休日 9:00～17:00 (約3時間)	中学生 (1～3) (陸上) 小中高校生	4月～3月	57人	3人	6,000円 /年額	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
		なぎなた、硬式テニス、ボクシング、合気道	・平日（週） 1回～2回 ・休日（週） 0回～1回	平日 18:00～20:00 休日 9:00～16:00 (約3時間)	小中学生 (合気道) 一般も含む		—			地域クラブ
東陽スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、剣道、軟式野球、卓球	・休日4回 (月)	休日 9:00～17:00 (約3時間)	中学生 (1～3) (陸上) 小中高校生		39人	1人		中体連： 部活動 その他： 地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
鯖江北コミュニティスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、バドミントン	・休日4回 (月)	休日 9:00～17:00 (約3時間)	中学生 (1～3) (陸上) 小中高校生 ※3クラブ合同	4月～3月	50人	1人	6,000円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
		なぎなた、硬式テニス 少林寺拳法	・平日(週) 1回～2回 ・休日(週) 0回～1回	平日 18:00～20:00 休日 9:00～16:00 (約3時間)	小中学生 (少林寺) 一般も含む		—			地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 三スポーツクラブ 会員募集チラシ内で活動紹介（市内全戸配布）
- 2月鯖江市広報誌 地域クラブ活動本格実施・会費説明（市内全戸配布）
- 各運営団体
 - さばえスポーツクラブ
 - ・スラックライン（アーバンスポーツ）を毎週定期開催
一般、親子での参加実績。
中学生も参加することがあるが、夜開催のため多くは見られない
 - ・ショートテニス（ニュースポーツ）を毎週定期開催
一般、親子での参加実績。
ソフトテニス部に所属している中学生の参加があるが、夜開催のため保護者送迎が可能な中学生が参加。
 - 鯖江北コミュニティスポーツクラブ イベント BMX、パルクール体験会 募集は市内小中学生
 - 東陽スポーツクラブ イベント 「ウォーターフェス」
 - ・東陽中学校区の公民館と協力し、中学生が企画したイベントを開催

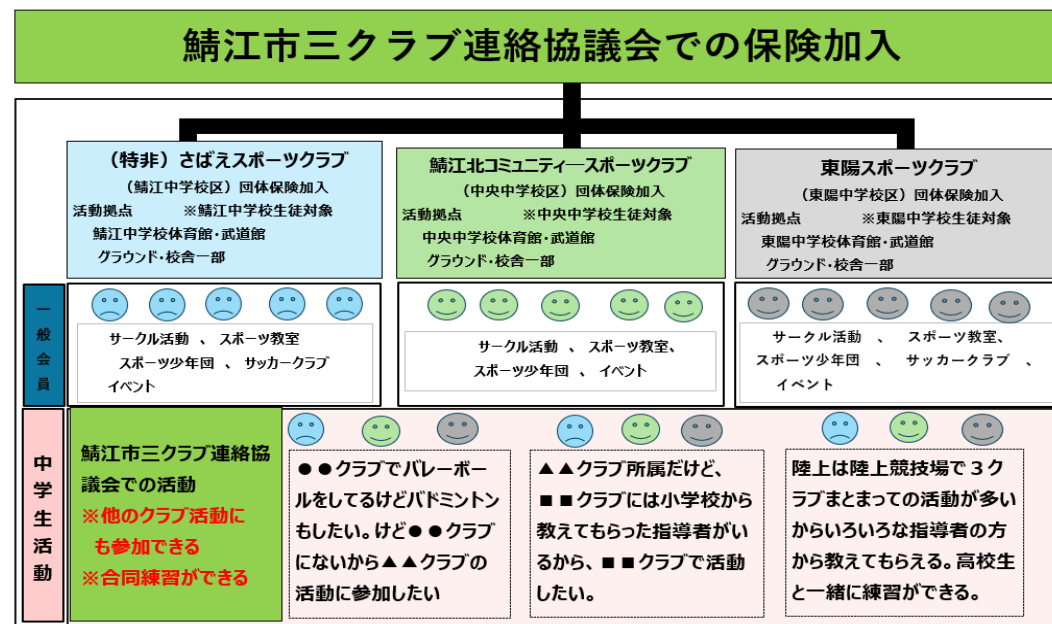
2.実証内容と成果

主な取組例

●三クラブ連絡協議会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、バドミントン、新体操、ホッケー
運営団体名	鯖江市総合型スポーツ三クラブ連絡協議会 ※令和8年～事務局一本化、今後組織再編 (特非) さばえSC、鯖江北CSC、東陽SC ※三クラブともJSPO登録クラブ
期間と日数	全種目：令和7年4月5日 ～ 令和8年3月29日 月4回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ指導者 兼職兼業（教員）、保護者
活動場所	中学校体育施設 社会体育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	クラブ会員費（運営費） 年会費 6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人：800円/年 指導者1人：1,850円/年 団体保険 各クラブ：約100,000円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図 ※次項に拡大図有

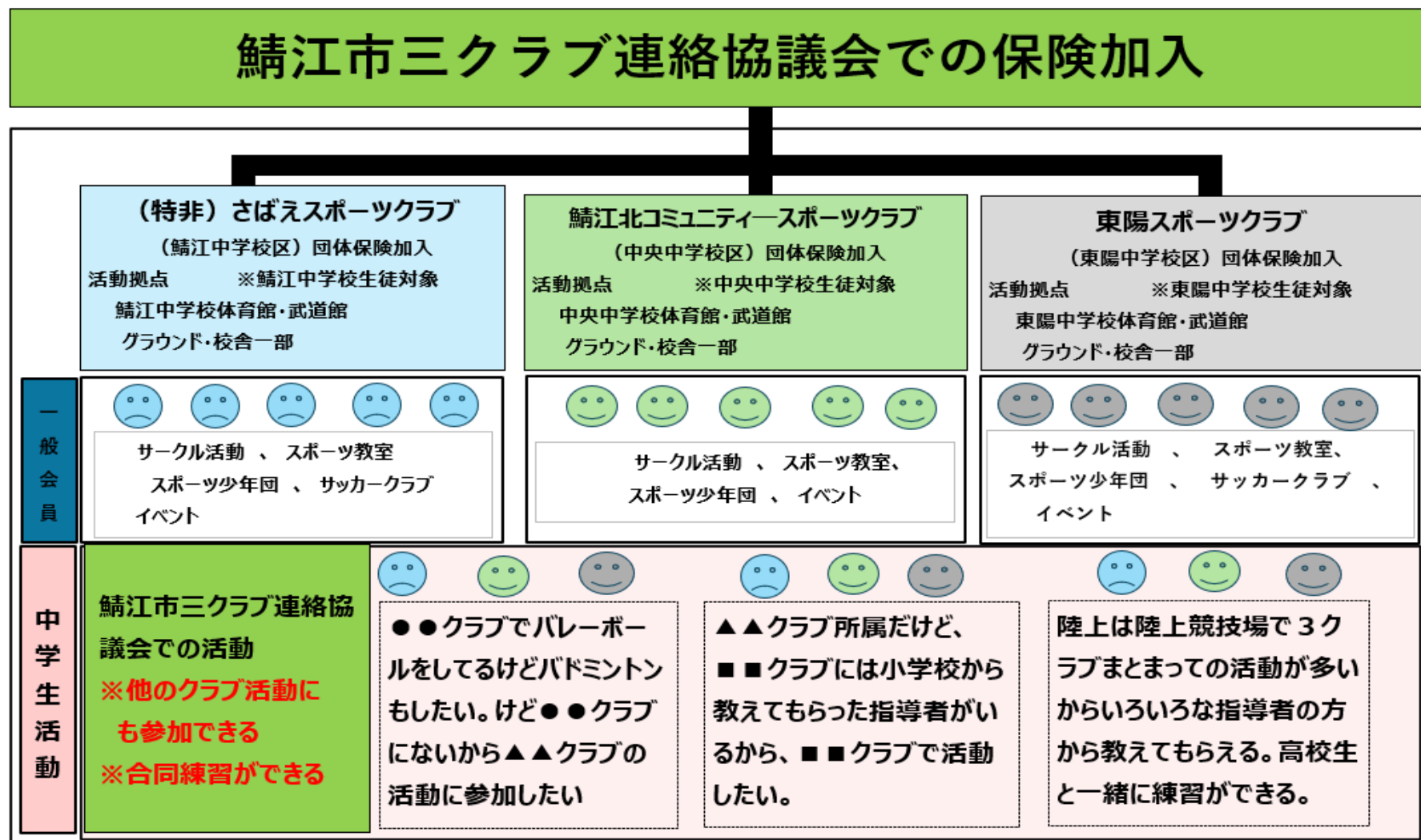


●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 自治体 役割：総括のコーディネート（地域コーディネーター、各クラブからの相談対応）
- 統括責任者（各クラブ地域コーディネーター 3名）
役割：各種目の指導者との連絡調整、他クラブで活動したい会員（中学生）サポート
指導者の質の向上と量の確保に向けた取組（研修会参加依頼等）
各種トラブルへの対応
- 運営スタッフ 5名
役割：学校体育・校舎施設調整、社会体育施設での合同練習時の施設調整
指導者謝金関連業務、会員相談窓口

主な取組例

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）
運営団体に、責任ある運営・危機管理マニュアルの作成・会員が満足できる活動・保護者の不安解消等の指導・助言・協力を実施
- 実施主体でのトラブル
実施主体（各種目）の状況把握を地域コーディネーターに依頼し、様々な課題に対し、解決に向け市とクラブで協議しながら対応
- 関係団体との協議・調整（スポーツ協会等）
令和8年度の完全実施に向け、指導者が不足している種目の再確認を運営団体である各総合クラブ（地域コーディネーター）に依頼。
不足する種目指導者依頼をスポーツ協会（種目協会）に市と三クラブで直接依頼
- 企業・大学との連携・調整（指導者派遣等）

取組の成果

- 「クラブ組織再編委員会」を設置し、新会費を決定、10数年来協議できなかったクラブ再編の動きが活発化し、令和8年度からは、事務局が統一されることとなった
- 企業・大学との連携ができる目途が立った

今後の取組における課題

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）の発展
今まであった組織を再編することは、各クラブ役員等にも納得のいく説明が大切であり、相当な熱意と労力が必要
- 実施主体での様々な課題
現場で起こる課題に対して、地域コーディネーターが対応しているが、対応する内容、事柄が多い

課題への対応方針

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）の発展
国のスポーツ基本計画、中学校部活動の地域展開等をどのようにしていくのか等、将来を見据えた取組であることを説明
持続可能な運営を目指し、クラブ運営の課題を整理して協議することが大切
今はよいタイミングであることを伝えるための市スポーツ全体ビジョンが必要
- 実施主体での課題解決
令和8年度から、三クラブ事務局が一本化することにより、様々な課題を共有
地域コーディネーターだけでなく、事務局も対応

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 総括コーディネーター
 - ・ 市全体の総括、各クラブ（運営団体）への指導・助言・調整
 - ・ 会議全般総括
協議会、検討会、各コーディネーター会、校長会、学校担当者会
クラブ再編、新会費等調整会議（クラブ組織再編委員会）
 - ・ 関係団体との協議・調整（スポーツ協会等）
 - ・ 企業・大学との連携・調整（指導者派遣等）
 - ・ 市全体関連周知活動、問合せ等対応
- 地域コーディネーター
 - ・ 各クラブ（運営団体）運営、地域・保護者への周知
 - ・ 指導者関連（発掘・育成・調整等）
 - ・ 学校との報告・連絡・相談・調整

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 「クラブ組織再編委員会」を開催し、クラブ一本化の動きを加速
 - ・ 令和8年度より三クラブの事務局を一本化
 - ・ 事務・手続き等を協力して取組める体制を整備
 - ・ 実施主体で起こる様々な課題に対し、事務局も協力し、迅速に対応
 - ・ コミュニケーションアプリを採用し、クラブと指導者間の連絡・調整、参加者の出欠確認、活動場所の変更、運営団体と会員（保護者・中学生）との連絡・コミュニケーション力のアップ

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 令和8年度完全実施に向け、市とクラブで運営・指導者手引きを作成中
- 指導者の質の保障
公認指導者資格取得支援（鯖江市）
- 運営団体
3つの総合型地域スポーツクラブは登録団体（JSPO）
クラブ再編後、法人クラブで認定団体（JSPO）を目指すことをクラブ間で共有（現在1クラブはNPO法人格取得）
※（特非）さばえスポーツクラブ
公認会計士を会計監査・相談役、役員に社会保険労務士を入れ運営

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- トラブル・事故関連責任は、運営団体（総合型地域スポーツクラブ）
令和5年鯖江市方針
- 事故発生時の対応は指導者手引きによる研修において実施予定
（令和7年作成、協議会合意、令和8年度より実施）
 - ・ けがや熱中症等の防止・予防
 - ・ 事故対応・連絡、校舎・体育館等管理
 - ※ 運営団体（クラブ）、実施主体（指導者）
 - ※ コミュニケーションアプリ活用

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者の質の保障
 - ・ 公認指導者資格種目に対し、本市は運営団体（総合型地域スポーツクラブ）に支援。指導者謝金を無資格指導者より1時間200円多く謝金を支給
 - ・ 指導者研修会を開催し、実施主体、運営団体、スポーツ協会、市内高校生が参加し、経験をもとにした選手側の気持ち、指導者側の育成手順、言葉かけ等の話を聞き、質疑応答を行った
 - ・ 中学生、保護者に信頼される地域指導者、持続可能な活動・運営とするため、運営団体と学校が認めた指導者を配置
 - ・ パワハラ等県主催研修会への参加
- 指導者の量の確保
 - ・ 令和8年度完全実施に向け、運営団体に対して指導者不足の確認
 - ・ 不足指導者をスポーツ協会、保護者・企業等に依頼

取組の成果

- 指導者の質の保障
 - ・ 指導者から要望のあった公認資格取得に対応できた（公認・パラスポーツ）令和8年以降も継続。
 - ・ 指導者研修では、地域指導者、高校生から多くの質問があり、選手育成の機運が高まった。
- 指導者の量の確保
 - ・ 保護者で指導してもよいと申し出る方が出てきた。

今後の取組における課題

- 指導者の質の保障
 - ・ 公認指導者資格取得する経費・時間がない等の意見があり、無理に取得するようには依頼できない。
 - ・ ICTを活用しての指導に対し、事前準備・当日準備・終了後の中学生へのアフターケア等に対し懸念を示す意見が多く出た。令和8年度実施により反省点を出すこととなった。
- 指導者の量の確保
 - ・ 関係団体（スポーツ協会の種目協会）に依頼するが、会員不足・高齢化等の諸問題を抱えている状況のところが多い。
 - ・ 指導者で保護者の場合、子どもとともにやめていく方が出てきたことで、持続可能な活動かどうかの議論が出てきた。

課題への対応方針

- 指導者の質の確保
 - ・ 公認指導者資格取得を地道に依頼する
 - ・ ICT活用での指導は、令和8年度実施により反省点を出すこととなった
- 指導者の量の確保
 - ・ 関係団体はもちろんのこと、総合型地域スポーツクラブが持つ地域情報をもとに個別に依頼していく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 企業・大学に指導者派遣等の協議を行った
 - ・ 企業・大学の指導者派遣に関して、令和8年度より前向きに検討する体制が整いつつある（具体内容を企業・大学と協議し、次年度から実施予定）
 - ・ 企業からの指導者派遣が決定した際、市・運営団体・企業での3者協定を締結準備はできたが、企業採用に関し、様々な理由で成功事例がでてこない
 - ・ 大学からは、学生の指導者のサポート派遣での単位制の確約を取り、次年度より配置予定・企業・大学の指導者派遣等は、互いのメリットを協議し、企画していくことが必要

指導者研修の内容

研修名	子どもたちの個性と成長を育む
講師	阿波野秀幸 (元プロ野球選手、コーチ)
研修内容	野球を通して培った人生観とプロ野球に学ぶジュニア世代の指導で大切なことや、子どもたちのモチベーションをアップさせるコミュニケーション等 参加対象 地域クラブ活動指導者 地域クラブ活動運営団体 スポーツ少年団指導者 高校（地元高校野球部員・指導者）

指導者研修会での質疑応答

- 子どもたちの個性を伸ばし、コミュニケーション能力を上げる方策
 - ・ プロにおいても大切であることが分かり感謝、中学生の指導には更に大切であることを理解したが、どのような言葉かけが子どもに伝わるのか。経験上でよいので教えてほしい
- 少子化以上にスポーツや文化活動をする子どもが減っている。スポーツ・文化を好きになる方法はないものか
 - ・ 子どもには成功体験、それをほめるタイミング、指導者の姿勢等様々な要素が絡み合い成長していく。
 - ・ 指導者は日々子どもの姿、活動に気を配っていくようにすることが大切

●参加者の声

参加者①

市内小中高校の指導者が一同に集まり互いの話を聞くことは有意義であった

参加者②

・ 高校生が質問している姿を見て、野球を小中高校と続け、様々な経験の下、成長している姿を見て、続けることの大切さが改めてわかった

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

めがねのまちさばえ応援プロジェクト 令和6年度ジュニアスポーツ指導者研修会

子どもたちの個性と成長を育む

野球を通して培った人生観とプロ野球に学ぶジュニア世代の指導で大切なことや、子どもたちのモチベーションをアップさせるコミュニケーションなどを伝えます。



講師

阿波野 秀幸氏

プロ野球解説者／元プロ野球投手／元プロ野球コーチ

MAX149キロの直球と伝家の宝刀シンカーを武器に、プロ入団1年目からエースとして活躍した栄光の左腕。大学野球で活躍し、1986年に近鉄に入団。1989年の最多奪三振と最多勝利、悲願のリーグ優勝など球史に鮮烈な記憶を残すとともに「トレンディーエース」と呼ばれて人気を博した。現役引退後は、コーチを歴任。現在は、解説などメディア活動に従事。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

参加対象

- ▶ 鯖江市内総合型地域スポーツクラブ指導者(中学校部活動地域移行関連)
- ▶ 鯖江市内野球スポーツ少年団登録指導者

要事前申込

令和7年3月7日(金) 必着

※ 急遽欠席の場合は申込先にご連絡をお願いします
※ 部活動移行関係者は、講座後に各クラブで協議を開催する予定です

申込問合せ

- ▶ 中学校関連指導者
さばえ SC
鯖江北 CSC
東陽 SC
- ▶ スポーツ少年団(野球)指導者
鯖江市教育委員会
スポーツ少年団事務局

令和7年
3月14日(金) 18:00より受付開始
18:30～

鯖江市鶴陽会館
多目的ホール

さばえSDGs推進センター
Sabae SDGs Center

鯖江市教育委員会 鯖江市三クラブ連絡協議会(総合型地域スポーツクラブ)
(一社)日本スポーツSDGs協会 株式会社GAORA この都ネットワーク

※出展元：鯖江市教育委員会

令和7年度 指導者研修会

子ども達のモチベーションを引き出す
サポートとコミュニケーション

「そこが知りたかった！」

お悩み解決のヒントが今日ここに！」

はやし しんいちろう

講師：林 慎一郎氏

R5年4月 福井工業大学附属福井高校 勤務
R7年7月 岡山インターハイベスト16(県総体優勝)
R7年12月 ウインターカップ 出場(県予選優勝)

期 日：令和8年3月6日(金) 19:00～

会 場：鯖江市総合体育館 第1研修室

参加料：無 料

経 歴

(競技歴)
北陸高校 1982年3月 卒業 バスケットボール部主将
日本体育大学入学 1982年4月 入学 バスケットボール部
日本体育大学卒業 1986年3月 卒業
福井県立福南養護学校 1986年4月 国体選手

(足羽高校指導歴)
福井県立足羽高校 1989年4月 足羽高校女子バスケットボール部監督 33年勤務
全国高校総体 13年連続29回出場 ベスト8 3回
全国選抜優勝大会 11年連続28回出場 3位・4位各1回 ベスト8 3回
北信越新人大会 14回 優勝
北信越大会 12回 優勝
国民体育大会 3位3回 5位3回

(日本代表指導歴)
U-18・19 アシスタントコーチ(2002～8年)
U-16・17 ヘッドコーチ(2009～16年)
2004年10月 U-18 アジア大会(台北) アシスタントコーチ 4位
2006年 2月 U-18 アジア大会(タイ) アシスタントコーチ 準優勝
2007年 7月 U-19 世界選手権(スロバキア) アシスタントコーチ 12位
2008年10月 U-18 アジア大会(インドネシア) アシスタントコーチ 優勝
2014年10月 U-18 アジア大会(ヨルダン) アシスタントコーチ 準優勝
2009年10月 U-16 第1回アジア大会(インド) ヘッドコーチ 準優勝
2010年 7月 U-17 第1回世界選手権(フランス) ヘッドコーチ 5位
2011年11月 U-16 第2回アジア大会(中国) ヘッドコーチ 優勝
2012年 8月 U-17 第2回世界選手権(オランダ) ヘッドコーチ 4位
(ファイナル4進出)
2016年 7月 U-17 第4回世界選手権(スペイン) ヘッドコーチ 9位

子どものモチベーションを
上げるには？

コミュニケーションの
取り方を教えて！

教えたことが
伝わっているのかな？



申込、問合せ先

特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ
TEL
mail

※出展元：特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

「鯖江市運動・スポーツ推進計画」推進委員会において、令和7年度より公認資格取得、吹奏楽部活動指導員支援を決定。

上限2万円（文化8,000円とし、資格取得後に運営団体より申請）

対象

- ・ 中学校地域クラブ活動指導者（運営団体である総合型地域スポーツクラブ）
スタートコーチ、コーチⅠ、競技別資格、初級パラスポーツ指導員 等
- ・ スポーツ少年団（スポーツ少年団事務局）
スタートコーチ（ジュニア・ユース）
※ JSPO総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団登録統合を視野
- ・ スポーツ推進委員協議会
初級パラスポーツ指導員
※ スポーツ教室、地域クラブ活動等での、障がい者スポーツ、インクルーシブ活動を視野
- ・ 吹奏楽指導者資格取得（全日本吹奏楽指導者協会等）
※ 合唱関連資格取得制度はない（県合唱連盟より）

地域クラブ活動

指導者総数	141人
資格所持指導者数	31人
本年度資格を取得した指導者	令和7年12月現在 0人

平日・休日の一貫指導に関する取組

鯖江市では、学校と地域活動の連携期間（令和3年～6年）、協働期間（令和6年～7年）、融合期間（令和8年～）を設置（令和4年鯖江市在り方針）

令和8年度以降は地域が主体となる活動となり、地域や地域指導者が学校・顧問教員との連携をしていくことを想定

- ・ 令和6年度鯖江市地域クラブ活動推進協議会 決定事項

平日の地域展開活動は、総合的に判断し、様子を見ながら進めていく（持続性、指導者、生徒の生活環境、保護者送迎の負担、家庭負担）

休日の地域クラブ活動が定着していくことを優先する（安心安全な活動、地域指導者の更なる発掘、市民全体への周知）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 令和8年度完全実施に向け、運営団体と指導者配置計画を再度検討し、不足する種目指導者をスポーツ協会（種目協会）に依頼
- 鯖江市PTA連合会総会、学校PTA総会・入学説明会等において概要説明ならびに運営・指導者（サポート含む）での協力依頼
- 事務局一本化に向け、指定管理受託のスポーツ協会に事務所の提供依頼
- 「新しい価値の創出」に向け、公民館の各種講座や関係団体に対し、小中学生の受皿依頼
- 企業（指導者派遣）、大学（指導者サポート）での協議を進めた

取組の成果

- 指導者サポートを申し出る保護者の参画
- スポーツ協会からは、クラブの統合、指定管理の再々委託を受けるだけの力を持ち、持続可能な運営になるよう指導を受け、クラブ一本化の協議を進めることができた
- 企業とは、雇用による指導者派遣（令和7年面接受けたが折り合いが合わず）

大学生の単位取得できる指導サポート
事業を次年度から実施（包括協定）

- 公民館での中学生対象の料理教室
など開催するが、希望者なし
⇒小中学生対象に変更
小学校からの地域環境の見直し

今後の取組における課題

- 指導者依頼について
スポーツ協会（種目協会）からは、高齢化、市種目協会は大会運営が主たる業務であるので指導者派遣は難しいとの回答が多いが、今までの依頼等の経緯も含め、協会という名目ではなく、個人的に協力を得られることがあるので、継続して依頼していく予定である
- 保護者の指導サポート協力は非常にありがたいが、持続可能ではないとの認識を運営団体は危惧している
- 公民館や関係団体から小中学生の受け皿を承諾する団体は多くはない
- 企業指導者派遣では、企業・クラブ・市で形はできたが、若者で指導者を目指す人材がなかなか見つからない
- 大学からの指導者サポート派遣は、今後の大学生へのアプローチを大学とどのようにしていくかの議論が必要

課題への対応方針

- 指導者依頼を関係団体や保護者に、小中学生受け皿依頼を公民館・地域団体に継続して説明し、賛同者・協力者を増やしていく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

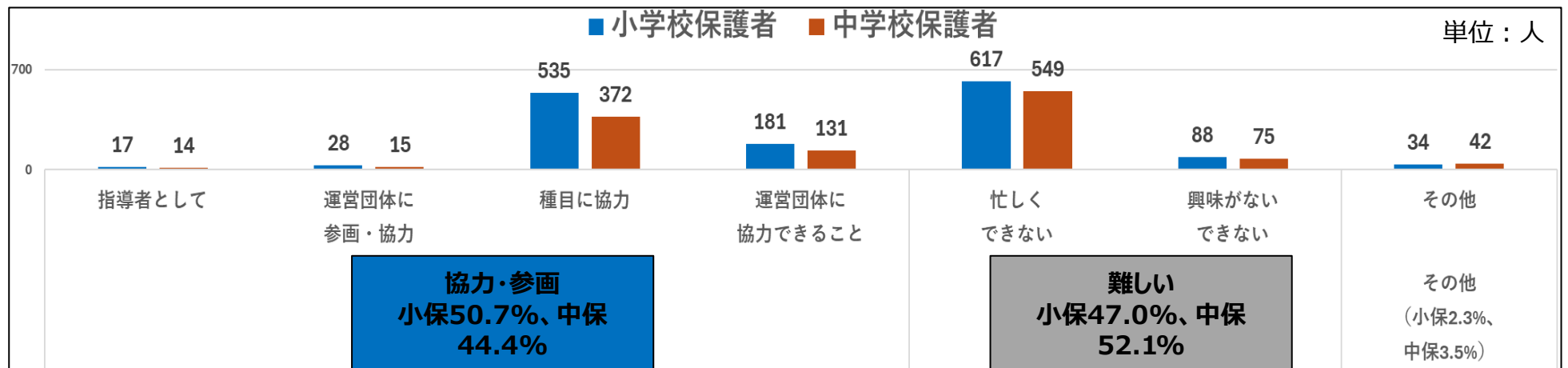
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

令和5年鯖江市保護者（小中）アンケート結果
「休日の地域クラブ活動への協力」



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

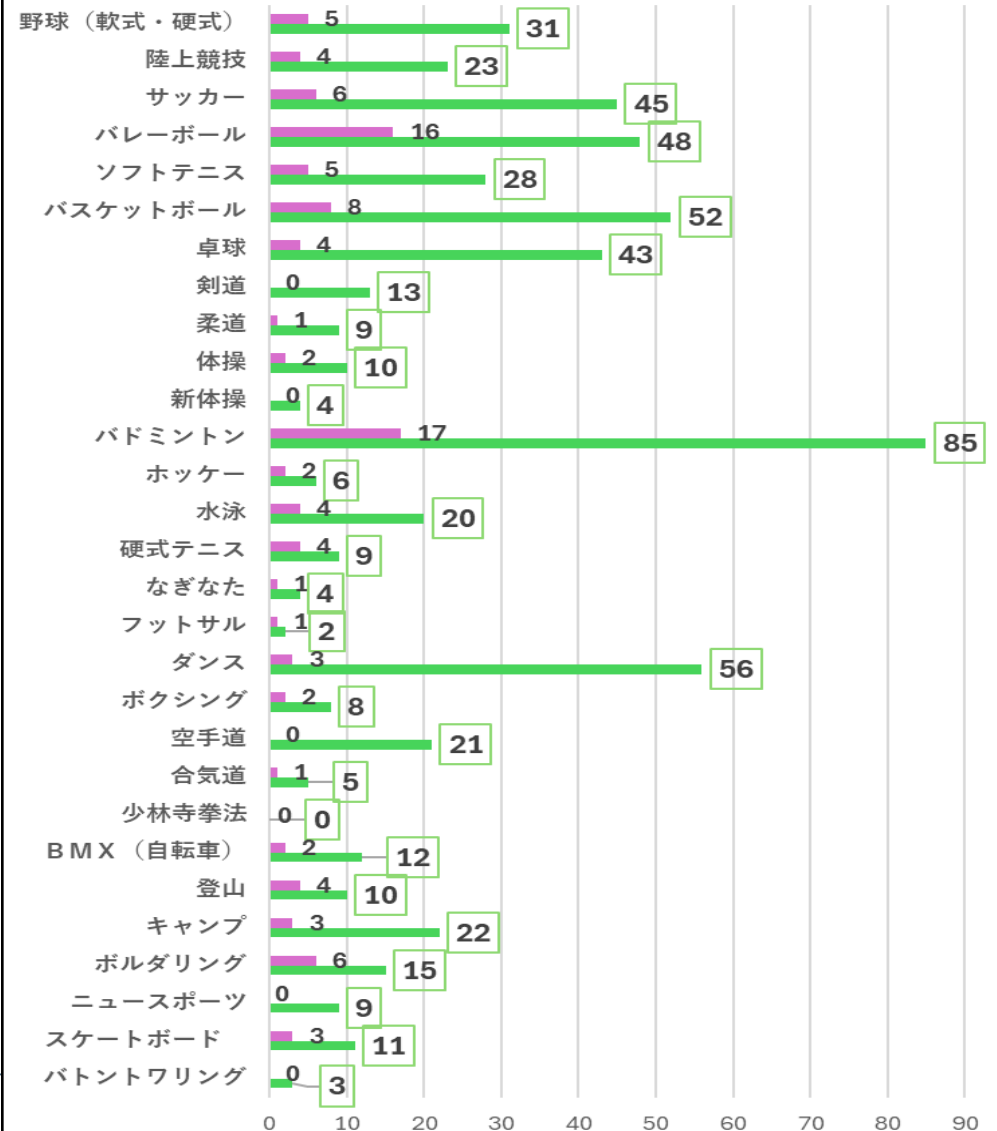
●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

令和6年鯖江市（小中学生）アンケート結果
「休日に自分のやりたいこと（平日とは異なること）は何ですか」

スポーツ

■中学生 ■小学生

単位：人



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

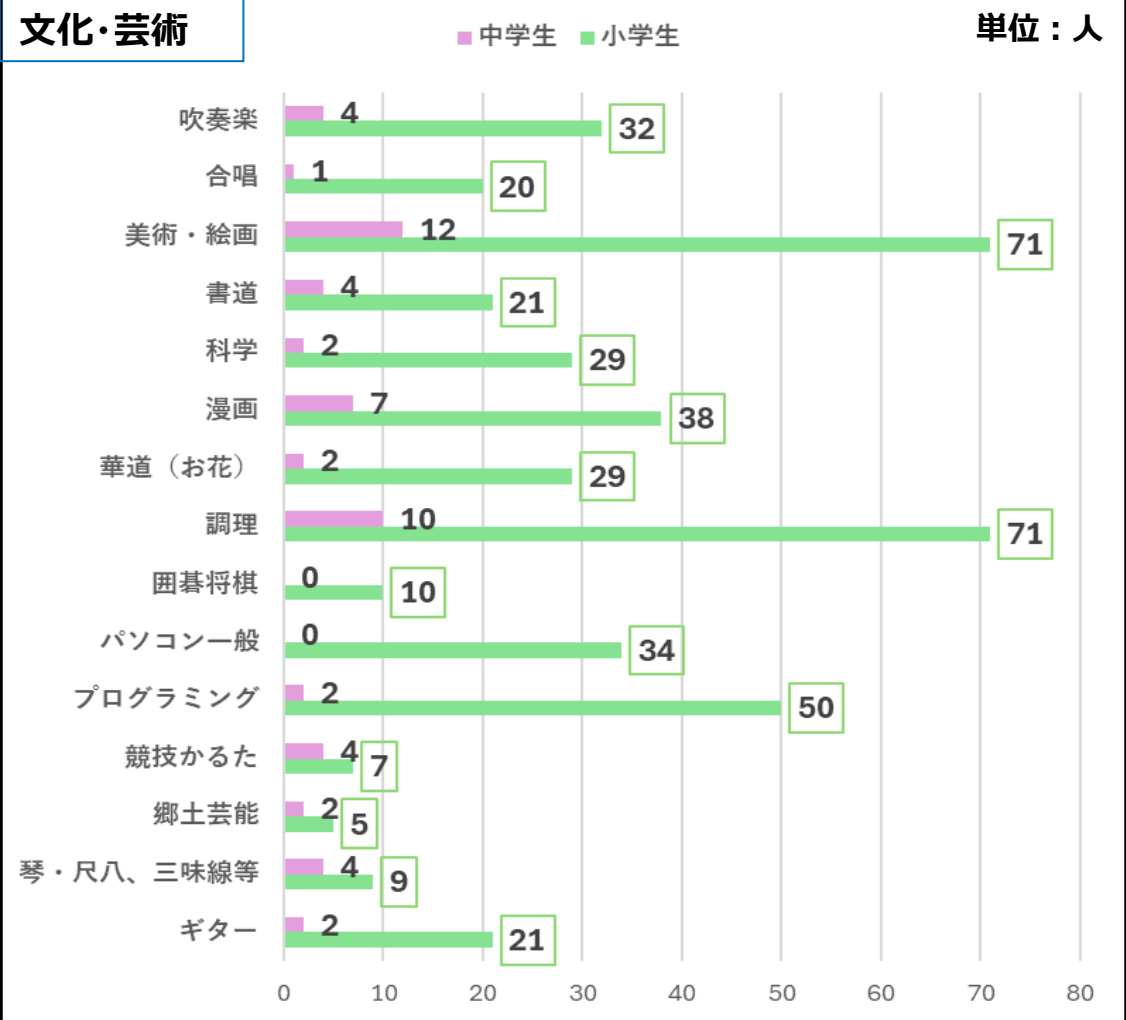


取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

令和6年鯖江市（小中学生）アンケート結果
「休日に自分のやりたいこと（平日とは異なること）は何ですか」

文化・芸術



令和7年公民館において、中学生対象の料理体験教室開催
⇒ 希望者なし、小学生対象に変更

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

地域公共交通との連携に関する取組

鯖江市では、徒歩や自転車で活動できる地域クラブ活動を実践
地域公共交通との連携はしていない

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

スポーツ推進委員は授産施設でのスポーツ教室等を開催実績があり、公認指導者資格取得（初級パラスポーツ）、インクルーシブなスポーツ活動、発展して文化活動のコーディネートの説明・将来像を提示するが、反応は鈍い

まちづくりと連携した取組

- 本市の地域クラブ活動基本方針は、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」意識のもと、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保すること。
- 関係者から小学生からの習慣が必要であるとの意見を踏まえ、小中学生の受け皿となる地域団体を募集。
- 「新たな価値の創出」にむけ、市内関係団体に地域クラブ活動の概要を説明。
- 受け皿を希望・興味のある団体と最終調整し、ホームページ掲載ならびに小中学校から保護者に周知依頼。
- 鯖江市NPOセンター所属する各種団体に説明し、受け皿団体を募集
 - ・ボランティア活動
 - 福井県動物愛護センター
 - 保護動物の飼育管理
 - 犬猫譲渡会(適正飼育講習含む)開催、啓発イベントの開催等
 - ・調整中の団体
 - ・その他加盟団体のイベントを紹介を協議中
- 地域関連団体に説明会を実施し、受け皿団体を募集
 - ・教室・サークル（公民館関連団体）
 - 文化芸術関係（民謡、浄瑠璃、伝統文化（ゆかた等））
 - 運動・スポーツ関係（体操、スポーツ等での世代間交流）
 - ・教室（市施設）
 - 吹奏楽クラブ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

地域でのパラスポーツ活動拡充イメージ

鯖江市スポーツ推進委員協議会常任委員会 提示資料

インクルーシブ スポーツの推進

1. 知る・探る・場をつくる

地域に出向き、地域の実態を知り、活動場所をつくる

- 必要な活動、生み出したい活動は何か
- 将来の活動をイメージ
- 活動に必要な地域の団体・人材を引き込む

体験会・イベント

2. 地域でつながる

活動が継続できる形を作る

- 地域が主体（やりたいことを生む）
- つながる（連携）
- 育てる（指導者・参加者・支援者）
- 活動のニーズを生み出す

スポーツ教室

3. 定着する

地域での活動定着

- 新たな活動へつながる

クラブ・サークル
地域活動への参加

推進委員

資格取得、計画、コーディネート
・初級パラスポーツ指導者資格取得
・計画作成（年次計画）
・障がい者施設担当者、関係者と協議準備、場所、活動での配慮等
協力者（支援者）関連等

広報・実践・PDCA・コーディネート
・広報（活動、参加者・支援者募集）
・体験会、出前講座、教室開催
・PDCA
・協力者（支援者等）育成
・受け皿発掘

コーディネート
地域での持続可能な活動に向けて
・受け皿へのバトンタッチ
・受け皿への協力

健常者と障がい者の交流の場
スポーツを通じたインクルーシブ活動

（参考資料）みんなのスポーツ【パラスポーツ共生社会】日本パラスポーツ協会 佐藤雄太氏

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 中学校区の総合型地域スポーツクラブは、地域クラブ活動では、会員となった中学生が市内のどこのクラブにも参加できるよう、同一の保険に加入
- 運営団体である総合型地域スポーツクラブは、理念に賛同すれば、市外中学生の受け入れも可としており、他市町中学生も入会し活動している
- 鯖江市としても、運営団体の意向を優先している

課題への対応方針

- 他市町との連携は、県が主体となり進める体制が必要
- 現在の鯖江市の取組
市内中学生には現状のまま実施していけばよいとの考え
鯖江市では実施しているが、近隣町では活動していない種目に関しては、柔軟な考え方が必要（鯖江市協議会決定）

取組の成果

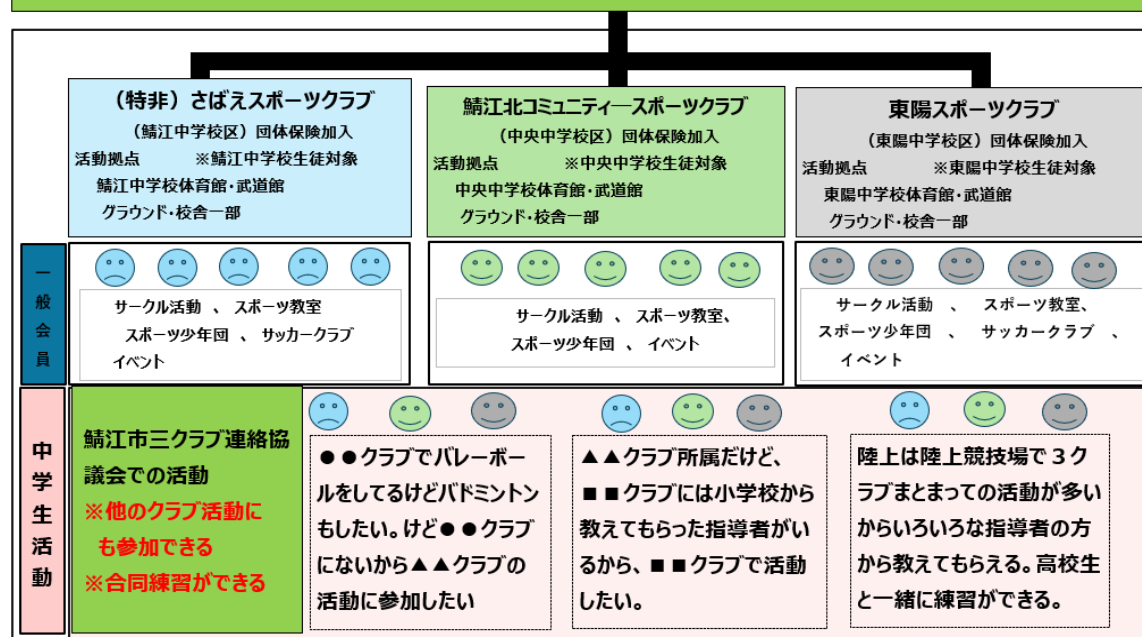
- 鯖江市内中学生（右図）
 - ・ 市内スポーツ施設を三クラブ合同で活動できるようになった
 - ・ 所属するクラブにない種目に参加できるようになった
 - ・ 教えてほしい指導者の所にいけるようになった
- 鯖江市外中学生
 - ・ 自分のやりたい種目に参加

今後の取組における課題

- 合同練習では、拠点施設で小中高生指導者が一体となり指導できる環境が整いつつある（陸上）
- 鯖江市外の中学生の活動に対して、他市町との協議はしていない。
- 行政支援が行われている活動であり、他市町中学生の参加を認めてよいのかとの意見が出始めている
ただ、鯖江市内の中学生も他市町地域クラブ活動に参加しており、他市町でも同様の事案が出ていることを伝えている

※次項に拡大図有

鯖江市三クラブ連絡協議会での保険加入



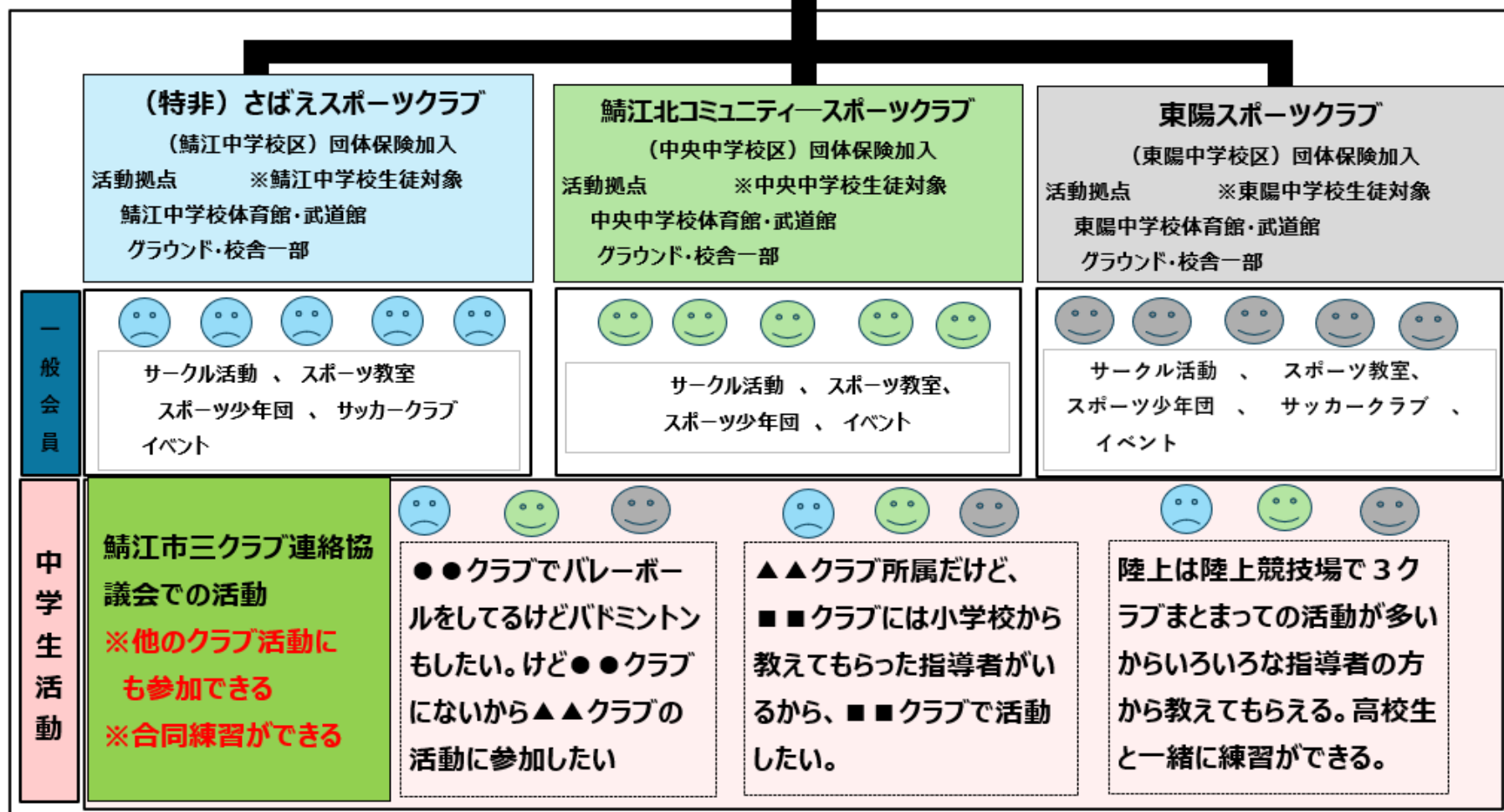
2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



鯖江市三クラブ連絡協議会での保険加入



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 鯖江北コミュニティスポーツクラブ
 - ・ BMX、パルクール体験イベント開催
募集は小中学生
- 東陽スポーツクラブ
 - ・ イベント開催「ウォーターフェス」
 - ・ 東陽中学校区の公民館と協力し、中学生が企画したイベントを開催

取組の成果

- BMX、パルクール体験会
市内小中学生保護者に案内し、運営団体の活動をアピールできた
総数100名市内外小学生が参加（市内10名）、今後継続開催も含め協議
- ウォーターフェス
中学生企画を運営団体と公民館で実施することができ、両者の関係が深まった
地域の人や保護者からの協力・支援が多く集まった

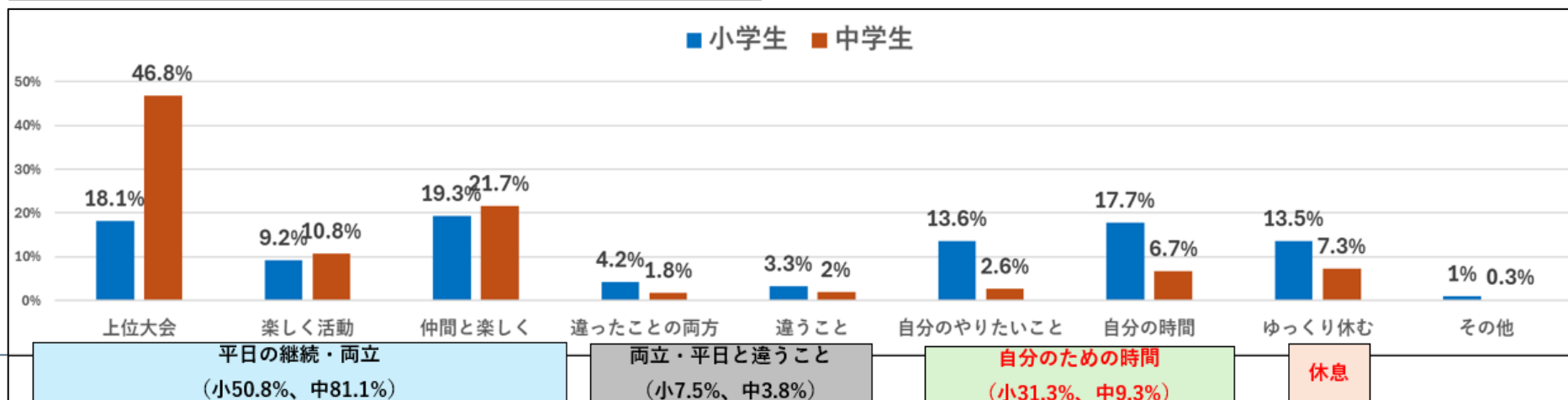
今後の取組における課題

- ・ 中学生が様々な活動やイベントに参加する手段・方法・定着

課題への対応方針

- アンケート結果では、中学生は平日の活動の継続を希望することが多く、平日の活動を絡めたイベント開催を模索
- 小学校時の様々な体験を通して、中学生活動となることを想定し、新たなイベントを継続することにより、中学生の生活が徐々に変化していくと捉えていた長期ビジョンが必要

令和6年鯖江市（小中学生）アンケート結果 「休日の過ごし方」



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

○ BMX、パルクール体験会の様子



○ ウォーターフェスの様子



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 生活困窮者への支援
 - ・鯖江市では、総合型地域スポーツクラブ設立時より、生活困窮家庭への支援の議論をしていた。ただ、個人情報取扱、困窮家庭の線引き、事務手続き等のハードルが高く見送った経緯があり、現在に至る
 - ・令和5年度より、休日は地域クラブ活動への参加を促したことから、教育委員会において、生活困窮家庭を準要保護家庭として支援
- 事務連携
 - ・教育委員会：準要保護家庭調査、該当家庭決定
 - ・学校：家庭状況調査（年収、兄弟、家庭環境等）
 - ・運営団体（SC）：登録生徒一覧を学校に提出

取組の成果

- 学校部活動の地域展開の影響で生活困窮家庭の子どもが地域クラブ活動に参加できないことを防ぎ、行政・地域・学校で支えていく体制を構築することができた
- 学校からの支給となり、個人情報を守られ、感謝の意を述べる保護者が出てきた

今後の取組における課題

- 令和8年度より新会費での活動となる。困窮家庭への支援額を協議会にて決定
令和5年～ 準要保護家庭支援 22,000円
令和8年～ 準要保護家庭支援 24,800円（上限）※認定クラブ所属

課題への対応方針

- 令和8年より本格実施するにあたり、新しい会費での実践
- 困窮家庭への支給額・支援は会費・保険料に合わせる（協議会決定事項）

準要保護家庭支援

※次項に拡大図有

準要保護生徒援助費について（中学校）				
区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
学校給食費		実費 (学校報告に基づく)		
修学旅行費		実費 (学校報告に基づく)		
	市単独予算	7,000		
校外活動費	宿泊なし	2,310		
	宿泊あり	6,210		
学用品購入費		22,730		
新入学学用品等費	1年生	60,000		63,000
通学用品費	1年生除く	2,270		
PTA会費		4,260		
自転車保険加入費			1,500	
医療費		実費 (学校報告に基づく)		
通学費		実費 (学校報告に基づく)		
地域スポーツクラブ加入費				22,000

認定クラブ所属
令和8年～24,800円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

準要保護家庭支援

準要保護生徒援助費について（中学校）

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
学校給食費		実費 (学校報告に基づく)		
修学旅行費		実費 (学校報告に基づく)		
	市単独予算	7,000		
校外活動費	宿泊なし	2,310		
	宿泊あり	6,210		
学用品購入費		22,730		
新入学学用品等費	1年生	60,000		63,000
通学用品費	1年生除く	2,270		
PTA会費		4,260		
自転車保険加入費			1,500	
医療費		実費 (学校報告に基づく)		
通学費		実費 (学校報告に基づく)		
地域スポーツクラブ加入費				22,000

認定クラブ所属
令和8年～24,800円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○ 鯖江市PTA連合会総会にて説明

・大会・コンクール出場に対する支援を継続
・文化部備品購入支援（楽器購入）を継続
・PTA会費（部活動関連）見直しを学校長に依頼

令和7年鯖江市PTA連合会総会説明資料

※次項に拡大図有



令和8年度～休日の学校部活動は 地域クラブ活動完全実施となります

地域クラブ活動⇒休日の活動は、子どもたちの選択、保護者の責任増
鯖江市地域クラブ推進協議会(大学・PTA・学校・スポーツ・文化関係者)

- ・中学校区にある総合型地域スポーツクラブが運営主体
- ・休日の中学校施設を中心に活動 ⇒ 子どもが主役
- ※徒歩や自転車で気軽に安心して活動できる環境

併存期間(R5～7年度：学校と地域が連携・協働する準備期間)

- ・会員からの会費と行政支援(国・県・市)で運営
- ・指導者：地域から発掘、休日も継続してやりたい先生
- ・指導者へは謝金
- ・地区公民館にある既存団体に、子どもたちとの活動を依頼

完全実施(R8～：地域が主体で取り組み学校と連携する)

- ・新会費での実施、三クラブの再編(市民に認められる組織)
(学識経験者・市教委・三クラブ・学校の委員で協議中)
- ・子どもたちの様々な志向に対応できる環境の整備
- ・様々な交流の場を発掘(地域・市内・公民館、同世代・異世代)

市教委 ……中体連大会(県・ブロック・全国)支援を継続
コンクール(北陸・全国)、文化部備品購入支援を継続
各中学校……PTA会費の見直し

※休日の協会主催大会・練習試合等バス経費

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

令和7年鯖江市PTA連合会総会説明資料

【地域クラブ活動ってどんなこと？】

もっと上達したい！ チャレンジしよう

休日は地域クラブへ行こう！

鯖江市では、総括コーディネーター、各クラブに1名の地域コーディネーター、文化コーディネーターを設置し、行政・学校・クラブが連携し、平日は部活動、休日は地域クラブ活動ができる環境整備を進めています。

1 指導者が技術面でサポート

地域指導者が自らの経験ノウハウをもとに、技術を教えてくれるよ。

2 クラブ加入は任意

クラブ活動はやりたい子が来るというのが基本。地域クラブ活動は年間を通しての活動です。

3 総合型地域スポーツクラブでは選んだ種目参加のほかにイベントや特典もあるよ。

合同練習やイベント

3クラブでの合同練習などにも参加可能。今秋には楽しいイベントも企画予定です！

流れは

会員登録

自分の学校のスポーツクラブにご入会ください。各クラブの受付窓口で手続きをお願いします。

参加する種目選び

自分の学校にある種目のほか、参加したい種目が校区外のクラブにある場合はご相談下さい。

クラブを楽しもう

参加する種目以外に、様々な企画を年度途中より開催できるよう準備中です。ホームページ等をみて下さいね。

参加費

詳しくは下記の各校区クラブにお問い合わせください
(クラブでは、指導者として関わって下さる方を探しています。お気軽にご連絡ください。)

年会費：個人6,000円 保険料：800円(必須)

鯖江市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

さばえスポーツクラブ 鯖江中学校区

鯖江北コミュニティスポーツクラブ 中央中学校区

東陽スポーツクラブ 東陽中学校区

「3の部活動地域移行について 鯖江市の取組み」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

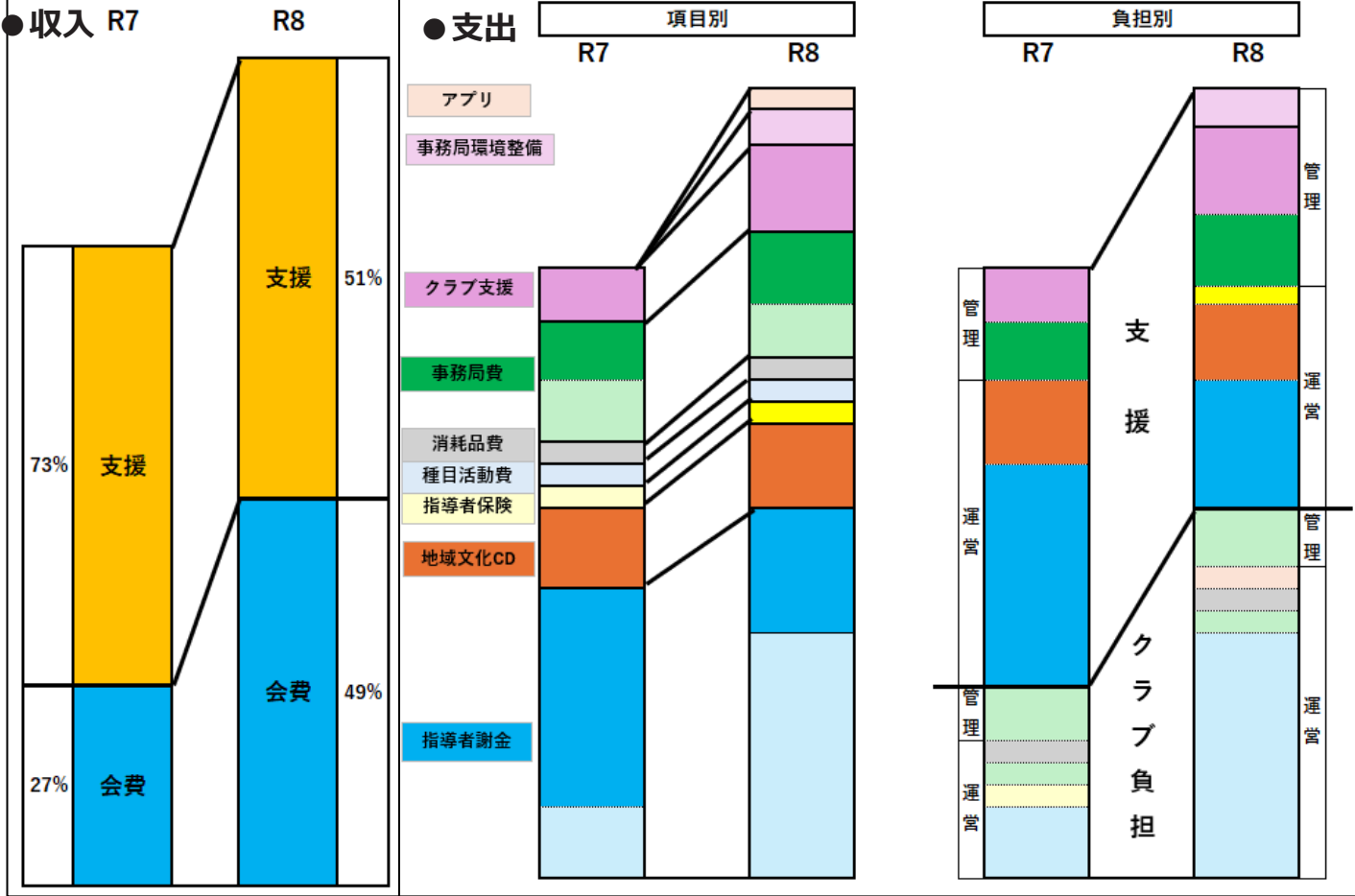
収支を試算すると、三クラブの事務局を一本化することにより、運営団体経費割合が大きい
鯖江市では、クラブ組織再編委員会を開催し、令和8年以降の会費ならびに持続可能な運営体制の構築を目指し、三クラブの統合に向けた協議を始めた
運営団体自立に向け、市スポーツ協会から、指定管理を受けている施設での事務局一本化、クラブ統合後の指定管理再委託構想を提案される

クラブ再編組織委員会

学識経験者	大学教授
	総括CD
中学校	校長会代表
スポーツクラブ	会長・理事長
	役員
	地域CD
鯖江市教育委員会	部長

会費

～令和7年 会費 (年) 6,000円
令和8年～ (年) 24,000円
運営費 (年) 6,000円
指導者謝金 (月) 1,500円



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



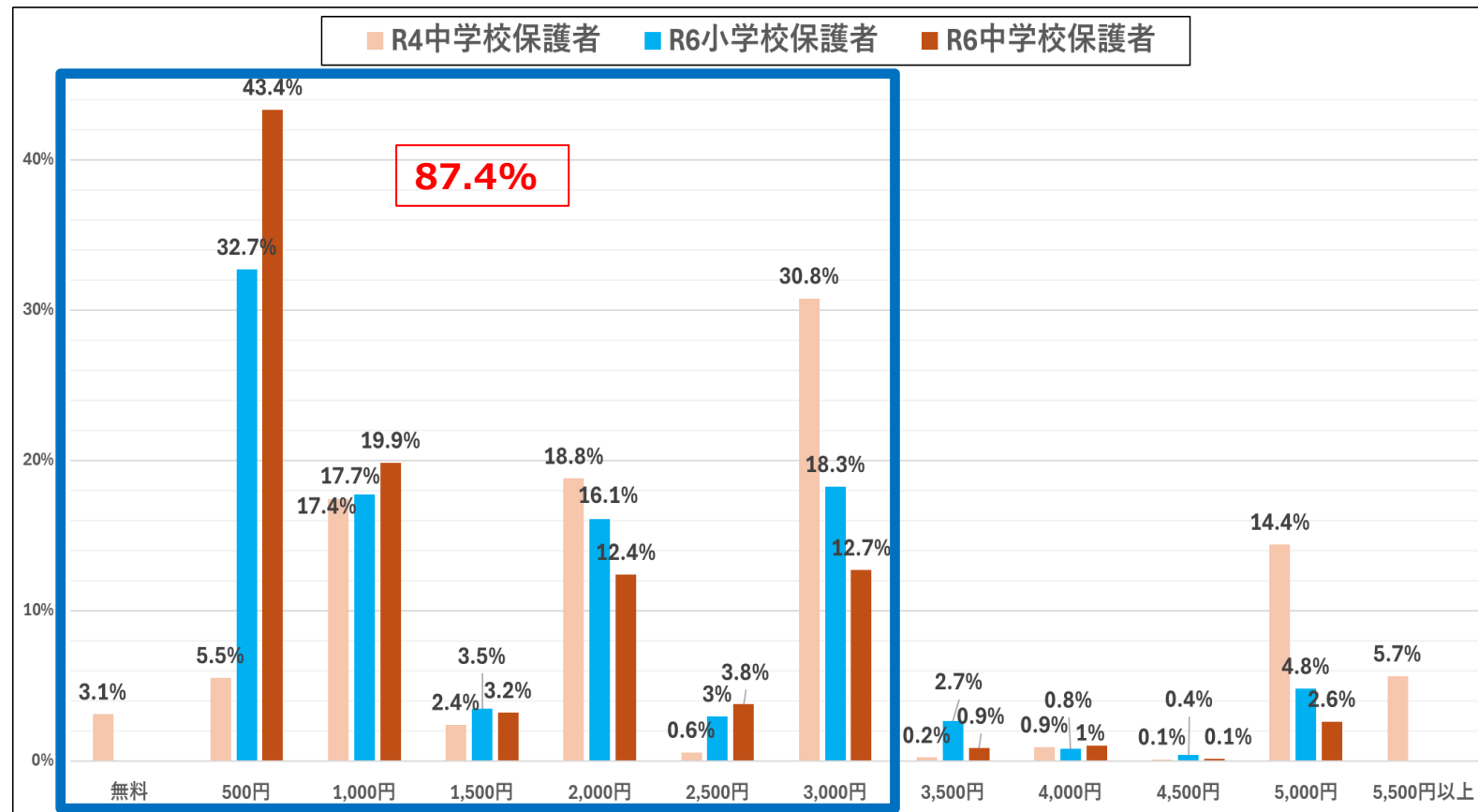
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

クラブ組織再編委員会で、クラブ運営と保護者アンケート結果、(国)調査研究協力者会議の進捗状況、結果をもとに決定

令和4年・6年鯖江市 小中保護者アンケート結果 月会費の金額



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

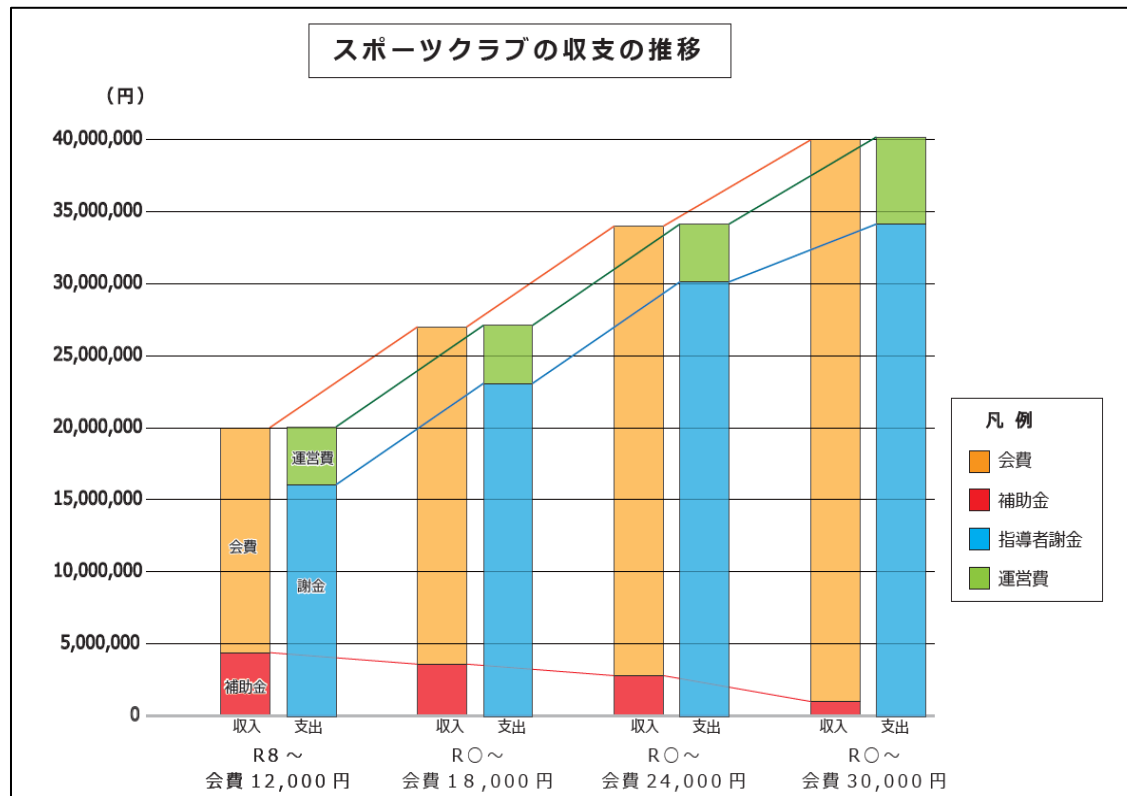
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

令和7年鯖江市クラブ組織再編委員会 会費関連資料



クラブ再編委員会で令和8年度会費は、

当初、年会費18,000円で決定 ⇒ 最低賃金上昇・他市町との整合性による指導者謝金値上げ（1h 1,200円⇒1,600円）、事務局一本化（将来は統合）

（国）調査研究協力者会議の動向を踏まえ、クラブ再編委員会を経て、協議会にて、運営費（年）6,000円、指導者謝金（月）1,500円 年24,000円で決定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 地域クラブ活動方針（令和4年）
 - ・ 運営団体を中学校区の総合型地域スポーツクラブ、活動場所は、中学生が徒歩や自転車で通えるよう、市内各中学校施設、市内スポーツ施設としている
- 「鯖江市運動・スポーツ推進計画」推進委員会（令和6年）
 - ・ 学校管理規則、学校開放規則の見直し⇒市内連携により可能（規則見直し無）
 - ・ 市スポーツ施設を土曜日午前中は地域クラブ活動独占使用（陸上小中高校生）
- 学校施設にスマートロックを設置し、中学校区の総合型地域スポーツクラブに休日と夜の施設運用・管理を依頼
- 校舎を利用する文化活動（吹奏楽・合唱）、スポーツ関連種目の更衣室、外競技の雨天時の避難等の場所の提供を目的に校舎内シャッターを設置

取組の成果

- 休日の中学校施設は地域クラブ優先での利用が可能となった
- 休日に小中高校生が指導者の下、練習できるようになった
- スマートロックの採用で、管理者、利用者の手間が大きく削減できた
- 校舎内シャッター設置により、校舎内の利用区分が設けられ、指導計画が立てやすくなった（吹奏楽指導者）

今後の取組における課題

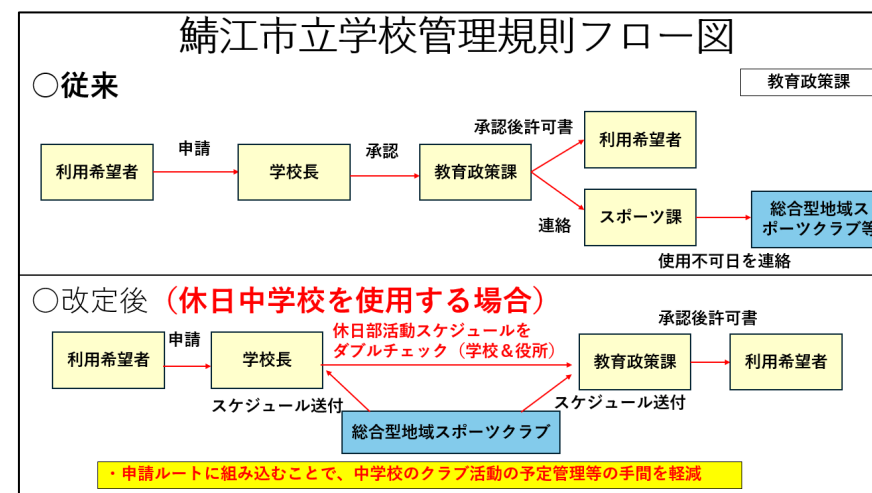
校舎内シャッターでは、学校側で金曜日のシャッター・教室施錠、月曜日のシャッター・教室開錠等の手間が増え、機能的な取組を学校が行う必要

課題への対応方針

スマートロック、校舎内シャッター使用は、令和8年度に完全実施とし、学校と調整している
今年度中に、学校側の機能的な対応を依頼中

参考資料

鯖江市運動・スポーツ推進計画 推進委員会資料 ※次項に拡大図有



陸上競技場

土曜日は、市内外高校生・大学・一般が利用し、小中学生にとって危険な状況⇒土曜日午前中は市内総合型地域スポーツクラブの活動で独占
市内高校も賛同し参加、小中高校生での交流
陸上を継続する子供が増えることに期待

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

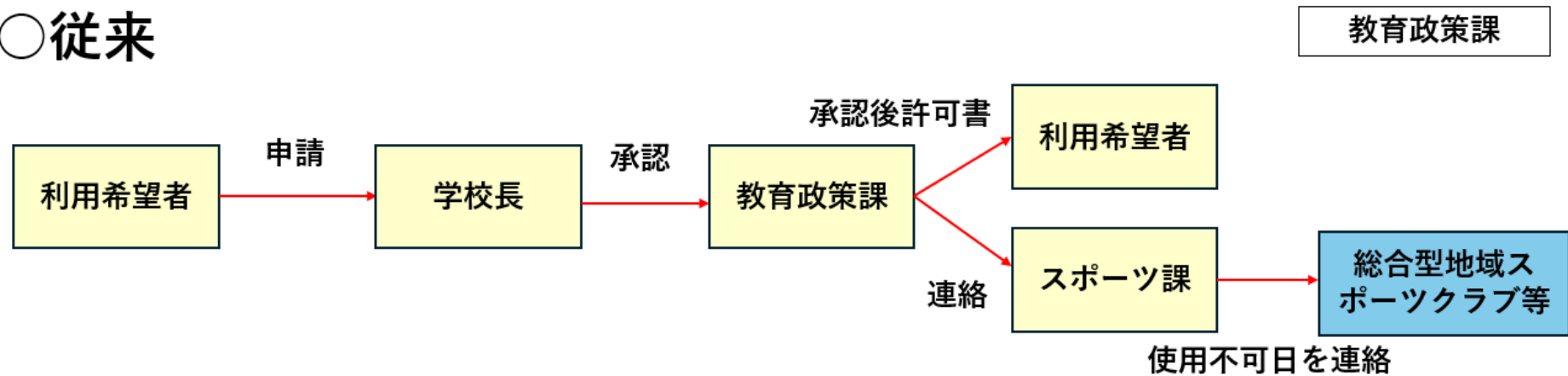


取組内容

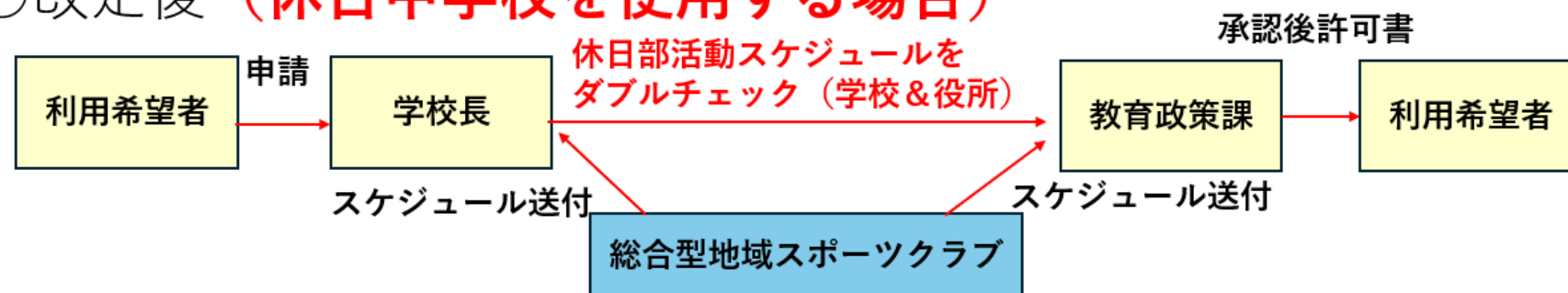
鯖江市運動・スポーツ推進計画 推進委員会資料

鯖江市立学校管理規則フロー図

○従来



○改定後（休日中学校を使用する場合）



・申請ルートに組み込むことで、中学校のクラブ活動の予定管理等の手間を軽減

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- スマートロックの導入（令和6年度スポーツ庁報告書掲載）、校舎内シャッター設置（令和6年度文化庁報告書掲載）、利用者・管理者にとって利便性のある活用
・予約者に番号配布、予約者（責任者）以外は使用できない
・キーボックス等による鍵の受け渡し
・ICT活用による日誌作成・提出

用具使用・管理等における取組

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）発足時、中学校施設を拠点とし活動
 - ・夜間学校施設（体育館・武道館）利用
 - ・夜間照明施設、用具保管の外倉庫の利用
- 用具使用
 - ・鯖江市教育委員会・学校・運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）の三者による協定により、学校備品等の活用による破損時の責任を明確にして活動を実施（令和6年度協議会にて決議）
 - ・運営団体である中学校区の総合型地域スポーツクラブは、物損時に補償できる団体保険加入（賠償責任補償含む）
※破損には経年劣化が原因も予想されるため、教育委員会が間に入ることを追記
- 用具保管
 - ・体育館内の用具に関しては、学校側・クラブ側で使用してほしくない物品に関しては原則施錠

令和6年協議会決定事項

「学校備品・物品等の使用」について 三者による申し合わせ事項の締結

締結概要：中学校体育館・武道館・校舎（学校施設開放）の使用
および物品使用

三者：教育委員会、各学校、各スポーツクラブ
内容：

【学校施設】

休日・平日夜の使用に関しては責任をスポーツクラブが負う

【物品等の使用】

スポーツクラブは、教育委員会、学校が所有する備品・物品等
を使用できる

学校は、スポーツクラブが所有する物品を使用できる
破損等の場合、使用責任者が責任を負う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 平日の地域クラブ活動 ・令和6年度末協議会
- 企業・大学と指導者派遣について

取組の成果

- 企業：指導者雇用による派遣ができる体制を構築
平日の指導者派遣も可
運営団体が推薦する指導者を企業が面接
職場見学・面接を受けたが、現職場との比較により断念
⇒ 運営団体は該当者を模索
- 大学生の単位取得ができる指導者サポート派遣、市と大学での包括協定をもとに令和8年から活動

今後の取組における課題

- 平日活動について
 - ・ 活動
夕方以降の活動となり、中学生の生活習慣に課題
 - ・ 指導者
課題が多く、人材不足であることから、企業からの人材派遣を中心に取組むこととする
 - ・ 負担
保護者の経費・送迎負担

課題への対応方針

- 休日活動を定着させ、平日活動について試しの活動等、モデル的な活動ならびに関係者との協議を進める等、段階を持つての取組

令和6年協議会決定事項

令和7年度は休日の活動 → 最終年度

指導者：地域指導者の発掘、周知：市民全体への周知

平日の地域展開 → 様子を見ながら進める
休日の活動を定着することを優先

持続性：持続可能な活動となる根拠が乏しい（指導者・送迎・子どもへの影響・家庭負担等）

指導者：平日の平時に指導できる指導者が鯖江市にどのくらいいるのか

送迎：子どもの送迎が可能な家庭はどのくらいいるのか

鯖江市は共働きの家庭が多く、夕方から夜の活動に子どもの送迎ができるのか

生徒影響：中学生の生活習慣、子どもの健全育成への影響

取り組む中学生の減少（現在：スポ少加入児童の減少）

平日の平時に活動することは難しいため、夕方から夜に活動することによる影響はないのか

家庭負担：保護者負担が増える可能性大

休日活動で指導者謝金制度を整えるにあたり、平日にも適用した場合の保護者負担

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 ※計画書記載の休日の小中高校生の活動は、エ：面的・広域的な取組に記載

取組事項

- クラブ組織再編委員会
 - ・地域クラブ活動の事務効率化協議
⇒ 三クラブ事務局の統合（令和8年～）
 - ・会員主体（まちづくり）、持続可能な運営（管理費負担の軽減）を協議
⇒ 三クラブの統合に合意（協議の継続）
市全体の動きにしてい
子どもから高齢者・障がい者対象
賛助金の獲得
体育館指定管理を受託できる基盤強化

取組の成果

- ・3クラブ設立から約20年が経つ中で、同じテーブルに立って組織再編の協議をすることができ、それぞれの取組を尊重しながら、合意に持ち込むことができた
- ・中学校部活動の地域展開を機会に、生涯スポーツ関連の協議も同時にすることができるようになった

今後の取組における課題

- クラブ統合
 - ・各クラブは総論賛成を得たが、各論では様々な意見が出てきており、調整等を市の関係課が多く関わる必要がある
 - ・クラブ統合のリーダーシップが取れる人材が必要
 - ・統合に向けた計画作成

課題への対応方針

【鯖江市】

- ・鯖江市の生涯学習・スポーツ推進にとって、非常に大きな変革の一つと捉え、計画・予算・庁内連携等を今後進めていく
- ・担当職員のみでの取組から、担当課職員で役割分担をして推進を図る
- ・「鯖江市運動・スポーツ推進計画」の見直しがあり、子どもから高齢者・障がい者まで幅広い取組が推進できる体制づくりを進める
- ・新たな価値の創出に向け、様々な団体が子どもから高齢者が活動できる場を共有できる環境を整備

【運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）】

- ・効率的な運営ができるよう、運営団体である、三つの総合型地域スポーツクラブの事務局を一本化する（さばえジュニアクラブ）
- ・三つの総合型地域スポーツクラブが、本市全体のスポーツによるまちづくりができるよう、三クラブ統合に向け、具体の協議を実施
- ・指導者研修の充実・登録
- ・アプリ等を活用した、会員への情報発信や状況の掌握

【実施主体】

- ・ガイドラインに沿った活動となるよう指導・助言

【地域団体】

- ・地域クラブ活動を基本とした、世代交流など新たな価値の創出に向け、理解を深め協力できる団体を増やせるよう周知・説明

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

ア) 運営団体の整備

○ クラブ再編

鯖江市にある中学校区の総合型地域スポーツクラブでは、それぞれの活動には意義はあるものの、運営・マネジメントにはそれぞれ懸念があり、連携・統合の話がなかなかできなかった。中学校部活動の地域展開を機会に「クラブ再編組織再編委員会」を立ち上げ、協議する場も多くなり、持続可能な運営をすることが協議され、令和8年より将来の統合に向け、事務局の一本化、統合に向け話を進めることとなった。今後、鯖江市全体で中学校部活動の地域展開、生涯スポーツの推進、企業協賛等を募ることができ、運営基盤の安定化を図ることができる。

○ 組織、関係者の団結

協議会、検討会（運営団体・学校）、コーディネーター会、中学校長会、（学校）地域クラブ担当者会等地域クラブ関係者の会議を単独または合同で開催し、地域と学校が情報共有できる場を多く持ち、連携できるよう心掛けた。議論時の様々な意見により、進まなくなることもあったが、中学生が違和感なく参加し、満足できる活動の基本路線に戻ることに、協議内容を進めることができた。

○ 保険の加入（個人：スポーツ安全保険、団体：保険）

ケガ等だけでなく、個人賠償責任対応のため、個人のスポーツ安全保険加入を義務化

運営団体には団体としての責任、ケガ、団体賠償責任、物品等破損への保障等への対応のため団体保険に加入

なお、物品等借用に関しては、鯖江市・学校・運営団体で協定書を締結し、学校備品、クラブ備品を両方が使用できる体制を構築した。

イ) 指導者の質の保障と量の確保

○ 指導者派遣、サポート

関係団体には指導者発掘や派遣依頼等は常にしていたが、人材確保がなかなかできなかった。企業から、指導者派遣の協力についての話があり、運営団体と連携の下、話を進めることができ、企業面接を受ける若者が出てきた。

大学との協議で、指導者派遣は難しいとの話であったが、指導者をサポートすることならできないかとの話となり、次年度よりサポート事業を立ち上げることができた。教育関連大学では、サポート事業で単位取得も可能かどうかを協議していただけることとなり、将来の指導者候補を発掘できる機会ができるのではないかと期待している。

ウ) 関係団体との連携、オ) 内容の充実

○ 新たな価値の創出

例年、地区体育大会での中学生企画・運営協力等を実施しているため、中学生参加に地域は前向きである。

今年度、公民館において、中学生企画によるイベントは様々な協力もあり多くの小学生が参加して実施することができた。ただ、中学生のニーズ調査で多かった料理教室で募集したが中学生希望者はなく、小学生に変更する等の対応をした。

アーバンスポーツ（パルクール・BMX）体験活動を実施し、総計100名ほどの参加があった。鯖江市内小中学生保護者全員に案内はしたが、小学生10名程度の参加であった。開催するにあたり、市内参加状況により定期開催も視野に入れていたが、人数が少なかったこと、市内参加者も興味を示す方がほとんどなかったことから、今後の開催は様子を見て取り組むこととなった。

●総括 イ) 指導者の確保 ウ) 関係団体との連携

企業との連携（令和7年鯖江市協議会説明資料）

水ingグループとの連携（協議終了、該当者模索中）

- 水ingAM（鯖江市から委託を受けている全国規模の会社）
 - ・地域の優秀な人材確保、若者就職希望者の確保、地域貢献（鯖江市）
⇒ **指導者を正社員雇用**として受入れ
- 雇用形態
 - 指導時間も勤務とみなす（派遣勤務）
 - 平日 午前は、水ingAMで勤務
 午後は、社員による地域展開での指導（水ingからクラブへ派遣）
 - 休日 地域展開での指導（月曜日振替休など）
- ・（国）総合的なガイドライン（民間企業として参画）
雇用形態について検討を進めている。鯖江市と水ing、互いにメリットがある。
- 鯖江市
 - ・スポーツクラブから推薦 ⇒ 面接 ⇒ 現在、悩んでいる
 - ・実現したなら三者（市・クラブ・水ing）協定を締結予定

2.実証内容と成果③

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括 イ) 指導者の確保 ウ) 関係団体との連携

令和8年より実践予定

大学との連携（令和7年鯖江市協議会説明資料）

大学生指導者サポート（鯖江市と大学 包括的連携協定）

- ・以前より、福井大学に指導者として学生に関わって貰えないか要請（鯖江市）
- ・大学側から、学生が指導するにあたり、諸問題等の対応に懸念
- ・鯖江市から提案
指導者がいるところにサポートで入ることは？
 - ⇒ それなら可能
 - ⇒ 鯖江市と福井大学との包括連携協定を活用
 - ・鯖江市は若手指導者の創出や指導者不足の解消にメリット
 - ・学生はカリキュラムの一貫として子どもたちと関わる事ができるメリット
- ・R8募集開始予定で具体内容を協議
(国) 総合的なガイドライン (大学)



指導者サポート募集！

みんなで地域クラブ活動を応援しよう

2026より
鯖江市内
3中学校
休日指導サポート
1日3時間程度

鯖江市・鯖江市内総合型地域スポーツクラブでは休日の地域クラブ活動(中学生)にサポート指導として従事できる学生を募集しています。土・日のどちらか3時間程度、練習試合等は6〜7時間程度のサポート。報酬あり、保険あり。募集種目や報酬に関しては右記QRから詳細をご覧ください。

活動場所
さばえSC：鯖江中
鯖江北SC：中央中
東陽SC：東陽中

お問い合わせは
鯖江市教育委員会

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

工) 面的・広域的な取組

○ 鯖江市内

鯖江市にある中学校区の総合型地域スポーツクラブは、スポーツ安全保険を統一し、それぞれの活動だけでなく、合同練習にも対応できるようにした。

陸上では、陸上競技場を小中学生だけでなく、地元高校陸上部と一緒に活動できるようにし、時々ではあるが教え合い等の活動が出てくるようになった。

他の種目においては、平日とは違う他クラブ種目へのチャレンジ、他クラブ指導者の指導を受ける等様々な動きが出てくるようになった。

今後、文化関係にも様々な動きが出てくるよう準備していく予定である。

か) 参加費用負担の支援等

○ 新会費決定

クラブ組織再編委員会で鯖江市、学識経験者、中学校、クラブとそれぞれの意見を交え、令和8年からの会費を決めることができた。この委員会では、行政支援、会費運営、保護者負担等の様々な角度から協議することができ、持続可能な将来を見通した協議をそれぞれが担う立場で議論することができた。

き) 学校施設の活用等

○ スマートロック、校舎内シャッター設置（令和6年スポーツ庁・文化庁報告書）

- ・学校管理規則の見直しに着手し、規則改正ではなく、庁内での関係課対応で進めることとなり、休日の中学校施設は、運営団体が中心となり活動できる体制整備ができた。

●成果の評価

ア) 運営団体の整備

クラブ統合の協議は、令和8年から本格的に始まる。鯖江市は、前向きな協議ができるよう、サポートする予定。

イ) 指導者派遣、サポート

企業連携での活動が始まる時に、鯖江市・運営団体・（企業・大学）と三者協定を締結し、本格的に取り組む予定。

ウ) 関係団体との連携、オ) 内容の充実

公民館で様々な取組を実施することができ、希望者なし等の事案も出て、今後の取組について協議することができた。その中で、中学生の休日の生活変化を急激に求めるものではなく、小学校から進めることが大切だとの意見もあり、令和8年は小中学生の募集に切り替え、長い目で見た地域展開を試みることとなった。

エ) 面的・広域的な取組

市内参加の幅を広げることにより、様々な活動が可能となった。

カ) 参加費用負担の支援等

組織的な会議運営により、令和8年からの会費についての周知活動が様々な場面で行われるようになった。

●今後に向けて

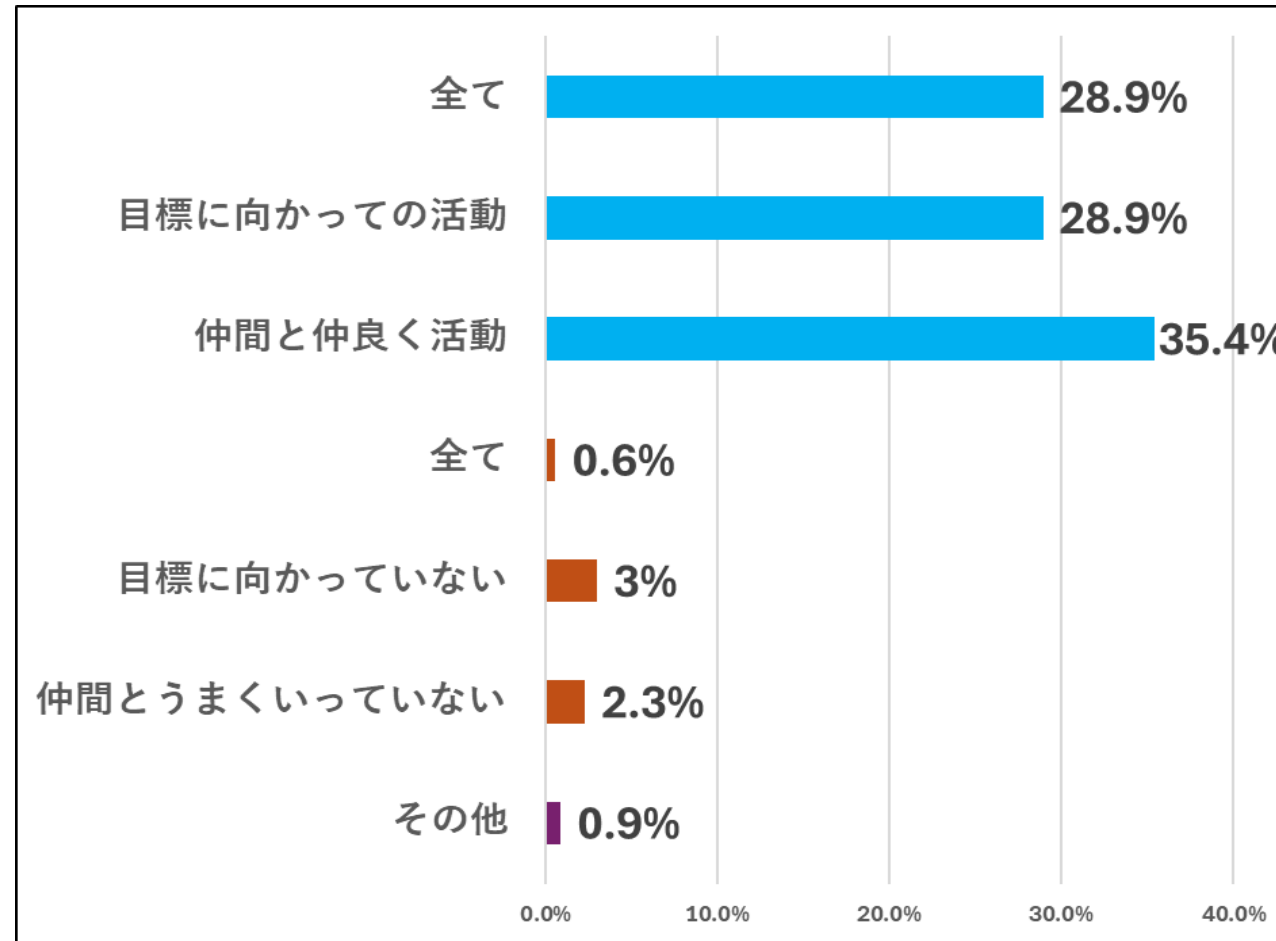
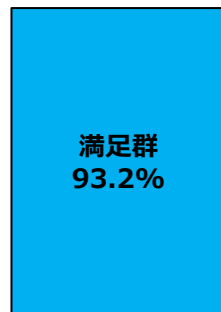
市民は、急激な変化や新たな活動に対し不安であったり、興味がないように感じる。「まちづくり」を進めるには、活動が他人事のように進めるのではなく、様々な方々との合意形成や参画が必要であり、徐々に周知を兼ねた活動を進めることを念頭に取組む予定である。

2.実証内容と成果⑤

アンケート結果

- 鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）
対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.平日の部活動について（中学生） 令和6年



2.実証内容と成果⑤

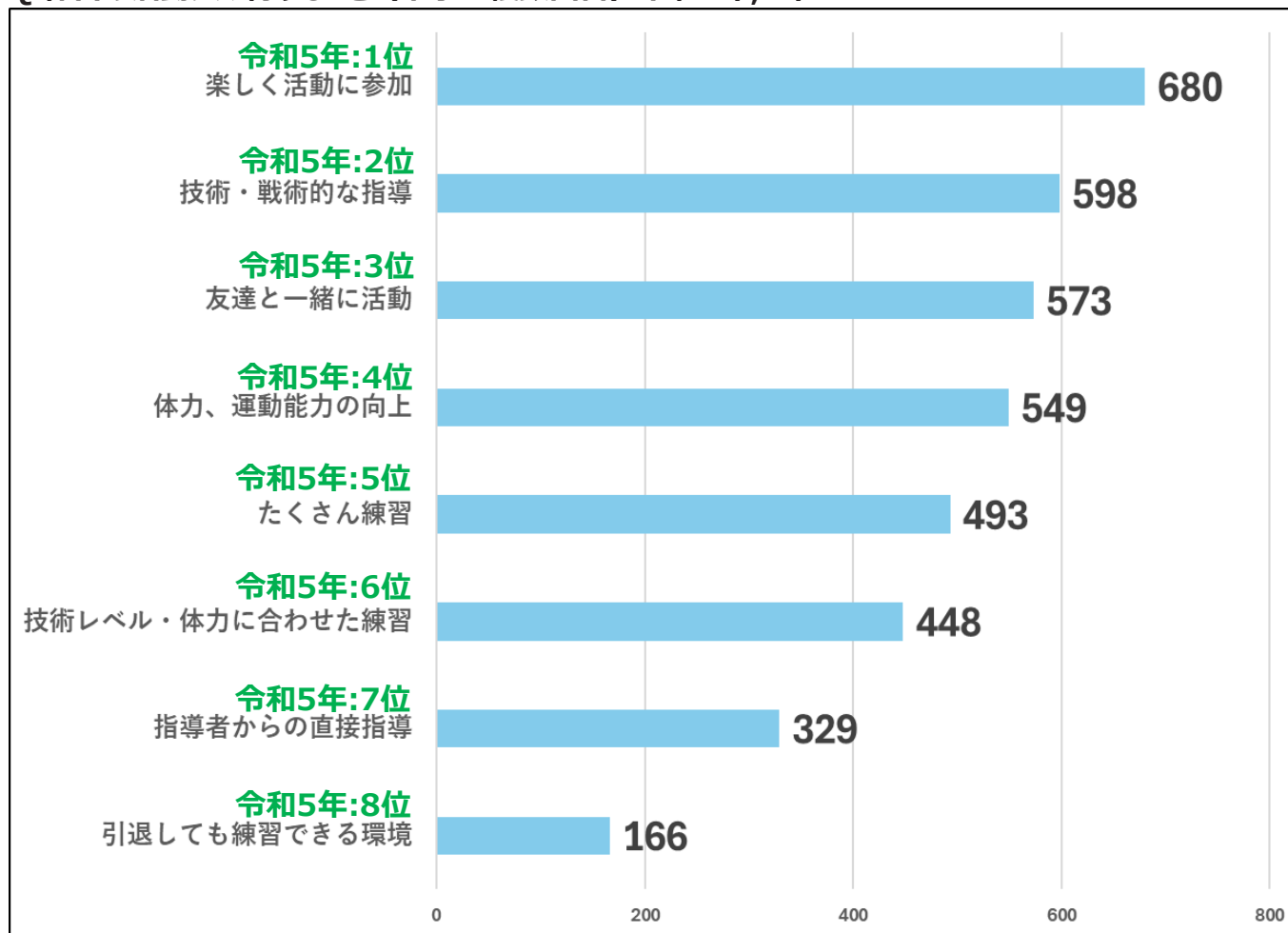
アンケート結果

●鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）

対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.休日の活動に期待すること（中学生複数回答） 令和5年,6年

単位：人



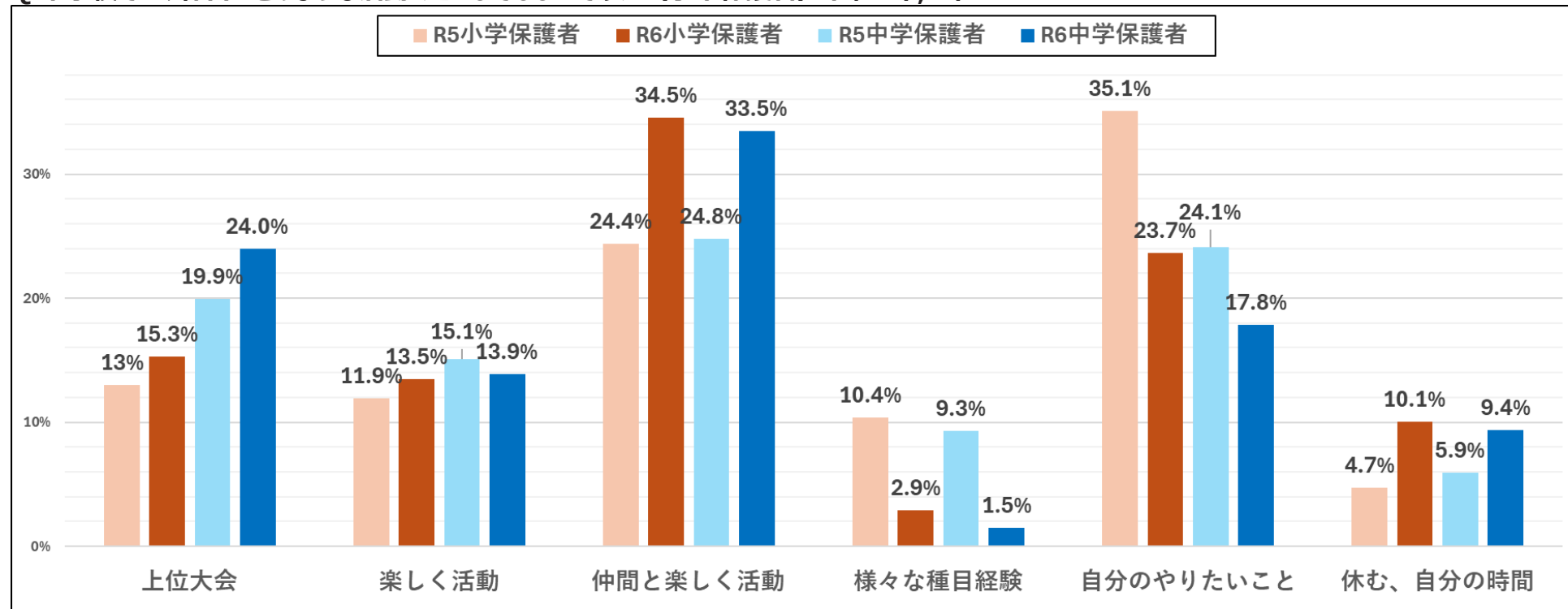
2.実証内容と成果⑤

アンケート結果

●鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）

対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.中学校では、休日はどのような活動・過ごしてほしいですか（小中保護者） 令和5年,6年



参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声

中学生

専門的な指導は部活動以上に細かく、私の気が付かないことも指摘してくださいました。また、選手として大切な競技以外の面でも指導していただき、たくさん成長することができました。

中学生

基礎練習、個人練習等いろいろな練習ができるので充実した時間を過ごすことができありがたいと思っています。

指導者

少ない指導回数の中で子どもたちが何を教えてほしいのかを察する難しさはありますが、数十年前の先輩という身近な立場で子どもたちと一つに楽しむことができ、充実した時間になっています。

指導者

陸上では、競技場を毎週占有で使用できることや専門的な指導者のもと、違うクラブの生徒同士が切磋琢磨しながら練習できることで生徒にとって非常に有意義な時間となっており、恵まれた環境であると感じます。また、小学生や高校生とも練習する機会もあり、縦のつながりもでき、系統的な練習ができています。

保護者

仲間と楽しんでほしいのはもちろんだが、勝つ喜びや負ける悔しさを仲間と共に経験したり学んだりしてほしい。中学校の今だから味わえるものだと思う。

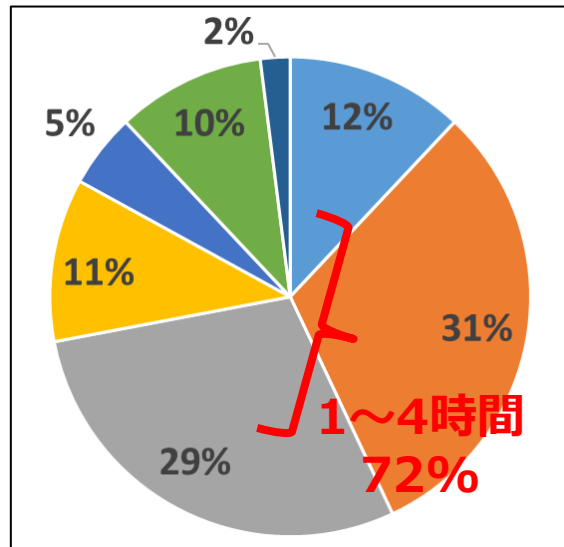
2.実証内容と成果⑥

アンケート結果・参加者/関係者の声

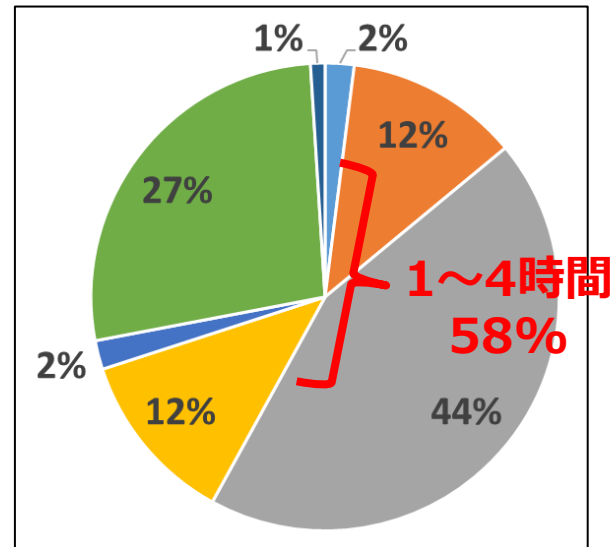
- 鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）
対象：小学校4～6年生保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.休日の地域クラブ活動の活動時間はどのくらいがよいと思いますか（中学生・小中保護者） 令和5年

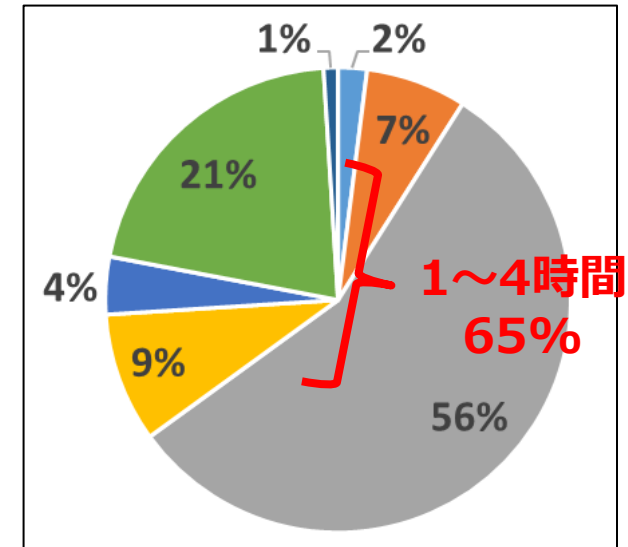
- 1時間程度 ■ 2時間程度 ■ 土日のどちらか半日
- 土日のどちらか1日間 ■ 休日は両日活動・平日に休養日設置
- それぞれの目標に沿った活動 ■ その他



中学生



小学生保護者



中学生保護者

●参加者/関係者の声

保護者・指導者

ガイドライン通りの練習時間では勝てない。もっと練習させる環境が必要ではないか。

他クラブでは、県外遠征にも行っている。同じステージの大会（中体連）で試合をするのは公平ではない。

指導者

無理のないペースでの活動の方が長続きするので良いと思う。

中学生

大会前等にはもっと練習したい。

2.実証内容と成果⑦

参考資料



三クラブ合同練習：陸上



鯖江北CSC：ソフトテニス



さばえSC：新体操



さばえSC：柔道

2.実証内容と成果



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年度	R3国モデル事業	R4国モデル事業	R5県補助事業	R6国実証事業	R7国実証事業	R8	R9	R10	R11	R12	R13
国	モデル期間		改革推進期間			改革実行期間（前期）			改革実行期間（後期）		
鯖江市	連携（主体は学校、地域と共に）				協働（主体は地域、学校と共に）		融合（地域主体）				
			併存期間（平日・休日活動の連携、指導者は協力了解の教職員に協力依頼）				休日完全実施・平日活動はできるところから				
会議等	検討会（中学校、SC）		協議会、検討会、三クラブ連絡協議会、中学校長会、（学校）地域クラブ担当者会								
					クラブ組織再編会議 （新会費・クラブ統合協議）						
方針		基本方針策定	中学校部活動および地域 クラブ活動在り方針		平日活動方針	認定クラブ方針					
アンケート		児童生徒、保護者、教職員アンケート調査					実態アンケート調査			実態アンケート調査	
運営	市教委運営	総括CD配置	地域CD・文化CD配置								
運営主体	運営主体 総合型地域SC に依頼	中学校区の総合型地域スポーツクラブ運営					仮認定	認定	JSPO認定クラブを目指す		
		三クラブ連絡協議会（クラブ運営（マネジメント）、実施主体実施・運営（指導者発掘・育成、リスクマネジメント）、広報（周知）、学校との連携 等									
		・文化関連を取組むことの合意		平日活動に関して協議・方針決定		クラブ事務局一本化	業務分担協議中	クラブ統合 R8～協議開始			
						民間企業との協議	平日・休日指導者派遣	希望者面談終了・他候補者模索中			
						大学との協議	指導者サポート事業	大学単位取得可否依頼・確認予定			
						危機対応・管理マニュアル作成	危機管理対応	運営団体・指導者手引き案協議中			
							アプリ活用	模索中（1月～3月）			
		スポーツ安全保険（三クラブ連絡協議会で加入）、クラブ団体保険加入									
実施主体	鯖中：剣道、柔道	鯖中：＋ホッケー、女バス、陸上	さばえSC：運動16種目、文化2種目		運動16種目、文化2種目	運動16種目、文化2種目		R8以降指導者確認・依頼 不足指導者：関係団体に依頼			
	中央：サッカー、バド	中央：＋剣道、女バス	鯖北CSC：運動17種目、文化2種目		運動16種目、文化2種目	運動15種目、文化2種目					
	東陽：男バス	東陽：＋女バス	東陽SC：運動12種目、文化1種目		運動11種目、文化1種目	運動10種目、文化1種目					
					公民館活動受け皿依頼 地域活動受け皿依頼	交流の場の開催		公民館・一般団体依頼中 NPOセンター依頼予定（障がい者関連含）			
			文化部門関連地域展開開始								
鯖江市	指導者研修会										
			小中学校スマートロック設置	段階的な運用	学校側対応準備期間		正式運用				
			中学校校舎内シャッター設置	段階的な運用			正式運用				
				「鯖江市運動・スポーツ推進計画」 推進委員会		中学校施設優先利用（規則改訂）					
				公認スポーツ指導者、文化指導者資格取得支援（スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会）							
			困窮家庭への支援（準要）								

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県あわら市

自治体名： 福井県あわら市

担当課名： スポーツ課

電話番号： 0776-73-8043

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	116.98km ²
人口	26,302人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	608人
部活動数	20部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市には、2校合わせて20の学校部活動がある。部活動の地域展開については、令和4年度に検討委員会を立ち上げ、5度の検討を重ねた結果、市にある総合型スポーツクラブ「あわらトリムクラブ」が学校に代わる、クラブ活動の運営団体となることが決まった。

しかし、現状のトリムクラブは会員数が約300名。その7割近くは50歳以上の高齢者が占めており、クラブでの活動も高齢者向けの教室がほとんどであり、中学生向けの活動はない。

今後はクラブ内に中学校の部活動を運営できる組織及び人員の配置が必要である。

本市では、国が示す通り、令和5年度から

令和7年度末の改革推進期間に、まずは、休日の部活動の地域展開を完了することを目標に、移行の準備と受皿となるクラブの体制づくりを進めてきた。

令和5年度には7つ、令和6年度には6つ、令和7年度には6つの部活動の地域展開を行い（1部活動は休部中）、令和7年度中にすべての運動部の移行を完了する。また来年度からは、本格的に部活動平日展開にも着手する。今後、部活動の地域展開を踏まえた、地域での持続可能で多様な活動を行えるよう、クラブ内の盤石な基盤づくりと地域全体を巻きこんだ地域のネットワークづくりを考えている。



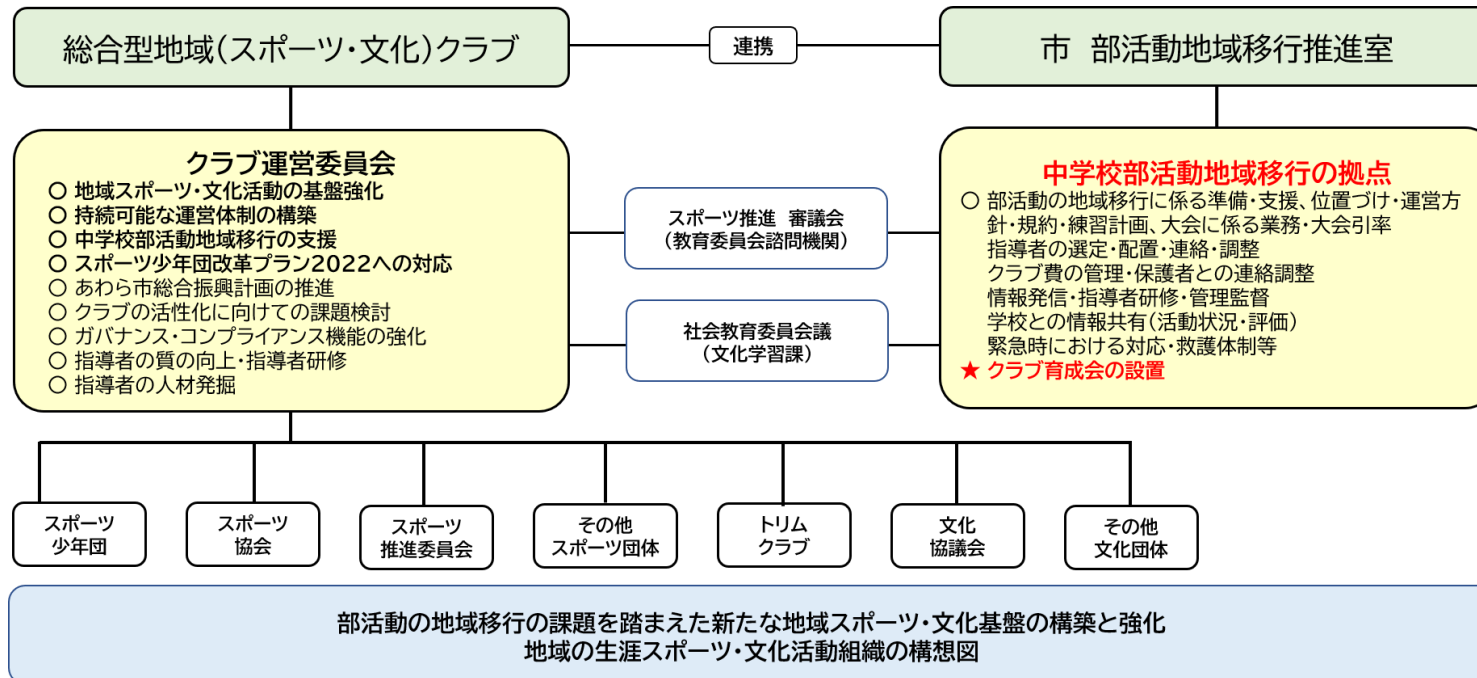
【課題】

- ① 持続的な財源の確保
- ② 教育的視点を持った指導者の育成
- ③ 部活動の地域展開を踏まえた地域のコミュニティの創出

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・スポーツ課……部活動改革の主幹、学校配置コーディネーターとの調整・連携指導者の労務管理・コーディネーターの労務管理・クラブ備品の調達・管理、関係者へのアンケートと調査・体験会の企画

◎ 首長部局

・財政課……予算措置

●年間の事業スケジュール

令和7年5月	第1回 各クラブ育成会会議
令和7年6月	第1回 指導者研修会
令和7年8月	第2回 各クラブ育成会会議
令和7年10月	第2回 指導者研修会
令和7年12月	クラブ会員アンケート調査
令和8年 1月	クラブ説明会 児童・保護者
令和8年 1月～	クラブ体験会
令和8年3月	第3回 指導者研修会
令和8年3月	育成会代表者会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	18クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域展開した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		18クラブ（19部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	34人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは 末尾に（新）を 付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 （他クラブと 兼務）	会費	大会参加方法
あわら トリムクラ ブ	総合型地 域スポーツ クラブ	令和5年移行① あわら剣道	月4回/週 1回程度	休日午前ま たは午後	1年8名 2年10名 3年14名	4月～翌年3月	市民武道館	2人	2人	年会費 10,000円	中体連：部活 動 その他：地域ク ラブ
あわら トリムクラ ブ	総合型地 域スポーツ クラブ	令和5年移行② あわら女子バス ケットボール	月4回/週 1回程度	休日午前ま たは午後	1年6名 2年7名 3年8名	4月～翌年3月	金津中学校	2人	2人	徴収なし	中体連：部活 動 その他：地域ク ラブ
あわら トリムクラ ブ	総合型地 域スポーツ クラブ	令和5年移行③ 金津女子ソフト ボール	月4回/週 1回程度	休日午前ま たは午後	1年4名 2年5名 3年3名	4月～翌年3月	金津中学校	2人	2人	月会費 1,000円	中体連：部活 動 その他：地域ク ラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは 末尾に（新）を 付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 (他クラブと 兼務)	会費	大会参加方法
あわら トリムクラブ	総合型 地域ス ポーツク ラブ	令和5年移行④ AWARA陸上	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年8名 2年9名 3年4名	4月～翌年3月	三国運動 公園陸上 競技場	2人	2人	必要に応じて 徴収	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型 地域ス ポーツク ラブ	令和5年移行⑤ 卓球	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年2名 2年4名 3年0名	4月～翌年3月	B&G体育 館	2人	2人	その都度、必 要に応じて集 金	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型 地域ス ポーツク ラブ	令和5年移行⑥ 芦原バドミントン	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年15名 2年11名 3年13名	4月～翌年3月	芦原中学 校	2人	2人	その都度、必 要に応じて集 金	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型 地域ス ポーツク ラブ	令和6年移行⑦ 金津バドミントン	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年3名 2年6名 3年7名	4月～翌年3月	B&G体育 館	2人	2人	月会費 4,000円シャ トル代	中体連：部活動 その他：地域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型 地域ス ポーツク ラブ	令和6年移行⑧ 芦原女子バレー ボール	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年11名 2年5名 3年8名	4月～翌年3月	芦原中学 校	2人	2人	1,000円後 は必要に応じ て集金	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

	運営団体 種別	種目 ※新規のものは 末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加 方法
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和6年移行 ⑨芦原男子 バスケットボ ール	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年10名 2年5名 3年6名	4月～翌年3月	芦原中学 校	2人	2人	前期5,000円 後期5,000円	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和6年移行 ⑩芦原サッ カー	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年3名 2年6名 3年3名	4月～翌年3月	芦原中学 校	2人	2人	年間10,000円 程度	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和6年移行 ⑪金津男子 ソフトテニス	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年16名 2年8名 3年9名	4月～翌年3月	金津中学 校トリム パークかな づ	2人	2人	特になし	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和6年移行 ⑫金津女子 ソフトテニス	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年16名 2年8名 3年11名	4月～翌年3月	金津中学 校トリム パークかな づ	2人	2人	1,000円後は必 要に応じて集金	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和7年移行 ⑬芦原野球	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年6名 2年9名 3年2名	4月～翌年3月	芦原中学 校	2人	2人	1,000円 後は必要に応じ て集金	中体連：部 活動 その他：地 域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

	運営団体 種別	種目 ※新規のものは 末尾に(新)を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼 務)	会費	大会参加方法
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和7年移行 ⑭金津野球	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年5名 2年6名 3年8名	4月～翌年3月	金津中学 校	2人	2人	前期5,000円 後期5,000円	中体連：部活動 その他：地域クラ ブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和7年移行 ⑮金津サッ カー	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年1名 2年9名 3年15名	4月～翌年3月	芦原中学 校	2人	2人	年間10,000 円程度	中体連：部活動 その他：地域クラ ブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和7年移行 ⑯金津男子 バスケットボ ール	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年8名 2年8名 3年14名	4月～翌年3月	金津中学 校	1人	2人	特になし	中体連：部活動 その他：地域クラ ブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和7年移行 ⑰金津女子 バレーボール	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年8名 2年2名 3年8名	4月～翌年3月	金津中学 校	2人	2人	必要に応じて 集金	中体連：部活動 その他：地域クラ ブ
あわら トリムクラブ	総合型地 域スポー ツクラブ	令和7年移行 ⑱芦原女子 ソフトボール	月4回/週 1回程度	休日午前また は午後	1年2名 2年6名 3年4名	4月～翌年3月	芦原中学 校	1人	2人	必要に応じて 集金	中体連：部活動 その他：地域クラ ブ

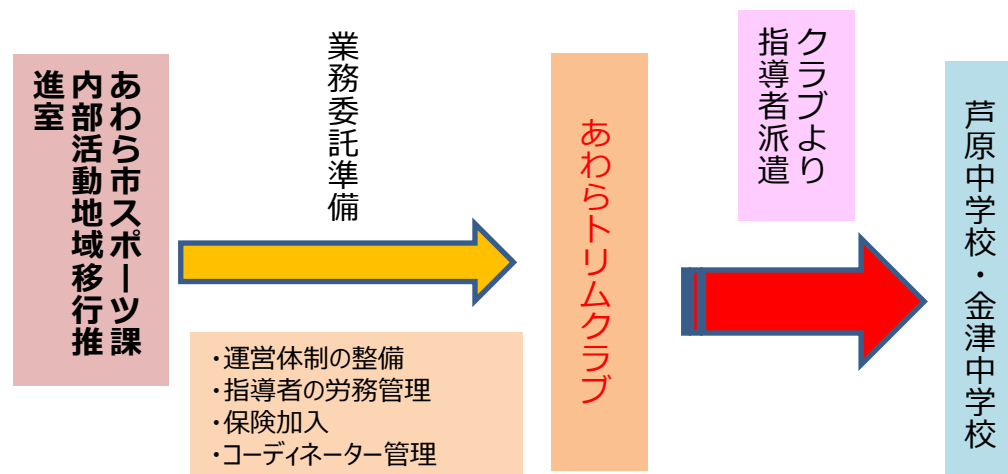
2.実証内容と成果

主な取組例

●あわらトリムクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道・陸上・サッカー・男子バスケット・卓球・女子バスケットボール・女子ソフトボール・男女ソフトテニス・女子バレーボール 男女バドミントン・野球
運営団体名	あわらトリムクラブ
期間と日数	令和7年4月～令和8年3月まで 月4回程度
指導者の主な属性	あわらトリムクラブ契約のインストラクター
活動場所	芦原中学校・金津中学校 トレーニングセンター・B&G体育館 市民武道館・トリムパークかなづ等
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	クラブとしての会費は 令和8年度より徴収 現在は各クラブで必要経費を徴収
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者

役割：クラブ管理者として、指導者、育成会、学校との連絡調整を行う。

●メイン指導者 1名

役割：練習計画・活動指導・安全・健康管理・育成会との連絡調整を行う。

●クラブサポーター 1名

役割：主の指導者の補助及び緊急時の対応を行う。（複数体制で指導）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

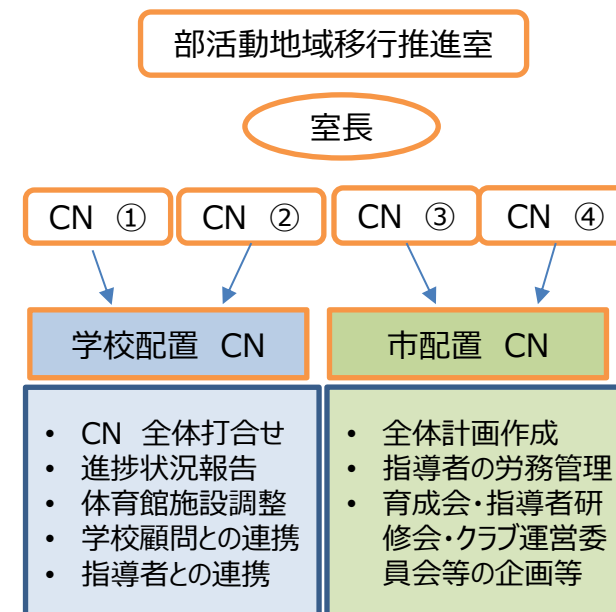
- 市のスポーツ課内に部活動地域移行推進室を設置し、地域展開を加速させた。
 - ① コーディネーターを4名配置
 - ② クラブ育成会の開催
子供をサポートする保護者会
 - ③ 指導者研修会
質の向上と危機管理の研修
 - ④ 学校長との情報交換会（月1回）部活動の地域展開を踏まえ、課題や協議すべきことを共有するために開催

取組の成果

- 学校にコーディネーターを配置し、学校、部活動顧問、クラブ指導者との調整、体育館の使用割り振りを行うことでクラブがスムーズに運営できた。また、育成会の存在は、多少なり負担感はあるようだが、指導者にとっては頼れるものとなっている。指導者研修会は、指導者にとっても有意義なものとなっており、さらに運営側が指導者の思いを受け止め今後に生かすという点でも良い機会である。学校長との情報交換は、月1回での開催ではあったが、自然と常時連絡を取ることにつながり、今後も続けたい。

今後の取組における課題

- コーディネーターがどこまで関わるのか。あくまでもコーディネートが主であり、次第に指導者や育成会が連携し、自走できるようサポートしていく立場で、任務を遂行したい。



CN はコーディネーターの略

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ① 休日の地域クラブ実施に向けてのクラブ指導者との連絡調整
- ② 休日の学校体育館使用割り当て（学校部活動との調整）
- ③ 休日の地域クラブ活動の巡視及び指導者への助言、課題把握
- ④ 部活動地域移行推進室打合せ会（毎週火曜日）

課題への対応方針

- 令和7年夏に、19の学校部活動の完全移行が完了。現在は、市のスポーツ課内に部活動の地域移行推進室を設けて移行業務を行ってきたが、次年度からは、順次、受皿となる市の総合型地域スポーツクラブに職員を派遣し、平日展開も含め本格的にクラブ運営を行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ① 令和5年度より、市にあるスポーツ団体等に指導者の推薦を依頼。また、団体から代表者1名を推薦してもらい、今後のクラブのあり方を検討した。
- ② 指導者研修会 年3回開催。指導方針の確認や安全管理・ハラスメント・生徒理解の研修に参加。

登録者属性

指導者の職業内訳

- ・ 会社員 23名
 - ・ 退職教員 2名
 - ・ 兼職兼業教員 5名
 - ・ 兼職兼業市職員 2名
 - ・ 無職 2名
- 市スポーツ協会からの推薦者や学校推薦等。

種目

- ・ 剣道 ・陸上
- ・ 卓球 ・野球
- ・ 男女バスケットボール
- ・ 女子ソフトボール
- ・ 女子バレーボール
- ・ 男女バドミントン
- ・ 男女ソフトテニス
- ・ サッカー

資格有無

- ◆ 主な指導者
18名中11名が取得
日本スポーツ協会
コーチ1
JBA公認コーチ
日本サッカー協会
- サポーター
16名中4名が取得
日本スポーツ協会
コーチ1
JBA公認コーチ 等

取組の成果

- 本市では生徒のレベルに応じた指導や緊急時を想定した対応の必要性から、複数でクラブを指導している。クラブでの雇用（謝金あり）は2人であるが、クラブによっては育成会（保護者）が練習のサポートをしているクラブも出てきている。クラブには活動する子どもたちを支える育成会があり、会には、代表者（会長・副会長・会計）を置き、会の運営を支えている。例年、代表者が集まったグループ毎の情報交換会では、保護者の建設的な声を聞くことができる。令和7年度は、3月16日（月）に開催を予定している。次年度から、すべての運動部の休日活動を「あわらトリムクラブ」が担うことになり、さらなる情報交換が不可欠である。

指導者研修会の様子



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者研修会①】

- ・対象 モデルとなっているクラブの指導者
- ・目的 ① 令和7年度実践内容の共有、アンケート結果の報告
② クラブの運営方針について共通理解
- ・工夫 生徒・保護者・指導者・学校顧問の意見をクラブに反映した。

【指導者研修②】

- ・対象 モデルとなっているクラブの指導者・サポーター
- ・目的 危機管理（緊急時の対応 AEDの使い方）
- ・工夫 市の消防署の協力のもと、指導者に実技研修を行った。

【指導者研修③】

- ・県主催の地域クラブ指導者講習会に参加。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 6月29日 10月18日 3月19日
- ・開催回数： 年3回 参加実績数：延べ75名

本市では教育委員会指導者登録制度を試験的に実施しており、その条件として、市が定める指導者研修会（①資質向上研修（コーチング）②生徒指導・生徒理解研修 ③安全管理研修）を受講することを条件として、教育委員会公認の指導者登録証を発行。

受講者の声



①救急法の実技講習会を受けて…以前も救急法の講習を受けたが心肺蘇生のやり方が変わってきているので、毎年受講が必要と感じた。

② 指導者の資質向上研修（県の指導者研修会参加）

テーマ「生徒が安心してのびのびと活動を楽しむために」

指導者の暴言・暴力の根絶、ジュニア期の指導者のコーチングで大切なこと等を学んだ。

今後の取組における課題

- 指導者の資質向上のための手立て
- 研修会をより充実させるための、内容や日程調整
- 指導者間の情報共有や指導者の発掘等も視野に入れた研修会

課題への対応方針

- クラブ指導にあたっては、日本スポーツ協会の資格等を取得することが望ましいが、現状では難しいため、研修をより充実したものにしていきたい。
- 現在、指導者LINEを設け、情報を共有しているが、今後はコーディネーターが仲介しながら、学校（部活動顧問）との連携を強化したいと考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

●市のスポーツ課内に部活動地域移行推進室を設置し、地域展開の推進部署とした。

(1) 室長をトップに、コーディネーターを4名配置

- ① CN1…総括コーディネーター。市のスポーツ課に常駐し、市内の2校、教育委員会、地域をつなぐ役割を担う。年間スケジュールを立案し、会議等の招集も行い、他市町との情報交換の窓口も兼ねる。
- ② CN2…あわらトリムクラブ内で業務。次年度からの準備を推進。
- ③ CN3…芦原中学校担当。勤務場所は主にトリムクラブ。
- ④ CN4…金津中学校担当。勤務場所は主にスポーツ課。

取組の成果

それぞれの学校の担当コーディネーターが、担当校の管理職や部活動顧問とつながっていることで、様々な情報を共有でき、部活動の地域展開に関する課題の把握やそれに向けた課題解決の糸口を見つけることができた。クラブ員の状況等、安全に活動するための情報共有が可能であり、保護者の不安等にも対応できている。

今後の取組における課題

市内中学校は2校ということで事業を推進しやすいと思われがちだが、逆に足並みをそろえることが困難なこともあった。会計処理等、これまでのやり方が異なるため等。両校、そして子どもたちや保護者が迷わないよう、的確で正しい情報を提供することが今後の必要になる。情報収集には効果的な取組だが、その情報や課題を共有しどこにどのように伝えていくかを明確にしていかなければならない。

課題への対応方針

今後は、コーディネーターの配置や、役割の明確化等を再考し、「市としての継続可能な部活動地域展開」を踏まえた取組になるよう、学校や地域とタイアップしたものにしていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ① 「児童、生徒へのアンケート実施」…既存以外で子どもたちが求めている活動の場は「小6生：ダンス・eスポーツ・カヌー」「中学生：ドッジボール・アスレチック・弓道」となった。来年度より創設を協議していく予定である。
- ② 「クラブ体験会・見学会（12月～ 小6対象）」…休日のクラブ活動の見学や体験ができるようにした。参加希望者は事前に指導者に連絡するシステム。
- ③ 「育成会の発足（保護者会）」…クラブ活動をサポートする保護者の会。活動の見守りや送迎、用具の運搬等に協力してもらえらる。
- ④ 「地域展開通信」…「部活動地域展開通信『かがやき』」を定期的に発行（クラブ員や市内各小中学校に）。地域展開の進捗やあわらトリムクラブに関する情報を掲載。
- ⑤ 「説明会」…小6保護者対象（11月）、小6児童対象（各小学校で1月）の説明会を開催。質疑も交え1時間程度。

取組の成果

- ① 子どもたちのニーズが把握できた。活動の場が確保できるよう次年度より実現に向け協議をしていく予定。

- ② 実際の参加者数…小6児童の約半数が参加。児童の部活動への関心が高まる、市外の地域クラブへの流出を防ぐ、等の成果があった。次年度は通年で行う予定。
- ③ 活動の安心安全を考えると、運営側にとっても指導者にとっても不可欠な存在である。クラブ間での情報共有が今後の課題といえる
- ④ ホームページやSNSでの情報発信も便利で有効だが、紙媒体での配布も効果があることを実感できた
- ⑤ 保護者の声や要望、児童の疑問を聞くことで、新たな気づきもある。保護者や児童のための開催ではあるが、推進・運営側へのメリットも多く、今後も取組んでいきたい。

今後の取組における課題

- アンケート結果の生かし方
- 小学生やその保護者への情報発信（内容や時期）
- 育成会の縦や横のつながり
- 体験会・説明会の開催時期や内容

課題への対応方針

保護者の意識は「これまでの部活動」からなかなか離れられない。まずは、意識改革からかもしれない。地域クラブの在り方やこれからの目指す姿を具体的に提示し、理解を求めていく。金銭的な支援も含めて。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- 本市では、令和5年度から令和7年度の3年間で休日の地域展開を完了した。移行期の3年間は公平性を保つため会費の徴収は行っていない。令和8年度からの受益者負担額の設定について検討を行ってきた。受益者負担の対象としては、指導者謝礼、保険料、事務局人件費等のクラブ運営費とし、経費の合計額と受益者負担の差額をクラブ自主財源や市の支援等公的資金を活用することとした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

既存クラブの機器等をそのまま活用し、新たに導入するものについては、市が支援を行う。

■ランニングコストの分析

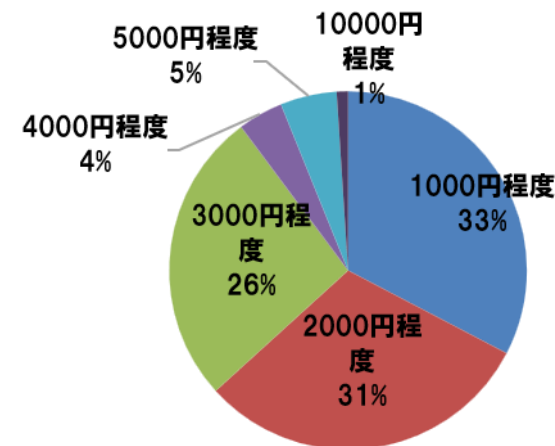
- ・指導者謝金等（6,720,000円）
- ・事務局人件費等（3,756,500円）
- ・印刷・通信運搬費（616,620円）
- ・保険料（84,000円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

保護者に過度な負担とならないよう、アンケート結果を参考とするとともに、市の支援等の公的資金とのバランスを考慮し、持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。

受益者負担額は、下記内容で試算を行い、クラブを運営するための人件費や事務経費に充てる見込みとしている。

- ・クラブ年会費：2,000円
- ・クラブ会費（月額）：2,000円



受益者負担額（月額）に関する保護者アンケート結果

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等② 収支バランス表

収支バランス

●収入

項目	費用	割合
公費（市補助金）	4,699,620	39.8%
会費	7,086,000	60.2%
合計	11,785,620	

- クラブ年会費 2,000円×348名=696,000円
- クラブ受講料
 - 1年生 2,000円×12か月×125名=3,000,000円
 - 2年生 2,000円×12か月×114名=2,736,000円
 - 3年生 2,000円×3か月×109名=654,000円
(中学3年生は4月～6月までと仮定)

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	6,720,000	57%
内訳	諸謝金（指導者）	—
	旅費	—
事務局運営費	5,065,620	43%
内訳	人件費・委託料	—
	印刷・通信運搬費	—
	消耗品費	—
	保険料（個人・団体）	—
合計	11,785,620	

- 指導者（リーダー）
1回1,600円×3時間×50回×16人
- 指導者（サブリーダー）
1回1,000円×3時間×50回×16人

- 指導者 1回300円×50回×32人

- 事務局1名分3,300,000円
- 委託料 456,500円

- 指導者 2,000円×32人
団体 20,000円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- 本市は、総合型地域スポーツクラブが中学校部活動の受け皿となることから、現在のクラブでの会費や受講料（指導者への謝金）等との整合性を検証しながら諸経費を決める必要があるため検討を重ねてきた。現段階での結論は次のとおりである。
 - ①クラブの年会費（受益者負担 一人、2,000円） クラブを運営するための人件費や事務経費等に充てる見込み。
 - ②スポーツ保険加入費（受益者負担 一人、800円） ③受講料（受益者負担 月2,000円）

今後の取組における課題

- 持続可能で安定したクラブを運営していくための、運営資金
- 保護者の負担を可能な限り減らす取組
- クラブ運営が今後継続できるための資金調達の手段

課題への対応方針

- 市内の企業から運営支援を受けるための取組（寄付・協賛金）…一時的なものか継続的なものかの協議が必要。「ウインウイン」が原則。
- 国や県等への補助金申請…「あわらトリムクラブ」だけの資金では、クラブ指導者への謝金すら支払うことができなくなる。備品や消耗品代等の活動する上での道具等は、保護者には頼れない。
- クラブ員数の安定、増加への手立て…今後、少子化等もあり、クラブ員の減少が予想される。スポーツ少年団等とも協力し、地域クラブの魅力等をどんどん発信し、クラブ員が増えていくための方策を来年度中には固めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 本市では市内にある2つの中学校の部活動をすべて、総合型地域スポーツクラブが運営を担うことになっている。そのため生徒の活動拠点も両中学校の体育館・グラウンドが主となる。現在、休日に学校の先生が指導しないことを想定して、両中学校のコーディネーターが、休日の体育館及びグラウンドの使用割り当てを行っている。現在は学校部活動と地域クラブが共存しており、その調整もコーディネーターが行っている。

取組の成果

- コーディネーターが学校との調整役となり指導者・部活動顧問と相談の上、体育館・グラウンドの使用を調整しているので、活動がスムーズに行われている。
- 現在、休日の部活動の計画については、学校顧問と連携し、学校の月練習計画の中に休日の地域クラブの予定も入れて生徒に配布している。
- 部活動地域移行推進室と両中学校がネットワークで繋がっており、情報の共有がスムーズに行われている。

今後の取組における課題

- 両校の行事や施設制限の把握
- 練習試合の会場調整
- 冬季間や雨天時の会場確保

課題への対応方針

- 現在はコーディネーターが学校の中で、クラブ指導者・学校顧問と連携を取りながら使用場所の割り振りを行っている。令和8年度から完全移行となるため、クラブ独自で活動場所の割り振りをする必要がある。また、現在の課題は練習試合の機会の確保である。これまで練習試合は学校顧問が他校と練習試合の日程調整を行ってきたが、完全移行後はどのように行っていくかの検討が必要である。

【4月】 芦原中学校関連体育施設利用状況(土・日・祝)

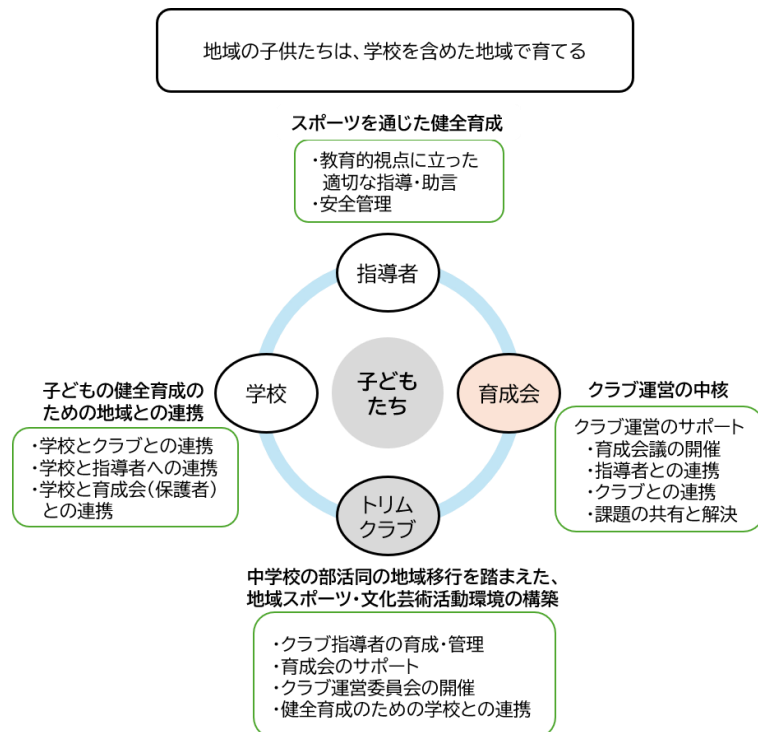
	4月4日 (土曜日)						4月5日 (日曜日)						4月11日 (土曜日)					
	学校施設		あわら市体育施設		学校施設		学校施設		あわら市体育施設		学校施設		学校施設		あわら市体育施設		学校施設	
時間	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド	体育館	グラウンド
7:30~																		
8:00~																		
8:30~	男女バドミントン	男子サッカー	軟式野球	女子ソフト		剣道	吹奏楽	男子バスケット					女子バレーボール	男子サッカー	軟式野球	女子ソフト	剣道	吹奏楽
9:00~																		
9:30~																		
10:00~																		
10:30~																		
11:00~																		
11:30~																		
12:00~																		
12:30~																		
13:00~																		
13:30~																		
14:00~																		
14:30~																		
15:00~																		
15:30~																		
16:00~																		
16:30~																		
17:00~																		
17:30~																		
18:00~																		
備考																		

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和4年度から始まった部活動の地域展開も令和7年度の秋に両中学校とともに完了した。特に本市で力を入れて取組んだ点としては、持続可能でしっかりとした組織をつくり、安定した運営を行っていくことである。そのため、下記のような組織のもと運営を行っていくことの周知徹底を図り、地域クラブの子供たちをしっかりとサポートしていきたい。



●成果の評価

本市では令和4年度、市に「部活動の地域移行に係わる検討委員会」を立ち上げ検討を進め、方向性を「提言」としてまとめているため、地域展開を進めやすかった。

【提言の内容】

- ① 総合型地域スポーツクラブを中学校の部活動の受皿とする。
- ② 受皿としての体制を強化するため、財政支援及び必要な人員を確保する。
- ③ 誰もがスポーツ・文化活動に親しむ環境整備に向けて、あわらトリムクラブ内に運営委員会を設置する。
- ④ 令和7年度末までの休日の部活動展開をめざし、市の推進室の強化を図る。
- ⑤ 各中学校にコーディネーターを配置し、市と中学校との連携を強化する。

提言後、市に地域移行推進室を設置し、着実に実行しているため、スムーズに進んだ。

●今後に向けて

令和5年度から進めてきた休日の部活動の地域展開は、何とか令和7年度中に完了した。しかしながら、多くの課題を抱えている。特に、指導者の安定的な確保や会費の保護者負担、何より、クラブの備品等を購入できる費用がほとんどなく、今後合同クラブになった場合のユニフォーム代や大会参加にかかる費用、消耗品の購入等、財源をどうするのか等、解決が難しい課題が多い。

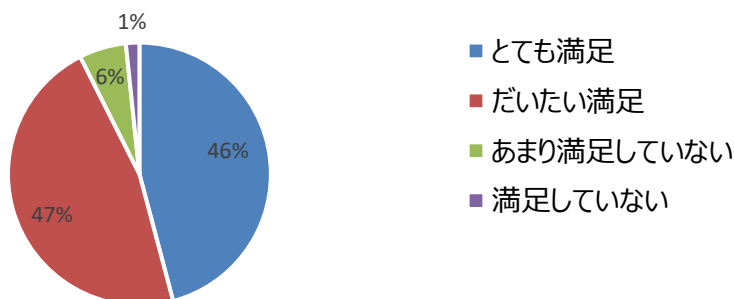
令和8年度から本市では平日展開の準備と、受け皿である総合型スポーツクラブの充実した運営に力を注ぎたい。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

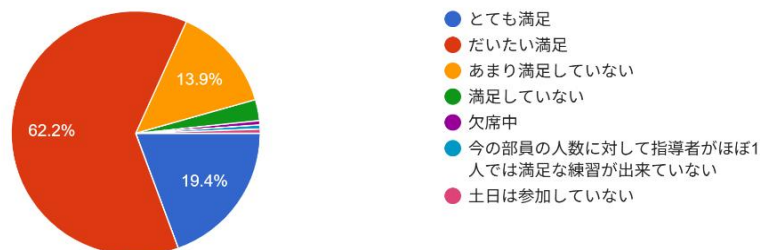
地域クラブ参加生徒への調査

地域クラブ活動満足度（あわら市全体）



地域クラブ保護者への調査

あなたは、現在の休日の地域クラブ活動に満足していますか
180 件の回答



●参加者の声

中学生 とても満足 46% 満足 47%

全体の93%が地域クラブにとっても満足・または満足と回答。その理由としては専門の指導者が分かりやすく教えてくれる。複数の指導者に教えてもらえる。楽しく活動ができている等であった。

中学生 あまり満足でない 全く満足でない 6%

全体の6%が地域クラブにあまり満足でない・全く満足でないと回答。その理由の中には、もっと練習がしたい、人数が少ない等であった。

保護者の声

- ・ 指導者が複数になることでいろんな視点から指導してもらえることはありがたいことです。
- ・ 平日もクラブ活動になる場合、送迎が不安。
その他、要望は多数あり、今後の検討課題となっている。

モデルとなっている部活動の顧問の声

休日を休日らしく過ごせる。プライベートな時間が増えた。精神的なゆとりが感じられるようになった。家族との時間を大切にすることができた。専門的な指導が受けられてありがたい等の声が寄せられた。

2.実証内容と成果③

広報資料 ホームページ（あわらトリムクラブ：部活動地域展開）

今年度は、小学校6年生の児童・保護者、中学校のクラブ員や保護者向けの通信（「かがやき」）を配付し、部活動地域展開やあわらトリムクラブに対する情報を発信した。あわらトリムクラブのホームページにも同時掲載。また、各小中学校とも連携し、教職員にも「あわら市における部活動地域展開」の理解を深めてもらうための説明会を実施したり、通信「かがやき」を配付した。さらに、コーディネーターが毎月の市の校長会にも出席し、取組の進捗や課題を共有することができた。

あわら市 部活動地域展開通信「かがやき」第2号

令和8年1月 発行
あわら市教育委員会

R8 新しい部活動の形がスタートします!!

令和8年4月からは、芦原・金津両中学校の休日(土・日・祝日)に活動しているすべての部活動の運営を、「(一社)あわらトリムクラブ」が担うことになります。それにより、休日に活動する場合は、「あわらトリムクラブ」に入会することが必要になります。

●平日(月～金)
「部活動」

※水曜は原則・部活動はありません

×

●休日(土・日・祝日)
「地域クラブ活動」

あわらトリムクラブが運営

★あわらトリムクラブ(ATC)は、芦原中・金津中の地域での活動『地域クラブ活動』を応援、サポートします

HP 

①「部活動の地域展開」ってなに？



学校・家庭・地域全体が一体となって、生徒の活動を支えていくという考えです。そして、新たな価値を創り、まちづくりへの貢献につなげていくことです。

②芦原中・金津中にどんなクラブがあるの？

■金津中の部活動・地域クラブ (R8)

No.	部活動(平日)	地域クラブ(休日)
1	剣道部	あわら剣道クラブ
2	ソフトボール部	AWARAソフトボールクラブ
3	サッカー部	あわらFC
4	野球部	金津軟式野球クラブ
5	バドミントン部	金津バドミントンクラブ
6	吹奏楽部	金津吹奏楽クラブ
7	女子バレーボール部	金津女子バレーボールクラブ
8	男子バスケットボール部	金津男子バスケットボールクラブ
9	女子バスケットボール部	あわら女子バスケットボールクラブ
10	男子ソフトテニス部	金津男子ソフトテニスクラブ
11	女子ソフトテニス部	金津女子ソフトテニスクラブ
12	卓球部	あわら卓球クラブ
13	陸上部	AWARA陸上クラブ
14	美術部	休日の活動はありません
15	報道部	休日の活動はありません
16	水泳部(平日・休日とも民間スイミングクラブで活動)	
17	新体操部	

■芦原中の部活動・地域クラブ (R8)

No.	部活動(平日)	地域クラブ(休日)
1	剣道部	あわら剣道クラブ
2	ソフトボール部	AWARAソフトボールクラブ
3	サッカー部	あわらFC
4	野球部	芦原軟式野球クラブ
5	バドミントン部	芦原バドミントンクラブ
6	吹奏楽部	芦原吹奏楽クラブ
7	女子バレーボール部	芦原女子バレーボールクラブ
8	美術部	休日の活動はありません
9	AWARA男子バスケットボールクラブ(平日・休日とも)	
10	AWARA陸上(平日・休日とも)	

※9～12の地域クラブに芦原中生徒も参加できますが、中体連の大会に芦原中として参加できるかは確認が必要です



裏面も見てください

あわら市 部活動地域展開通信「かがやき」第3号

あわら市教育委員会
令和8年2月19日発行

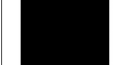
R8 あわらトリムクラブ入会受付中!!

1月に、市内7小中学校で、小学6年生を対象に説明会を開き、新しい部活動の形の話をしました。
そして、1月23日からは令和8年度の「あわらトリムクラブ」会員登録が始まりました。
中学1・2年生は、冬に競え、夏季大会につなげるために、小学6年生は、中学生になり自分の新しい可能性を見つけ伸ばすために、部活動や地域クラブへの参加と「あわらトリムクラブ」への入会を是非お願いします。



(小中学校説明会)

●入会方法
下の二次元(QR)コードから入会をお願いします



●第1次募集期間【1月23日～2月24日】

- ◇現中学1・2年生
- ◇現小学6年生で4月初めから練習を始めた人

※その後も随時申し込みを受け付けます。

※小学6年生につきましては、4月に学校部活動に入ってから、クラブへの入会申込をすることもできます。

【重要・お願い】
現在トリムクラブで活動している人も、改めて入会申込が必要です

【ちょっと確認①】

あわら市の新しい部活動の形とは…

これまで

平日(月曜～金曜)
部活動
学校の先生が指導
↓
あわら市教育委員会

+

休日(土・日・祝日)
部活動
学校の先生が指導
↓
あわら市教育委員会

→

R8～地域展開

平日(月曜～金曜) 休日(土・日・祝日)
部活動 地域クラブ
学校の先生が指導 地域の指導者等が指導
↓ ↓
あわら市教育委員会 あわらトリムクラブが運営協力

【ちょっと確認②】

	部活動	地域クラブ(あわら市認定地域クラブ)
活動日	平日(月曜～金曜) ※水曜は原則なし	休日(土・日・祝日)
	★(夏休み)など長期休業中の平日は、部活動として活動します	
活動場所	芦原中・金津中	中学校やトリムパークなど
指導者	教員、部活動指導員	地域の指導者、希望する教員など
保険	学校の安全会を使用	新たにスポーツ保険(年800円)に加入
会場使用	無料	中学校無料(優先的に利用可能) あわら市内施設の減免あり 学校備品の利用可能
中体連大会参加への補助	バス代、参加費、宿泊費の補助あり	バス代、参加費、宿泊費の補助あり
費用	部費(部により異なります)	会費(月2,000円) 年会費(年2,000円) 育成会費(クラブにより異なります)

20

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【あわら剣道 練習風景】



【金津サッカー 戦士たち】



【芦原女子バレー練習試合】



【AWARA男子バスケット
ボランティア活動】



【AWARA陸上 寒稽古】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

受け皿の決定
提言書作成
モデルクラブの選定
学校への説明

令和5年

モデルでの実践育
成会設置
クラブ運営委員会
の立ち上げ

生徒・保護者へ
の説明
育成会規約の検討
課題の洗い出し

令和6年

モデルクラブの拡大
育成会議
クラブ運営委員会
指導者研修会開催

令和7年

休日の部活動の
移行完了
地域クラブの体制
整備

令和7年内
休日の学校部活動の
完全移行完了予定
のクラブへの

- ステークホルダー
市スポーツ団体・文化団体・学校関係者・学識経験者・クラブ指導者等
- 経過
・年間5回の検討会を実施。市の総合型クラブを受皿とすることを決定。
- 実施にあたって生じた課題
・現在の総合型クラブの現状からは受皿となることが厳しい実態。
- 実施内容、工夫した点 等
・部活動の地域移行の検討会であるが、テーマを「部活動の地域移行を踏まえた、地域のスポーツ・文化活動の基盤の構築」とした点。

- ステークホルダー
指導者・保護者・クラブ関係者・学校
- 経過
モデル事業スタート。育成会設立、育成会開催。クラブ運営委員会の開催。指導者の選定。指導者研修
- 実施にあたって生じた課題
・危機管理上の指導者数の問題
・育成会組織の役割・活動内容
・学校部活動とクラブとの施設使用の割り当ての問題
- 実施内容、工夫した点 等
・令和6年度より2人体制で指導
・保護者への見守り要請
・育成会でのサポート体制の明確化

- ステークホルダー
指導者・保護者・クラブ指導者・学校
- 経過
・モデルクラブ数の拡大
・各クラブ育成会の開催
・指導者研修会の充実
- 実施にあたって生じた課題
・モデル拡大に伴う、指導者の確保
・育成会の運営の在り方
・クラブ運営委員会組織の刷新
- 実施内容、工夫した点 等
・育成会代表者会の開催育成会研修会
・指導者認定制度の導入
・クラブ運営委員会の刷新

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

あわら市 中学校 「部活動 地域展開」 のスケジュール 令和8年2月

改革推進期間（R5～R7年度末まで）						
2023（令和5年）		2024（令和6年）		2025（令和7年）		2026（令和8年）
休日の部活動の地域展開スタート モデル事業実施						休日は地域クラブとしての活動開 すべてのクラブで一斉スタート
休日の部活動の地域展開 モデル種目の拡大・検証						会費徴収スタート
芦原中学校						芦原中学校
1	バドミントン	1	サッカー	1	女子ソフトボール	1 男子バスケット
2	剣道（合同）	2	女子バレー	2	軟式野球	2 吹奏楽
		3	男子バスケット	3	吹奏楽	3 女子バレー
						4（剣道 合同）
						※候補種目 平日の予算の見通しが立てば移行可能
金津中学校						金津中学校
1	女子ソフトボール	1	男子ソフトテニス	1	サッカー	1 バドミントン
2	女子バスケット	2	女子ソフトテニス	2	男子バスケット	2 女子バスケット
3	剣道（合同）	3	バドミントン	3	女子バレー	3 卓 球
4	新体操			4	軟式野球	4 サッカー
5	卓 球			5	吹奏楽	（AWARA陸上合同）
6	AWARA陸上					※候補種目 平日の予算の見通しが立てば移行可能

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県越前市

自治体名： 福井県 越前市

担当課名： 教育委員会事務局学校教育課

電話番号： 0778-22-3127

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	230.70km ²
人口	80,264人
公立中学校数	8校
公立中学校生徒数	2,014人
部活動数 (運動部活動のみ)	78部活
地域クラブ活動数	10クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等 の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

現在、当市の運動部活動は、軟式野球部、男女バスケットボール部、男女バレーボール部、男女ソフトテニス部、剣道部、サッカー部、バドミントン部、陸上部が活動している。

少子化に伴い、各中学校の部員数が不足し部を休止せざるをえない状況も生じてきている。剣道部は、少数の部員数となり、団体戦への出場ができない場合も生じてきている。今後も、越前市の中学校の生徒数の減少が続くことが想定されており、昨今の出生者数を見ると、学校以外で子どもたちが地域でスポーツに親しむ機会を確保することが必要となっており、当市においても、中学校における部活動のあり方を検討している。

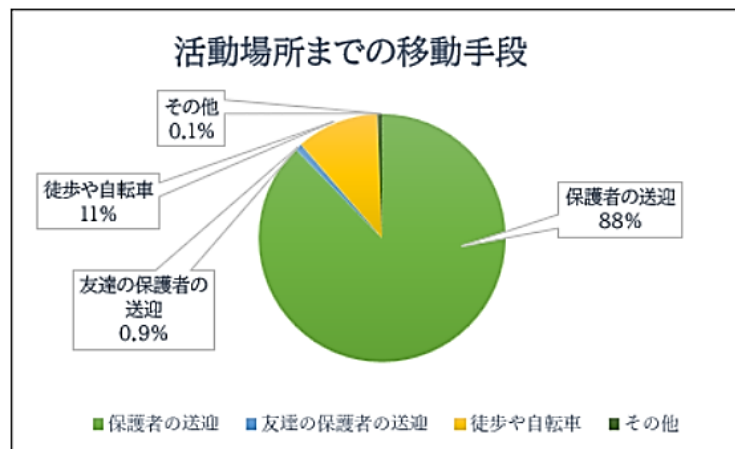
改革推進期間である3年間で、少子化の中でも将来にわたり、当市の子どもたちがスポーツに継続して親しむ機会を確保するため、地域クラブ活動を整備した。

令和5年度には、ソフトテニスと剣道の「地域クラブ活動」を開始し、運営の方法について、実証を重ねてきた。

令和6年度には、他の種目にも、事業を拡大し、課題の解決に取り組んだ。

令和7年度には、令和7年10月から休日の地域展開の完全実施を行った。

主な課題としては、運営団体・実施団体の体制整備等、指導者の確保・育成、活動場所の確保、移動手段がある。



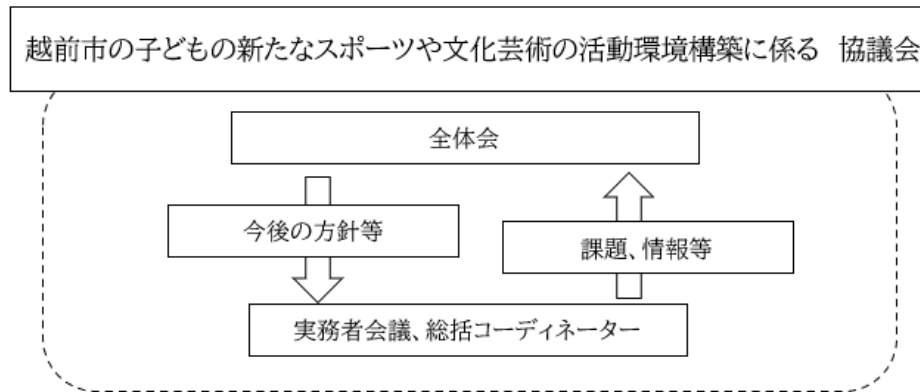
●課題

送迎を保護者に頼っているため、会場が遠い場合の参加が困難になることがある。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・ 総括コーディネーターの配置による地域クラブ活動との連絡調整
- ・ 施設利用等に係る連絡調整
- ・ 学校と総括コーディネーターとの部活動と地域クラブ活動との連絡調整

◎首長部局

- ・ 予算編成
- ・ 交通アクセスの協議

年間の事業スケジュール

令和7年

4月 前期地域クラブ活動開始

6月 第1回協議会

7月 第1回実務者連絡会

8月 後期生徒・保護者説明会

9月 「地域クラブ活動」競技団体説明会

10月 第1回指導者研修会
後期地域クラブ活動開始

11月 第2回協議会
第2回実務者連絡会

令和8年

1月 第3回実務者連絡会
第2回指導者研修会

2月 第3回協議会
「地域クラブ活動」見学会（小学6年生対象）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		10クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（および移行された部活動数）	0クラブ（0部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	10クラブ	
全体の指導者数	137人	全体の運営スタッフ数	137人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
越前市地域クラブ（剣道）	民間	剣道	休日 月4回	9:00～12:00	1年 15人 2年 15人 3年 12人	4月～3月	25人	25人 (内、兼務なし)	年会費 800円	中体連：部活動・地域クラブ その他：部活動・地域クラブ
越前市地域クラブ（ソフトテニス）	民間	ソフトテニス	休日 月4回	9:00～12:00	1年 49人 2年 52人 3年 39人	4月～3月	24人	24人 (内、兼務なし)	年会費 800円	中体連：部活動・地域クラブ その他：部活動・地域クラブ
越前市地域クラブ（陸上）	民間	陸上	休日 月4回	9:00～12:00	1年 22人 2年 18人 3年 0人	4月～3月	16人	16人 (内、兼務なし)	年会費 800円	中体連：部活動 その他：部活動

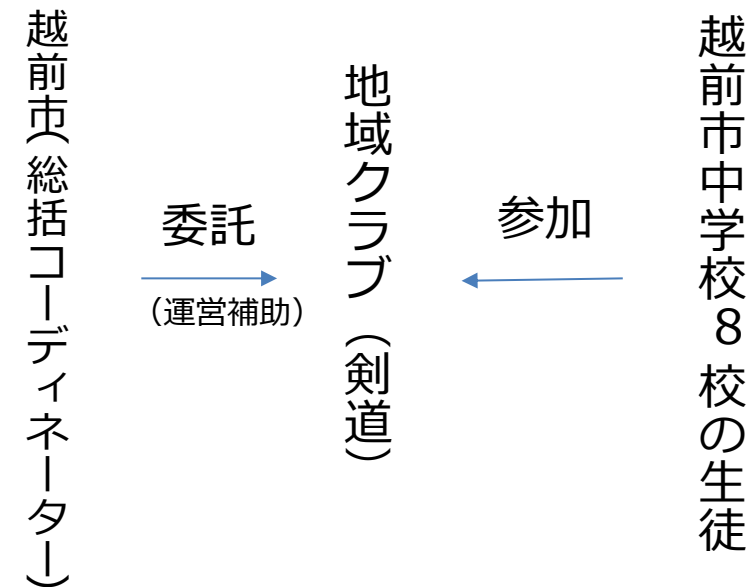
2.実証内容と成果

主な取組例

●越前市地域クラブ（剣道）活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	越前市剣道連盟
期間と日数	月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、剣道連盟所属の指導者
活動場所	越前市武道館
主な移動手段	保護者の送迎（車）
1人あたりの参加会費等（年額）	800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 統括責任者 1人
役割：出欠の確認、安全確認、生徒の状況、指導内容の調整を行う
- 主任指導者 1人
役割：指導内容と指導方法の調整を行う
- 運営補助者 2人～4人（26人の登録からローテーションで参加）
役割：主任指導者の補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教育委員会が、総括コーディネーター1名を配置し、運営団体の関係者との連絡調整・指導助言等を行う。
- 実務者会議を定期的で開催（令和7年度は、4回）し、実務者会議には、各運営団体の代表1人が参加する。
- 実務者会議では、現状の報告、改善点等を話し合い、今後の方向性を決定する。
- 生徒の出欠把握や「地域クラブ活動」の活動状況の確認、指導者の出退管理のため、「部活アプリ」の導入。

取組の成果

- 実務者会議を定期的で開催したり、総括コーディネーターが活動を巡回したりすることで、早めの活動計画の見直しや、指導者同士の連絡調整がうまくいった。
- 地域クラブ活動の共通目標を「できる楽しさを自覚させる」とし、生徒に寄り添う指導や支援を行うことを地域クラブ活動の共通認識にしたことで、各団体とも着実な運営を行っている。
- 中学生と関わる地域の指導者が増加している。（令和6年度107人、令和7年度137人）
- アプリの導入により、活動の様子をアプリで確認でき、保護者から大変好評を得ている。

今後の取組における課題

- 参加費や保険料の集金方法について、現金ではなく電子決済システムの導入
- 指導者の確保と平日部活動の地域展開にむけて、関係団体・大学・民間企業等との連携

課題への対応方針

- 令和8年度での電子決済システムの導入について、検討をおこなう。
- 民間企業との連携について、検討を進める。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・ 毎回、各地域クラブ活動を巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・ 協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努め、学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・市の指導者研修会を10月と1月の2回開催し、中学生の心理や安全の確保等について、講義を受けた。また、市の地域クラブ活動の理念や方針を説明した。
- ・県主催の指導者向け研修会への参加を促し、質を確保する。
- ・実務者会議（各地域クラブ活動の運営代表者）を開催し、指導の工夫について支援する。
- ・総括コーディネーターが毎回、各地域クラブ活動の状況を巡回し、運営について、支援する。
- ・競技団体との協議により、人材の発掘を推進する。

取組の成果

越前市の理念や方針を指導者に理解してもらい、指導者研修会等で生徒に寄り添う支援をお願いしていることで、参加者のアンケートによると、楽しい、役に立っていると回答する生徒の割合が、89%であり、高評価を得ている。

総括コーディネーターの巡回により、活動内容や指導方法の見直し等、早めの対応ができた。

総括コーディネーターが、競技団体や競技の関係者等と調整をおこない、人材発掘に努めた結果、137人の指導者を確保することができた。

今後の取組における課題

- ・指導者の質の向上のため、指導の資格について、今後、検討していくことが必要である。また、指導者資格への費用の補助についても、検討していく。
- ・競技団体やスポーツ少年団等との協議は、今後も継続して実施していくことが必要である。

課題への対応方針

- ・民間からの指導者を確保するため、競技団体やスポーツ少年団等の協議を引き続き行う。
- ・令和8年度から新たにスポーツ指導者資格取得した場合の費用の一部の補助を開始し、指導者の確保を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

地域クラブ活動の持続可能な運営に向け、指導者の資質向上及び指導者確保を目的として、指導者研修会を2回実施した。

第1回研修会では中学校部活動の現状や中学生への適切な指導方法、第2回研修会ではハラスメント防止や安全管理について学ぶ機会を設けた。研修を通して、地域クラブ活動の理念や生徒理解に関する共通認識を深めるとともに、指導上の留意点について理解を促進した。

また、既存指導者同士の情報共有や交流の場としても機能し、指導体制の充実につながった。今後も継続的な研修機会の確保や指導者間ネットワークの構築を進め、指導者の質の向上と安定的な人材確保に取り組む。



指導者研修の内容

研修名	第1回越前市「地域クラブ活動」指導者研修会
講師	中学校校長（日本スポーツ協会陸上競技公認コーチ）
研修内容	- 中学校部活動の現状 - 中学生への適切な指導 - よい指導者とは 等

研修名	第2回越前市「地域クラブ活動」指導者研修会
講師	民間クラブ団長
研修内容	指導におけるハラスメントや安全管理 等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会やPTA連合会等において、今後の見通し等の説明を実施した。
- 各競技団体に、地域クラブ活動の理念や方針、今後の方向性について、説明会を7月に実施した。
- 指導者の派遣に関して、各競技団体に支援を要請した。

取組の成果

- 中学校校長会やPTA連合会等を訪問し、学校の協力を求めた。指導者の確保についても、お願いしている。市内中学校の全ての生徒に募集チラシの配布を行うだけでなく、生徒・保護者向け説明会（計3回）を8月に実施した。その結果、令和7年度後期は、780人の参加があった。

今後の取組における課題

- 専門的な知識や経験を有する指導者の確保が課題となっている。特に平日部活動の地域展開を見据えた場合、活動種目や活動日数の拡大に対応できる指導者数が不足することが想定される。継続的な指導者確保に向けては、競技団体、大学、民間企業等との更なる連携強化が必要である。
- 生徒の活動場所までの移動について、保護者送迎への依存が大きく、居住地域や家庭環境によって参加機会に差が生じる可能性がある。活動場所や移動手段の確保については、学校、地域団体、関係機関等との協力体制の構築が必要となっている。

課題への対応方針

- 競技団体、大学、民間企業等との連携を検討し、指導者の発掘・確保を進めるとともに、指導者研修の充実により資質向上を図る。また、平日部活動の地域展開を見据え、多様な人材が地域クラブ活動に参画できる体制づくりを進める。
- 保護者送迎の負担を軽減するため、生徒が在籍する中学校からできるだけ近い距離での活動場所で確保するようにする。
また、移動手段が確保できないかについて、検討を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 令和6年度に引き続き、令和7年度も全ての運動部の部活動に関する地域クラブ活動を設置した。
- 参加人数により、活動量が確保できるように、1か所または2か所で活動できるようにした。
- 他市町のコーディネーターと適宜、協議を行い、方向性の確認を行ったり、今後の連携の可能性について、話し合った。

取組の成果

- 参加人数に応じて活動場所を複数確保したことで、活動量の不足や過密な活動環境を防ぐことができた。
- 他市町のコーディネーターと継続的に協議を行うことで、アプリの活用方法や保護者負担の割合など、今後の運営に関する方向性を確認することができた。
- 地域クラブ活動の運営方針や指導方法、活動場所の確保、鍵の開錠・施錠等の実務的な課題についても情報共有を行い、円滑な活動運営に向けた知見を得ることができた。

今後の取組における課題

- 生徒が居住地や在籍校に関わらず多様な活動機会を確保できるよう、広域的な活動体制の整備を進める必要がある。その一方で、生徒が他市町の地域クラブ活動へ参加する場合の大会参加資格や所属の取扱い、活動に関するルール等については整理が必要である。
- 広域的な連携を進めるに当たり、市町ごとの運営方法や保護者負担の考え方などに違いがあることから、関係自治体や競技団体との継続的な協議が必要となっている。

課題への対応方針

- 他市町のコーディネーターや関係競技団体との情報共有及び協議を継続し、広域的な活動を行う生徒の大会参加資格や所属の取扱い等について整理を進める。また、国・県の方針や他自治体の事例を参考にしながら、生徒が活動機会や大会参加の機会を損なうことのない体制整備を図る。
- 市町間における運営方法や保護者負担等の考え方について情報共有を行う。また、広域的な連携の可能性を探りながら、生徒が居住地や在籍校に関わらず継続して活動できる環境整備を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 子どもが地域でスポーツに親しむ機会を確保するため、令和7年度には、中学校で行われている全ての部活動に相当する地域クラブ活動を設置する。
- 各地域クラブの情報を共有し、よりよい方向性を話し合い、実際の運営に生かすため、地域クラブの運営責任者（種目コーディネーター）の実務者会議を4回開催する。

取組の成果

- 各地域クラブ活動の指導内容を越前市の理念や方針に沿ったものにするため、指導者研修会や実務者会議を開催し、参加している生徒が満足できる活動になるよう心掛けた。各地域クラブにおいて指導方針や運営上の課題について情報共有を行うことで、クラブ運営の充実につながった。
- 参加者のアンケートでは、「楽しく活動できる」と回答した生徒が9割を占めており、生徒が地域で継続的にスポーツへ親しむ機会の確保につながった。

今後の取組における課題

- 生徒が地域クラブ活動の運営や企画に直接参画する機会が十分ではなく、主体的に活動をつくり上げていく仕組みづくりが必要である。
- 新たな競技の地域クラブ活動の実施については、指導者や活動場所の確保、参加希望者数の把握などが課題となっている。
- 地域クラブ間での情報共有や連携をさらに進め、継続的で安定した運営体制を構築する必要がある。

課題への対応方針

- 生徒の地域クラブ活動への直接的な運営参画を進めるため、参加生徒同士による話し合いや意見交換の機会を企画し、生徒の意見を活動内容や運営に反映できる仕組みづくりを進める。
- 新たな競技の地域クラブ活動の実施を検討するため、関係競技団体との協議を行うとともに、指導者や活動場所の確保に向けた調整を進める。
- 実務者会議等を活用して地域クラブ間の情報共有を継続し、各クラブの運営改善や活動の充実につなげていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○子どもが地域でスポーツや地域クラブ活動を継続して実施できる環境を整備・支援するなかで、実証事業により活動場所や運営体制を確保し、参加費用の一部を公的に負担することで、保護者の経済的負担を間接的に軽減する。あわせて、誰もが参加しやすい環境づくりを進め、地域クラブ活動への参加機会の確保を図る。

取組の成果

- 令和7年は、保険料以外を委託料で賄ったため、参加者の費用負担を抑えた。
- 今後、保護者等に負担が見込まれる参加費を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施したため、地域クラブ活動の活動場所に係る参加者の費用負担を抑えることができた。
- 各クラブの運営費を抑えるため、集金業務や出欠確認を行うことができる連絡アプリの導入を検討した。

今後の取組における課題

- 地域クラブ活動が将来的にも持続可能な取組となるよう、参加費と公的負担の適切なバランスを検討し、安定した運営財源を確保する必要がある。
- 経済的に困難な世帯の生徒が地域クラブ活動に参加する場合の参加費負担への配慮が必要であり、支援制度の内容や対象範囲について継続的に検討していく必要がある。
- 実証事業終了後も参加しやすい環境を維持するため、保護者負担の急激な増加を抑制しながら、地域クラブ活動の継続的な運営方法を構築していくことが課題である。

課題への対応方針

- 令和7年度で実証事業が終了するため、参加費と公的負担のバランスを考えながら、令和8年度から令和13年度に向けて、参加費が低廉な金額となるよう、計画的に地域クラブ活動の参加費を検討し、適正な負担の在り方を研究する。
- 令和8年度から経済的困窮世帯の生徒が地域クラブ活動に参加する場合に、参加費等助成を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



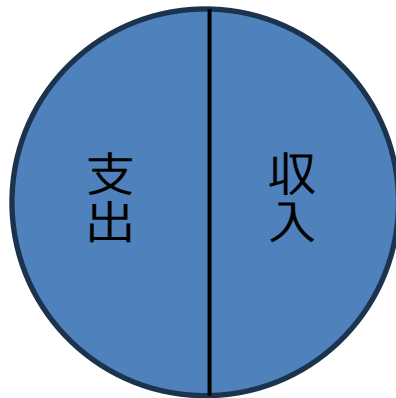
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

＜モデル事業終了後＞

スポーツ活動のため少人数指導になる協議については指導者数も抑えられ、参加者数20人程度を想定した場合、受益者負担と運営経費とのバランスが取れた収支となる。指導者謝礼や保険料等を含めた必要経費を参加者で負担することで、地域クラブ活動として継続可能な運営が可能となる見込みである。



令和7年越前市教育委員会作成

＜実証事業終了後＞

指導者謝礼（1人）：4,800円（3時間）（A）

参加生徒数：20人（B）

受益者負担（1回）：

指導料240円（ $A \div B$ ）＋諸雑費260円＝500円

月4回活動した場合：500円×4回＝2,000円

（保険料・アプリ代を含む）

※参加生徒数20人を想定した試算であり、受益者負担を抑えながら持続可能な地域クラブ活動の運営が可能となるよう設定している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施した。
- 中学校校長会に協力を求め、優先的に休日の施設使用ができるように依頼し、学校の施設を地域クラブ活動で使用した。
- 市の施設についても、担当課の協力を得て、優先的に施設使用を行った。

取組の成果

- 中学校の施設は、バレーボール、サッカー、バスケットボール、軟式野球、バドミントン、卓球の全ての活動で使用した。学校施設を活用することで、生徒が活動しやすい環境を確保するとともに、安全面にも配慮した活動を実施することができた。
- 市の施設は、陸上、剣道、ソフトテニス、柔道の全ての活動で使用した。各競技の特性に応じた施設を活用することで、活動内容の充実を図ることができた。

今後の取組における課題

- 活動場所の確保。今後も全ての地域クラブ活動を安定的に実施するためには、学校施設及び市施設の継続的な利用について関係機関との調整が必要である。
- 冬季の屋外競技の活動場所の確保。積雪や悪天候により屋外施設が使用できない日があるため、代替施設の確保や活動内容の工夫が必要である。
- 地域クラブ活動の拡大に伴い、休日や他団体の利用との調整が必要となることから、施設利用に係るルールや調整体制の整備が課題である。

課題への対応方針

- 当市では、全ての部活動を地域クラブ活動で実施しているため、教育委員会と中学校校長会が継続して協議を行い、学校施設を安定的に利用できる体制を維持する。
- 屋外の競技については、冬期間は荒天の日が多いことから、次年度以降も体育館利用を含めた代替施設の確保を検討し、安定した活動機会の確保に努める。
- 施設利用に関する課題や要望を定期的に把握し、関係団体との情報共有を進めながら、競技ごとの実情に応じた活動場所の確保に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 改革実行期間の取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組を実施した。平日の活動に関する課題や運営方法について関係者間で協議を進めるとともに、地域移行後の円滑な活動実施に向けて課題の抽出や課題解決策の検討を行った。また、生徒が継続して活動できる体制整備についても検討を進めた。

取組の成果

- 今後の平日の地域移行を見据えて、中学校の部活動指導員を増員するよう予算化し、計画的に配置を進めている。これにより、平日の指導体制の充実に向けた基盤整備を図ることができた。
令和6年度：7人
令和7年度：8人
令和8年度：8人（予定）

今後の取組における課題

- 平日の指導者の確保。休日の地域クラブ活動だけでなく、平日の活動についても継続的かつ安定的に指導できる人材の確保が必要である。また、地域クラブ活動への移行を円滑に進めるため、平日の活動を支える指導者が無理なく継続して活動に参加できる体制を構築するとともに、競技団体やスポーツ関係団体との連携を強化しながら、指導者の発掘・確保及び育成を進めていくことが課題となっている。

課題への対応方針

- 平日の指導者の確保について、スポーツ少年団や競技団体との協議を進めるとともに、新たな指導者人材の発掘や確保に取り組む。
- 部活動指導員や地域指導者等の活用を進めながら、平日の活動を支える人材の拡充を図る。また、関係団体との連携を強化し、競技ごとの実情に応じた指導体制の整備を進める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 全国的に少子化が進む中、子どもが地域でスポーツや文化に親しむ機会を確保するため、現在、全国的に休日部活動の地域クラブ活動への移行が進められている。
- 本市においても、中学校における部活動のあり方について、令和5年度から「越前市の子どもの新たな活動環境に係る検討委員会」、令和6年度からは、「越前市の子どもの新たな活動環境構築に係る協議会」により、越前市における、新たなスポーツや文化芸術の活動環境構築について検討し、次のように越前市の基本的な考え方をまとめた。

（1）少子化等の中でも将来にわたり越前市の子どもたちが、スポーツや文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保する。

（2）越前市の子どもたちが、自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じ、自己実現を図りながら活動することができる場を整備する。

（3）地域の持続可能で多様なスポーツや文化芸術の環境を一体的に整備し、過度に専門性を追求するのではなく、子どもたちが気軽に参加できるように受益者の負担をできるだけ減らし、多様な体験機会を段階的に確保する。

- この方針に沿い、地域クラブ活動を展開している。

●成果の評価

- 令和5年度には、ソフトテニスと剣道の休日の地域クラブ活動を立ち上げた。
- 令和6年度には、新たに軟式野球、サッカー、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、陸上、柔道の地域クラブ活動を立ち上げ、10の地域クラブ活動を運営している。この結果、本市の中学校に設置されているすべての運動部の種目に相当する地域クラブ活動が整備された。
- 指導者の確保については、総括コーディネーターが競技団体やスポーツ少年団と協議し、人材を発掘し、総数137人の指導者を確保している。
- 指導者の質については、総括コーディネーターの巡回や実務者会（各運営団体の代表者）、指導者研修会の実施により、指導方法や練習方法に助言を与え、生徒のアンケートによると89%が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えている。

●今後に向けて

- 課題としては、持続可能な「地域クラブ活動」の在り方や今後の参加費の在り方、また全ての地域クラブ活動が複数校区（市内全校区）の生徒を受け入れているが、交通が弱い地域であるため練習場所等へのアクセス方法が課題となっている。
- 令和8年度は、この課題の解決に向けて研究していく。

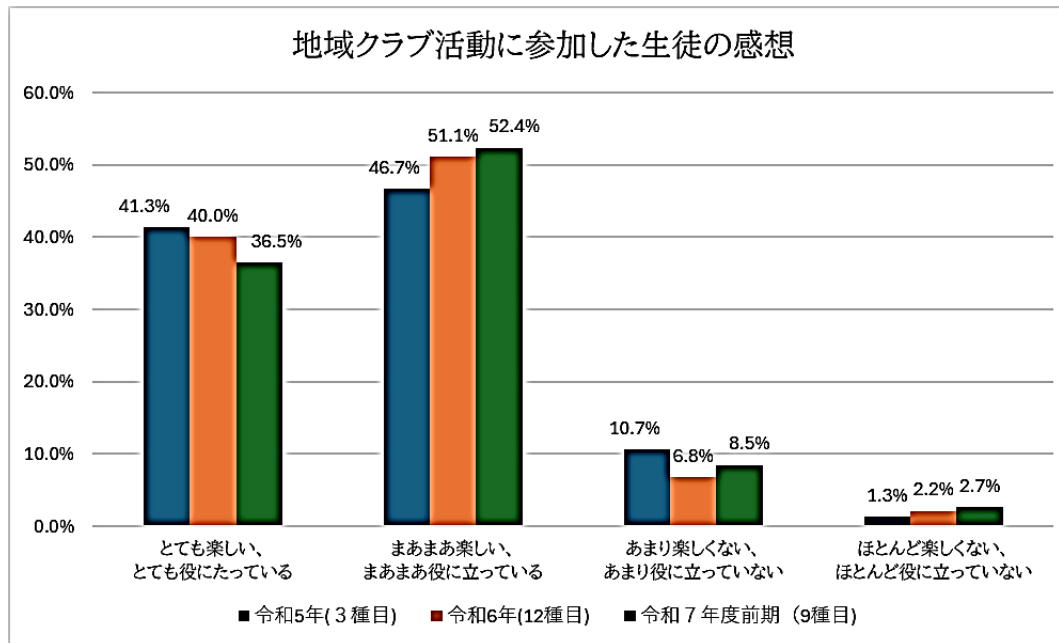
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

生徒のアンケート結果

(回答数：令和5年度 75名 令和6年度 325名 令和7年度 636名)



●参加者/関係者の声

【生徒】

- ・ レベルにあった指導を受けることができる。
- ・ 先生方が丁寧に教えてくれたしすごくわかりやすかった。
- ・ 専門的な指導を受けることができる。
- ・ 指導者の方がよく声を掛けてくれていた。
- ・ できるようになったことがある。
- ・ 楽しく練習できる。
- ・ 他の学校と一緒に試合や活動ができたのが楽しかった。
- ・ 日頃の学校部活動に生かすことができる。
- ・ 去年はアップが長く、練習ばかりで楽しくなかったが、今年はゲーム練習や、ほかの学校と試合ができて楽しかった。
- ・ もっと活動したい。

【保護者】

- ・ 試合形式の練習ができたのが良かった。
- ・ 他の中学校の人と練習できることがよい。
- ・ アプリでスケジュールや活動状況がわかるのは大変良かった。
- ・ 子どもが活動を楽しみにしていた。
- ・ しっかり活動していただきありがたかった。

2.実証内容と成果③

参考資料



【サッカー】



【バレーボール】



【陸上】



【柔道】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、PTA連合会、競技団体、スポーツ少年団、市長部局、市教委、総括コーディネーター、各種目の代表

●経過

令和4年度より地域クラブ活動の協議会を設置し、令和5年度からは、剣道連盟とソフトテニス連盟の協力を得て、2種目をモデル事業として、地域クラブ活動をスタートさせた。また、各運営団体の代表による実務者会議を設置し、課題について、競技する場を設置した。令和6年度からは、市内の中学校に設置している部活動全ての種目の地域クラブ活動を実施した。

●実施内容、工夫した点 等

10月からは市内8中学校の20部活動において月2回～3回、休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する取組を開始した。地域クラブ活動は全10クラブが実施された。全てのクラブは、市内のどの中学校からも参加可能である。活動は、市の中学校や市の施設を優先的に使用している。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、連絡や出欠報告等の運営団体の負担が大きいとの指摘があり、Formsやホームページの活用を図った。現在は、保護者の送迎を基本としているため、会場のローテーションを試験的に行ったが、会場の間違いや備品の移動等の問題があった。

令和6年度は、会場の設定を各家庭から20分以内との基準を設け、活動場所を調整している。しかし、アンケートでは、送迎の負担が指摘されているので、デマンド交通等の導入も含め、市内部の協議を進めていく。

今後の展開

大会への参加のあり方を含め、令和7年度8月までに、学校の状況、保護者や生徒の意向を踏まえ、どのような形態で、地域クラブ活動を行っていくかについて、検討していく。その結果を受け、令和7年10月からは、中学校の部活動全てに相当する、休日の地域クラブ活動を毎週実施する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和6年	令和7年	令和8年～
・実証活動の増加 【新規】 - 柔道 - 陸上 - 卓球 - バスケットボール - バレーボール - バドミントン - 軟式野球 【既存】 - ソフトテニス - 剣道 ・指導者講習の確立	・実証活動の活動日の増加 令和6年 月2回から3回 令和7年 全ての休日 ・指導者研修会の開催 ・生徒の交通手段の研究 ・実証事業終了後の参加者負担額の検討	・地域クラブ活動の種類の増加 (障がいのある生徒を含めた活動) (いろいろな種目を含めた活動) ・指導者研修会の開催 ・生徒の交通手段の研究 ・適正な参加者負担による地域クラブの自走化

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県永平寺町

自治体名： 福井県永平寺町
担当課名： 教育委員会学校教育課
電話番号： 0776-61-3937

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	94.43km ²
人口	17,499人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	446人
部活動数 (運動部活動のみ)	17部活
地域クラブ活動数	10クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

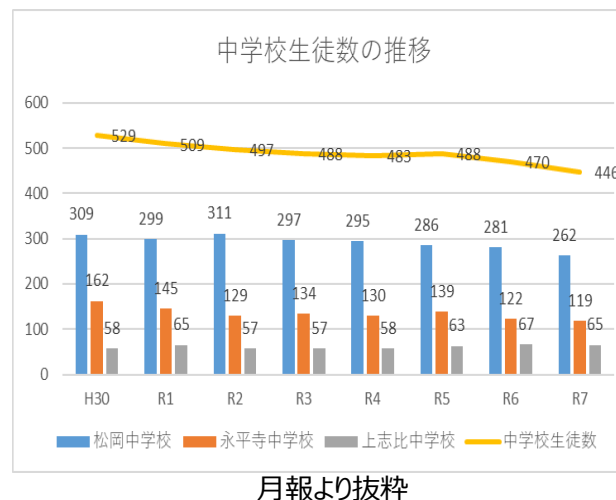
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本町の中学校は3校あり、生徒数が262名、119名、65名の小規模校となっているが、少子化に伴う生徒の減少により、今後、一層、存続が難しい部活動が出ることが予想されている。部活動は、任意加入としているが、多くの生徒が加入し活動している。

平成31年3月に「中学校における部活動の方針」を策定。部活動の意義・目的の共有、適切な運営のための体制を整備し、活動時間、部活動数、1部活を複数教員で指導する、適正な休養日等の設定等を示している。

令和6年度においては、部活動地域移行推進準備会を設置し、令和7年度より休日の活動を地域移行クラブに移行するという町の方針を定め、地域移行の課題（主に財政支援の検討）について協議し、令和7年度からの休日の活動の地域移行に向けて体制を整備した。

令和7年度は試行的ではあるが地域移行クラブで休日の活動を開始。実際に活動を行う中で見えてくる課題の解決や、クラブの運営費の面について受益者負担の仕組みを構築していく点が今後の課題であると考えられる。

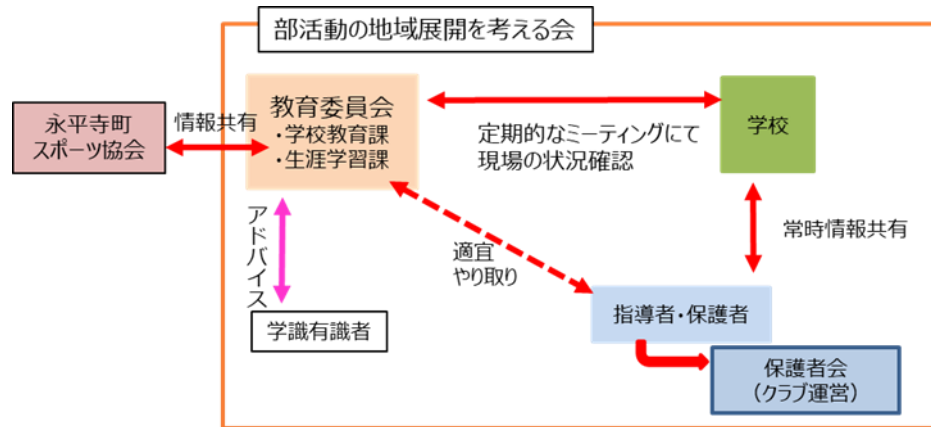


区分	児童(人)	教員(人)	部活動数	内運動部
松岡中学校	262	26	11	9
永平寺中学校	119	15	7	5
上志比中学校	65	18	4	3
合計	446	59	22	17

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

（学校教育課）

各学校、地域指導者に連絡調整、助言を行う。
地域展開について保護者、指導者への情報提供、調整。

（生涯学習課）

施設利用について調整

◎各学校

地域指導者との連携。平日と土日の指導内容の共有等。
保護者会への連絡調整。

年間の事業スケジュール

- 4月 休日の部活動を地域移行クラブで開始
中学校代表と施設利用について会議
(考える会)
- 5月
- 6月 各中学校校長と現状について情報共有
(考える会)
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月 保護者説明会（考える会）
小中学校の校長と地域展開について共有会
(考える会)
- 11月 地域指導者意見交換会（考える会）
- 12月 教育委員会と中学校代表にて施設割振り会議
- 1月
- 2月 地域展開説明会（次年度に向けて）
地域指導者・保護者会代表（考える会）
- 3月

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		10クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（および移行された部活動数）		10クラブ（15部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		該当なし
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	14人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
松岡剣道クラブ	町教委	剣道	・休日23回	9:00～12:00	1年生4人 2年生9人 3年生5人	4月～9月	3人	3人 (内、兼務2人)	1,500円/月	地域移行クラブ
永平寺中学校 女子バドミントン部地域移行 クラブ	町教委	バドミントン	・休日31回	9:00～12:00	1年生3人 2年生5人 3年生7人	4月～1月	2人	3人 (内、兼務2人)	500円/月	部活
松岡ジュニアソフトボールクラブ	町教委	ソフトボール	・休日23回	9:00～12:00	1年生7人 2年生6人 3年生9人	4月～9月	5人	3人 (内、兼務2人)	15,000円/年額	部活

③その他、体験会やイベント等の開催実績

無し

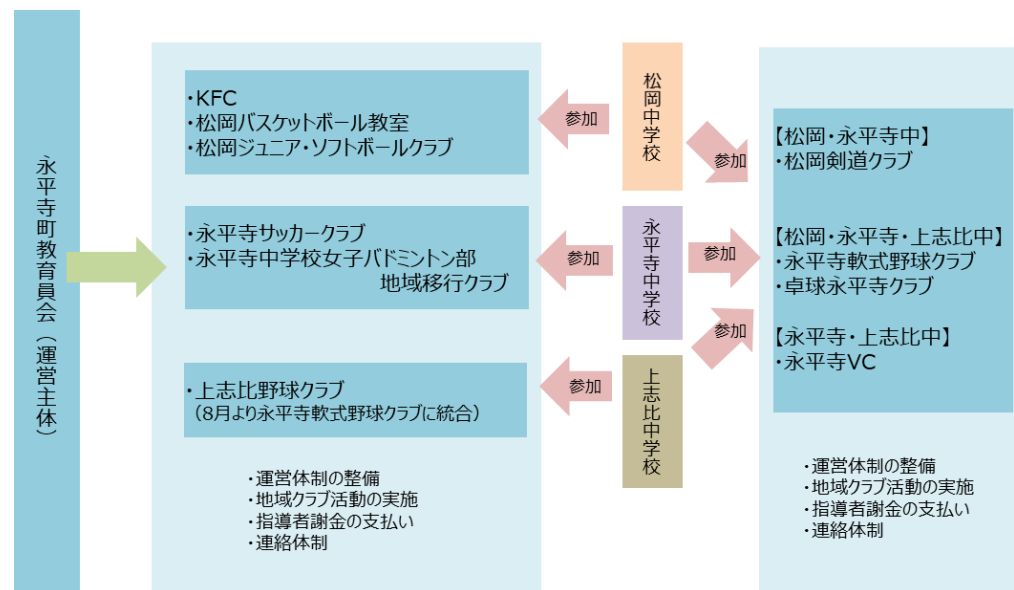
2.実証内容と成果

主な取組例

●松岡剣道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	松岡剣道クラブ
期間と日数	剣道：月4回程度
指導者の主な属性	競技経験者
活動場所	松岡中学校武道場
主な移動手段	徒歩・自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等 (年額)	剣道：18,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 自治体
役割：クラブ運営のバックアップを行う。
- 指導者 3名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う。
- 運営補助者 3名
役割：指導者、学校、保護者との連携、活動報告とりまとめを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

部活動の地域展開を考える会の実施

(旧部活動地域移行推進準備会)

町内の3つの中学校と町教育委員会、地域指導者、保護者代表との連絡調整や地域展開の状況確認を行い、地域移行の課題を協議し、体制整備を行う。

- ・小学生の保護者と教員向けに、今後の部活動の地域展開について説明会を実施。
- ・学校、指導者、保護者代表、教育委員会にて意見交換会を実施（状況確認と課題について協議）
- ・各中学校の代表との定期的ミーティングの実施。現状確認や協議。

取組の成果

昨年の部活動地域移行推進準備会を部活動地域展開を考える会とし、今年度は小学生の保護者や教員向けにも説明会を実施し、幅広く今後の部活動の地域展開について周知することができた。

保護者に対する説明会 令和6年3回 → 令和7年6回
また、今年度は各中学校の代表と定期的にミーティングを実施。部活動と地域移行クラブの連携状況の確認や、地域移行クラブの状況について確認・課題の共有を行うことができた。（4月・8月・11月・2月の年4回。その他、不定期に学校毎に実施。）

今後の取組における課題

- 施設の利用について
 - ・利用の優先度を上げて欲しい
 - ・利用の割り振りについての連携
 - 運営主体の整備
 - ・指導者の確保と質の向上
 - 実施主体の整備
 - ・自走体制の強化。
- 収支を鑑みた活動（活動回数・指導者数）

課題への対応方針

- 施設の利用について
→中学校の学校体育施設について、土日いずれかの日中を地域移行クラブ利用枠とした。（基本土曜日）割り振りについては、地域移行クラブと学校で連携を行い、学校で割り振りを行うこととする。
- 運営主体の整備
→保護者や協会等と連携し、地域で指導者を確保する体制を目指す。教員の兼職兼業の環境整備。
- 実施主体の整備
→規約の再整備やクラブ会計の強化。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

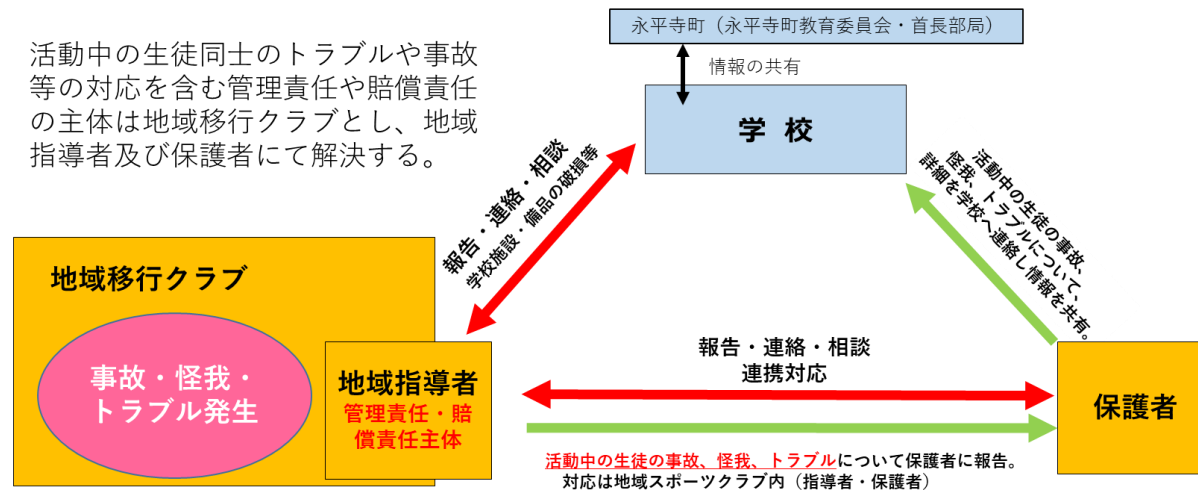
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応・事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との適切な連絡調整については、令和5年度に整備済みであるが、再度、来年に向けて整備を各クラブにて行うことを周知した。

活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含む管理責任や賠償責任の主体

活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含む管理責任や賠償責任の主体は地域移行クラブとし、地域指導者及び保護者にて解決する。



①活動中の生徒の事故、怪我、トラブル発生時は地域指導者より保護者に連絡し、生徒を引き渡す。

- ・応急処置が必要な場合や緊急の場合（救急車の手配）は地域指導者が対応。
- ・受診が必要な場合は保護者対応。
- ・個人加入のスポーツ保険を利用する。
- ・活動中の生徒の事故、怪我、トラブルについて保護者に報告。

②地域指導者より連絡を受けた後

- ・受診が必要な場合は保護者対応。
- ・個人加入のスポーツ保険を利用する。
- ・活動中の生徒の事故、怪我、トラブルについて、詳細を学校へ連絡。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

町が地域指導者を委嘱し、地域移行クラブに派遣。
一定期間、指導者の報償を一部公費から支払い、参加費用の負担の支援を行った。
令和7年度は、試行的に地域移行クラブを保護者会が運営して活動し、収支構造のバランスの検証を行った。

取組の成果

4月から1月の活動期間について、下記の表の通り指導者の報償の一部を公費から支払い、受益者の負担を軽減することができた。また、クラブの運営については、指導者謝礼が支出の多くを占めることがわかり、今後も指導者謝礼を中心に、公的支援の必要性を実感した。

今後の取組における課題

参加費負担の支援については今後も継続するが、クラブが自走できるような体制整備について今後も検討が必要。
指導者謝礼の単価やクラブの会費についても、協議が必要。

課題への対応方針

今後も、部活動の地域展開を考える会等で、状況確認と意見交換を行い、地域移行クラブの現状を把握。行政が行う支援について、引き続き検討、実施する。
次年度については、会費収入分では賄えない指導者謝金分を町がクラブに支援する。

▼クラブ別 公費負担分謝金額 時給 1,600円

	松岡ジュニアソ フトボールクラ ブ	松岡剣道クラ ブ	永平寺VC	永平寺町軟式 野球クラブ	永平寺中学校 女子バドミント ン部地域移行 クラブ	卓球 永平寺ク ラブ	KFC(松岡サッ カー教室)	上志比野球ク ラブ	永平寺サッカー クラブ	松岡バスケット ボール教室
登録指導者数(人)	5	3	3	4	2	5	2	1	2	1
合計指導時間(h)	234	174	123	202.5	171	165	117	45	36	8.25
謝礼金額(円)	374,400	278,400	196,800	324,000	273,600	264,000	187,200	72,000	57,600	13,200

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランスおよび持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

【モデルケース】

検証期間（4月～翌年1月末）
月4回活動（平均） 謝礼単価 @1,600円
指導者 3人（毎回3人の同時指導ではない）
生徒 18人（1年生4人・2年生9人・3年生5人）
※学年で活動参加期間は異なる。

【収入】

○クラブ会費 219,000円
○町からの支援（指導者謝礼金） 278,400円

学年	1年生	2年生	3年生	合計
人数	4	9	5	18
活動期間	5月～1月	4月～1月	4月～7月	
会費収入	54,000円	135,000円	30,000円	219,000円

【支出】

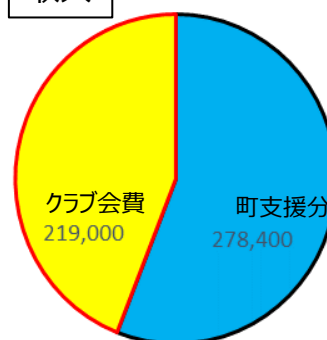
○謝礼金額 417,600円
指導者3人 謝礼時給1,600円

町からの支援4月～9月
○278,400円
クラブ自走 10月～1月
○139,200円

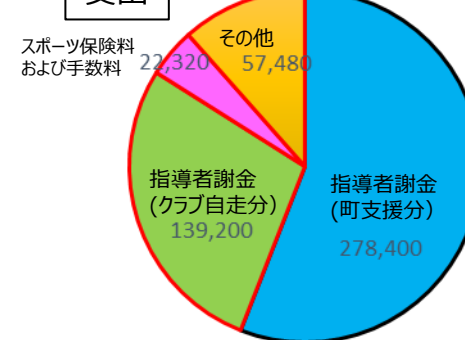
指導者	A	B	C	合計
指導回数	30	32	26	88
指導時間(h)	90	94.5	76.5	261
謝礼金額	144,000円	151,200円	122,400円	417,600円

○スポーツ安全保険料（生徒・指導者） 21,900円
○スポーツ安全保険振込手数料（3回分） 420円
○その他（積立等） 57,480円

収入



支出



学年	1年生	2年生	3年生	合計
人数	4	9	5	18
活動参加期間	5月～1月	4月～1月	4月～7月	
会費収入	108,000円	270,000円	60,000円	438,000円

今年度は町の謝礼支援があったため、収支会計はプラスとなったが、現在の会費1,500円ではクラブ運営は難しい。仮に試算すると3,000円であれば、今年度の活動の謝礼分については町の支援なしで支出可能＝クラブ自走が可能となる。

（スポーツ安全保険料は別途徴収）

謝礼金額417,600円+手数料420円=418,020円<会費収入438,000円

また、支出の大半が指導者への謝金を占めることから、一回の活動時の指導者数について、クラブ収支を鑑みて受益者の負担が大きくなりすぎない程度で適切な人数を配置する工夫等も次年度からは必要である。

会費の設定については、目安としては国が目安とする金額と同様に、月1,000円～3,000円程度が適切。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

受益者負担と財政支援のバランス

支出	その他	スポーツ安全保険料・手数料	指導者謝礼	消耗品・中体連バス借上げ等
	受益者負担		補助金にて支援	平日の部活動で町が負担
収入	クラブ会費		町の支援②←不足分	町の支援①

【部活動予算・・・学校予算】町の支援①
 ・消耗品費
 ・修繕費
 ・中体連関連の大会参加費
 ・中体連バス借上げ料
 （練習試合は基本、保護者送迎。）

【地域移行クラブ活動予算】
 会費（保護者負担）
 ・指導者謝礼
 ・保険料（指導者・生徒）
 ・その他（大会参加費・活動諸経費）

地域移行クラブに対する補助金等の創設を検討。
 受益者負担軽減のための財政支援を継続。

＜補助金イメージ＞
 会費収入分では賄えない指導者謝金分をクラブに支援する。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

【参加費用負担の支援】

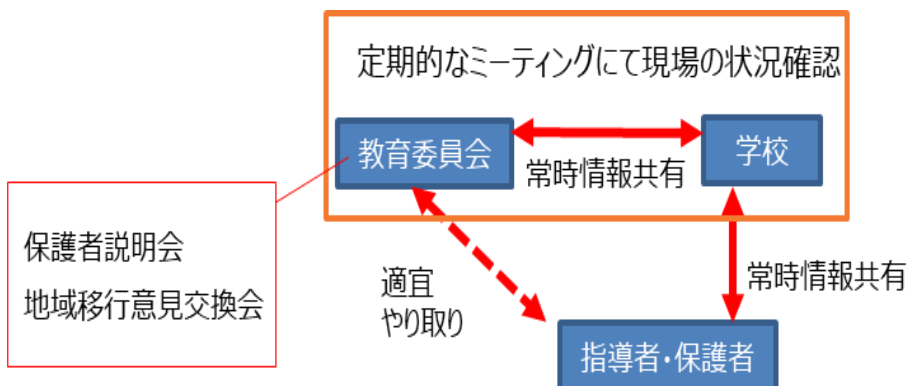
町内3中学校の8種目16の運動部活動の休日の活動を10つの地域移行クラブとして行い、4月から翌年1月迄の活動期間の謝金の一部を公費で賄い、参加費用負担の支援を行った。

【部活動の地域展開を考える会】

昨年度設置した『部活動地域移行推進準備会』を、今年度は『部活動の地域展開を考える会』とし、今年度以降の部活動の地域展開について検討、調整を行った。（主体は教育委員会、学校、地域指導者、保護者代表にも意見を伺った。）

▶主な内容

- ・ 保護者説明会の開催
- ・ 地域移行意見交換会・説明会を実施
- ・ 定期的な地域移行の状況確認



●成果の評価

【参加費用の負担の支援について】

- 指導者謝礼を公費で賄うことで、保護者が金銭的負担はなく、活動を行うことができた。（活動場所の学校体育施設は町の方針により無償で利用。）

【部活動の地域展開を考える会について】

- 部活動の地域展開について、広く保護者に周知することができた。
- 今年度のより試行的に休日の活動を地域移行を始めたが、状況確認や新たな課題について協議することができた。（施設利用の割振りについて）
- クラブの運営について試行的に保護者会で行う中で、受益者公的資金の適切なバランスを検証。次年度以降も行政の財政支援を継続することとなった。

上記の成果より、本町においては令和7年度より、休日の部活動を地域移行クラブに移行して活動することで、改革実施期間に向けて、休日の部活動の地域移行を促進した。

●今後に向けて

今年度は試行的に、保護者会が主体となり、地域移行クラブを運営し、休日の部活動を地域移行クラブに移行。指導者の謝礼については受益者負担だけではカバーが難しく、今後も財政支援が必要である。施設の利用については、割振りについて体制を整備する必要がある。今後も、町が運営主体として継続的に実施主体であるクラブに対してバックアップを行い、地域と行政が連携して平日の活動も視野に入れた部活動の地域展開を模索していく必要がある。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●保護者説明会と地域移行意見交換会の開催

当初、アンケートの実施を予定していましたが、地域展開を考える会主催で、保護者説明会および関係者にて地域移行意見交換会を開催し、対面にて意見交換を行い、アンケート実施に変更した。

【保護者説明会】



保護者① チャレンジできる選択肢が広がったと感じている。小学校での習い事を続けることができるようになった。
保護者② 勝ち負けにこだわらない、楽しむためのクラブが欲しい。
保護者③ 指導者の謝金について支援して欲しい。→今後も町の支援継続予定。

日付	時間	場所
10月22日	18:30～	志比小学校
10月23日	18:30～	松岡小学校
10月24日	18:30～	志比南小学校
10月27日	18:30～	御陵小学校
10月28日	18:30～	吉野小学校
10月29日	18:30～	上志比小学校

【地域移行意見交換会】

【日 時】11月26日（水）19:00～

【会 場】永平寺開発センター3階大ホール

【参加者】指導者11名 保護者会代表 8名 中学校長3名 教頭3名



指導者① 地域移行クラブは施設を優先的に利用させてもらっている。半面ずつ利用する時に、試合がバッティングする可能性もあるので、地域移行クラブ同士で連携して決める場があると良い。→連携体制の整備
指導者② 団体競技は、チームを組めなくなる可能性もあるので、今後は町外からの生徒の受入についても考える必要がある。→今後検討。

2.実証内容と成果③

参考資料



【松岡剣道クラブ（間合いの指導）】



【松岡ジュニアソフトボールクラブ（バッティング指導）】

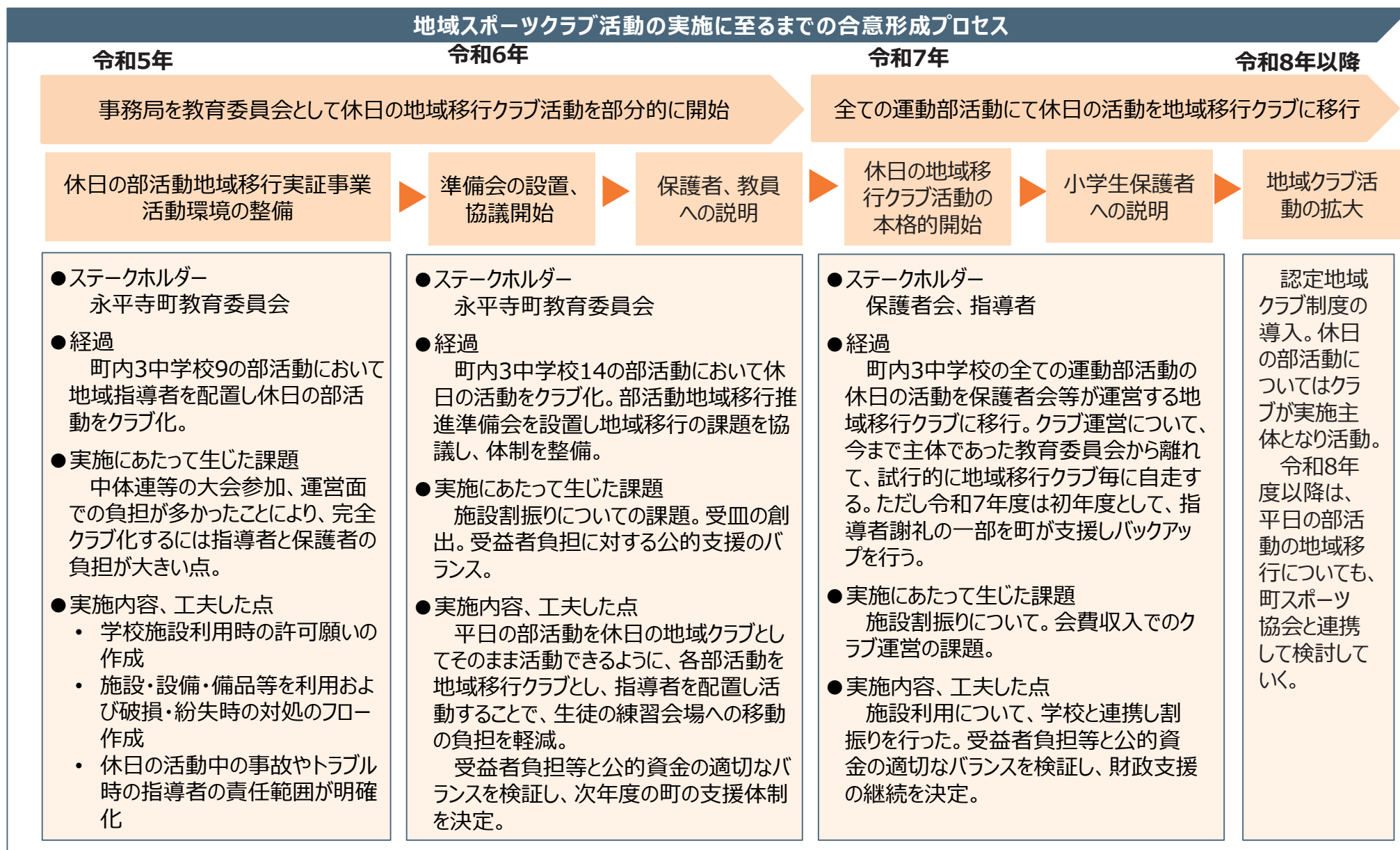


【永平寺VC（レシーブ指導）】



【永平寺軟式野球クラブ（試合中のアドバイス）】

2.実証内容と成果



3. 今後の方向性

